

経 済 研 究 調 査

No14

アルゼンティンにおける蔬菜および果樹
の生産、加工、流通に関する調査報告書

昭和57年12月

国際協力事業団

移計調

J R

82-17

国際協力事業団	
受入 月日 '84. 4. 11	701
登録No. 03336	85.6
	EPS

は　じ　め　に

本書は、国際協力事業団が毎年実施している「中小企業移住調査」の一環として、アルゼンティンの当団現地支部が農牧技師、サンティアゴ・A・ディアス・バルデス氏に委託して実施した「アルゼンティンにおける蔬菜及び果樹の生産、加工・流通に関する調査」の報告書を日本語に訳し、当団移住計画調査部調査課で再編集の上、経済研究調査№14として発刊するものである。

本書は、アルゼンティンに於ける農産物の生産流通状況を把握する上で格好の書と思われる。

本書が業務資料として活用されるばかりでなく、移住を希望する企業者、あるいは、移住者に役立てば幸である。

昭和57年12月

移 住 計 画 調 査 部 長

JICA LIBRARY



1054027[6]

目

次

1	総論 蔬菜及び果樹の生産流通	
1.1	一般的特徴	1
1.2	首都圏への供給	1
1.3	卸売市場の一般的機能	2
1.4	首都圏の主要卸売市場	4
2	各論	
2.1	トマト	8
2.2	ニンニク	20
2.3	タマネギ	25
2.4	エンドウ	32
2.5	イチゴ	41
2.6	モモ	43
2.7	リンゴ	54
2.8	ナシ	66
2.9	オレンジ	76
2.10	レモン	82
2.11	グレープ・フルーツ	90
2.12	ミカン	97
2.13	大豆	103
2.14	落花生	112
2.15	ハチミツ	121
3	結論	

<参 考 資 料>

附属資料

国益のための市場法No.19227

度量衡

1 総論 蔬菜及び果樹の生産・流通⁽¹⁾

1.1 一般的特徴

アルゼンティンは、必要とする食糧の殆んど全てを自給し、多量の余剰農牧品を輸出している。

蔬菜及び果樹の生産は、その大部分が特定の地域で行われているが、中でもブエノス・アイレス州が最大である。一方、消費は、主要都市、特にブエノス・アイレス圏に集中している。

連邦首都及びグラン・ブエノス・アイレスの一人当りの果物及び野菜の消費量は、所得水準、消費性向が高いため全国平均をかなり上回っている。従って、ブエノス・アイレスへ入荷する新鮮農産物の量は莫大であり、年間270万トンを超えている。

新鮮農産物及びその特殊な性格を考えれば、流通システムは必然的に複雑となるとは言え、これで良いということではなく、生産者及び消費者にとって最も正当な価格と条件が得られなければならない。

一般的に言って、流通される果物及び野菜は、取扱いの悪さがしばしば見られるが、その品質は非常に良い。

生産者段階での選別及び包装は、特に野菜が悪い。一般的に言って農産物は生産者が独自に包装して小売商と取引するが、商品の性質と市場化条件とを考えるとこの包装は決して最適ではない。

果物及び野菜の卸売業者は、ブエノス・アイレスの近郊に点在する市場ネットワーク（約20の市場）に属している。これは、ブエノス・アイレス中央市場会社によって建設された卸売業者単独市場（mercado mayorista único）にとって代わる予定である。この市場の創立とその機能とを定めた法律を付属資料として付けた。

小売商の数は、首都内で約23,000人、首都圏全体では5万人以上となる。

総体的に言って、勤労世帯一戸当りの食糧支出は、全支出の約50%を占めている。この割合は、高所得階層になる程、減少している。

果物及び野菜の消費量は食糧支出の割合に反比例して、増えるため高所得層が主たる消費者である。

INDECによれば、果物及び野菜の消費量は全食糧支出額の12%を占めている。この内、44%が果物、56%が野菜である。

1.2 首都圏への供給

各市場の歴史的発展状況をみれば、中期及び長期計画が欠けている。ブエノス・アイレ

スの人口増加は非常に激しく、殆んど卸売市場のインフラストラクチャは急速に時代遅れとなってしまう。

現在、首都圏の大多数の卸売市場は、貯蔵スペース不足と荷物用の駐車場が無いことが目立っている。その上、市場搬入の際、荷扱いの度数が過度であったり、商品名の明示が無かったり、選別がしばしばなされていなかったりしている。

適切な公共の建物が狭いために、野菜及び果物の取り扱い量が市場の限界を超え、建物の隣接部まで利用され、非衛生的となっている。このことは、都市計画上かつ経済財政上大きな問題となっている。

これらの技術上、取引上、経済上、衛生上及び労働条件上の弊害が重なることにより、流通コストが規則的に上昇し、需要と供給との関係が歪められている。

果物及び野菜の卸売取引が実施されている約20の市場の大部分が民間の所有である。国営ジャガイモ及び野菜中央市場が必然的中央市場(mercados de concentración obligatoria)であったが、この機能は、商業海軍省の決定によって廃止された。必然的中央(concentración obligatoria)とは、首都圏においては、ジャガイモ、にんにく及び玉ねぎは必ずこの市場で第1次販売(primer venta)の取引がされなければならないということを意味する。

サルディアス市場は第1次販売のための市場であって、北西地帯の野菜及び果物を、特に各生産州からの入荷量が少ない時期に取引している。この市場では、仕入れの部分は仲介転売業者による。例外的に大スーパーがここで仕入れる。

大部分の小売業者は、このような特殊な市場に行くことは少なく、近くのドレゴ市場、アバスト仕入市場及びリニエルス市場でどんな野菜や果物でも少量づつ購入している。これが通常小売業者が行っている取引形態である。

ドレゴ市場、アバスト仕入市場及びリニエルス市場の卸売業者はサルディアス市場で仕入れを行ない、通常はこの仕入れ商品をこれらの市場で再販売する。従って、初物商品(primicias)の取引に関しては、これらの三つの市場は大部分が第2次販売市場となる。

又、これらの市場では、別の仲介業者グループが仕入れを行なっていて、その仕入れ商品を地域内の小売業者に直接、再販売をしている。

1.3 卸売市場の一般的機能

1.3.1 業者の種類

市場で活動する業者は生産者、商品受託者、輸入業者及び卸売業者が挙げられる。これらの業者は単一の目的を持つ商人であるが、日常の活動では多くの場合二つ以上の機能を果たするのが普通である。

1.3.2 供給源

首都圏で卸売販売を行なう業者の手に商品が何処で渡されるかにより、第1次販売と再

販売とを区別できる。第1次販売とは、市場化される商品が生産者自身の施設から出荷され、他の生産に受託され、生産地内で仕入れが行なわれることである。輸入品の場合は、直接に市場に入荷される商品に関して第1次販売と言う。再販売とは、首都圏の卸売業者が商品を仕入れる時、この商品を同圏内の他の卸売業者に転売する目的を持つ場合、これを再販売と言う。

1.3.3 卸売りの構造

流通量によって異なるが、卸売業者の約20%が全果物流通量の80%を取引しており、そして、卸売業者の20%が全野菜流通量の70%を取扱っている。

最重要の卸売業者は、一つ又は二つの商品を専門に扱っている。取引量が増えるのに従って、専門化して来る。小規模卸売業者及び再販業者は、数多くの種類の商品を扱っている。

卸売業者の果物取引で商品受渡しの方法は重要な意味を持っている。果物商品は産地で直接買付けが行なわれるが、ときにはまだ果物が実っていない時に売買が行なわれることがある。これは価格の決定に重大な意味を持っている。というのは、生産、包装及び流通に関する危険を卸売業者が負っているからである。野菜の場合は、この危険を生産者が負っている。

1.3.4 法人組織

野菜の取扱業者は個人経営が多く、一方果物の場合は商事会社の法人によって取引されることが多い。

1.3.5 販売方法

二つの明確な方法がある。すなわち、公開の競争でのせり値販売及び非公開販売である。

公開競争せり値販売は、サルディ阿斯市場で実施されている一部の果物と野菜の取引形態である。この販売は、商品を実際に呈示して行なうものである。果物生産者連合は、商品の実際の呈示を行なわず見本により販売し、一方、アルゼンティン果物協同組合は、種類別とした商品の仕様書に基づいて販売している。

未公開販売に関して言えば、買い手と売り手間で販売契約に基づいて取引されており、これが最も普通の販売方法である。小売業者は競売にかけられる最低数量が大きすぎるため、未公開販売によってのみ取引する。

1.3.6 輸送手段

野菜及び果物を産地から首都圏の卸売市場に運ぶため、種々の輸送手段が利用されている。

鉄道輸送の重要性は最近10年間では減少し、現在、運賃がトラック輸送より安いにもかかわらず、全体の20%を占めているのに過ぎない。そして、生産者、商品受託者又は

卸売業者は“戸口から戸口へ”運ばれるトラック輸送を優先し、鉄道利用の際の積替えの追加出費を避けている。

河川輸送は、輸入のパイナップルとバナナにだけ利用されている。

トラック輸送が、野菜及び果物のための主たる輸送手段である。鉄道輸送に比べ利点は多い。各運送会社は特定の商品を専門に扱っており、その平均運送距離は500－1,300kmである。市場へは大部分が、3トンから10トン積みのトラックにより輸送されている。商品の61%が運送業者により、16%が生産者により、そして18%が卸売業者自身によりそれぞれ運ばれている。

1.4 首都圏の主要卸売市場

1.4.1 アバスト供給株式会社

本市場は、コリエンテス街とアンチョレナ、ラバレ及びアゲロの各通りにはさまれた所にあり22,000㎡の広さをもっている。

市場は一つの中央パビリオンで出来ており、この1階と2階がいくつかのパビリオンに分けられ、それぞれエスカレーターが備えられている。2階には小売販売のための場所が用意されている。地下1階は、以前は肉類の公開競争が行なわれていたが、現在は駐車場となっている。地下2階は現在使用されていない。市場から出るゴミは、建物の方々に設けられた取出し口に捨てられ、これが地下3階でトラックに回収される。

市場全体が株式会社の法人組織として機能している。

本市場の総流通量は、首都圏の全ての市場の合計額の24%を占め、果物と野菜とで一年当たり約65万トンである。

本市場は果物あるいは野菜について専門に取扱う商品を定めていないし、また、商品の入荷先に関して特定の産地を定めてもいない。

本市場は最も歴史の古いもので、農民達がブエノス・アイレスの道路上で売っていた果物や野菜を集める目的で設置されたものである。

ここでは、卸売業者と小売業者とが取引を行なう。ここに小売業者が非常に多く集まるのは非常に多種の商品を少量づつ購入出来ること及びブエノス・アイレスからの距離が近いからである。

現在、市場が在る場所は、今では不適當で、商品の輸送コスト及び取扱いのコストを上昇させている。商品の積替えが特に鉄道を利用した場合、度々必要である。同様にトラック輸送も都市内を通過すること及び適当なインフラストラクチャが無いため、荷積みと荷下しが困難となり、このための時間が非常に掛る。

本市場のために、周辺の都市計画に問題を与えており、附近の建物建設を阻害するとともに、市場に出入りするトラックにも悪影響を及ぼしている。これらのことが市場内

のスペース不足と共に、新鮮商品に対し不利な条件を与えている。また、市場内の取引についても、スペース不足に悩まされている。どの場所も商品と空の容器があふれ通路をふさいでいる。柱が多いためにトラックが市場内を自由に移動することができず、荷積みと荷下し作業を手で行なわなければならない。また、エレベーターの利用ができない。スペースが足りないために、適当な衛生設備を設けることができない等の問題をかかえている。

1.4.2 ドレゴ市営市場

連邦首都、ドレゴ、テムス及びサビオラ通りに囲まれ、面積 55,000 m^2 を持っている。アバスト市場よりも混雑の少ない地区に位置しているので、商品の取扱いは本市場の方が容易である。

市場は二つのパビリオンで構成され、一つは野菜の取引のためのもので、他の一つは果物の取引用である。この他に、衛生検査のための区画、検査員の管理事務所及び広い駐車場がある。

本市場は市の所有である。取引を行う業者は許可証所持者である。

本市場の全取扱い量は、年当り約 35 万トンである。現在、16 の卸売会社が市場内及び市場外の建物で取引を行なっている。

本市場は、アバスト供給市場と同様に、連邦首都及びその近郊地区に商品を供給している。仲介業者は、本市場で仕入れた商品を販売区域の狭い小売業者又は市場で直接仕入れを行なうための独自の手段をもたない小売業者に再販売を行なう。

現在、効果の上がっている市場である。荷積み荷下し場が良く整備され、トラックの操作が楽である。

1.4.3 サルディアス市場

連邦首都、サルディアス駅の古い物置小屋に面する所に位置し、その主出口がサルゲロ通りに在る。

首都圏で最も近代的な市場である。取引が迅速かつ楽に出来る様な駐車場の配置となっている。取引が行われる場の広さは 7,000 m^2 で、広大な駐車設備を持っている。

広々としたスペースがとられており、固定した場はなく、慣習的に使用されている。競売は、商品が置かれている場所で各売り手が自分の商品を競売にかける。

民間の所有で、この市場だけの業者である 40 人が株主である。

取扱い量は、年当り約 7 万トンに達している。大部分の農産物は北西地帯及びコリエンテスとサンタ・フェの両州から搬入される。同時に、リオ・ネグロ及びネウケンからの輸出されなかった残余のリンゴと梨も、本市場にて取引されている。

第 1 次販売の市場であり、その取引商品の多くが持つ初物 (Primicias) という性質

上、市場は一年中開かれてはいるが、取引量が集中する月は5月から11月迄である。

典型的な取引方法は公開競売である。買い手は、他市場及び他地区の卸売業者である。

(例：マル・デル・プラタ)

一般的には、冷凍室、倉庫及び熟成室を欠いているので本市場は市場としてでなく単なる競売場と考えられている。市場内へは商品を容器に入れて持ち込むという秩序が出来ている。本市場に入荷した商品は48時間以内に競売にかけられる。

1.4.4 ブエノス・アイレス市市場

首都内、アルシナ、ピチンチャ、モレノ及びマセウの各通りに囲まれていて、土地面積は10,700㎡である。民間的性格を持ち、アバスト供給市場と同一の問題を抱えている。

1.4.5 トレス・デ・フェブレロ市場

トレス・デ・フェブレロ地区(ブエノス・アイレス州)のリサンドロ・デ・ラ・トレス・イ・カルロス・テヘドル街に位置する。広さは32,000㎡、民間の所有であり、生産者・卸売業者協同組合を作っている。

本市場の総取扱い量は年当り40万トンであり、アバスト供給市場と共に、首都圏の最重要市場の二つとなっている。

買い手は、他市場の卸売業者及び小売業者である。販売方法は、非公開販売が自由に行なわれている。

利用者の多い市場で、最新式の安全管理システムを備えている。

1.4.6 アベリャネダ市場

アベリャネダ地区、コロソ、エスパニャ及びウンベルト・デ・サボヤの各通りに囲まれた場所に位置する。所有面積は6,000㎡である。冷凍室はない。不動産の所有者はアベリャネダ地区役場であり、この行政当局が地区内の生産者で大部分占められている協同組合を統括している。

取扱い量は、野菜及び果物で年当り約20万トンに達している。買い手を構成しているのは、他の市場、例えばアバスト、キルメス、トゥルデラ等の市場で活動する野菜販売業者、市場売買業者及び取引業者である。

他の首都圏内卸売市場と同様のインフラストラクチャ及び地域性に関する問題——すなわち、周囲の建物建設を阻害していること、安全性に欠けていること、衛生清潔面に欠陥があること、荷積み荷下げのための駐車場が無いこと、車が市場内を巡回できないこと——等の問題を、本市場も同様に抱えている。

1.4.7 リニエルス市場

リバダビア、ラモン・フアルコン・ホセ・レオン・スアレス及びモンティエルの各通りに囲まれた場所に位置し、8,858㎡の広さを持っている。冷凍室、熟成室、倉庫及び

駐車場を備えている。

民間の所有であり、取扱い量は年当り 35,000 トンと推定される。

本市場で取引を行なう卸売業者は場所を賃貸しているが、これらの業者は主に生産者又は商品受託者である。

1.4.8 ブエノスアイレス新中央市場

完成すると世界最大の市場の一つとなる。現在首都圏に商品を生供給しているいくつかの市場に代わって、本市場が卸売取引の中心となる。この組織に関しては、未だ十分に決定されておらず、激しい論争がおこっている。

ブエノスアイレス州ラ・マタンサ地区の約 500 ヘクタールの土地に建設される。この土地はリチエリ高速道路に面しているが、他にもう一本の道路があって、これが市場とヘネラル・パス街とを直接結んでいる。

中央市場株式会社を、国、ブエノス・アイレス州及びブエノス・アイレス市役所からの代表により構成し、これを国営機関とする。この役割は、新市場の計画、建設及び管理である。

この市場では、各商品の入荷量に関する情報が速やかに用意されると共に、供給と価格に関する情報を定期的に提供しようとするものである。

ここで定期的に活動を行なう売り手は約 1,000 人とし、認可取引業者と生産者とで構成する。買い手は一日当り 10,000 又は 15,000 名とし、これを基本的には小売業者及び機構内買付人により構成する。

本項に関する詳細は、付属書「国営のための市場法」を参照されたい。

2. 各 論

考察を行った事項は、栽培及び生産、生食消費、工業加工それに貿易である。

各商品の栽培及び生産に関しては、該当期間の平均生産額と各生産地毎の生産額とを計算している。

同時に、生食消費商品の消費進捗状況と特徴及び国内市場化について解析を行い、これらの確定データをのせた。又、価格の年毎の解析を行い、それらの比較が出来るように、1981年12月の貨幣水準に直したもので示した。この価格の実質化は国家統計局が作成している一般卸売物価指標に準じて行なった。

ここ迄に述べた各項目に関し得られたデータは非常に膨大なものであるが、工業加工に関するデータはそれ程多くはない。加工製品の生産額、価格及び消費に関する出版物も少ない。

この理由は、第一に、市場に参加する企業がこれらのデータを提出することを嫌っているためであり、つぎに、これに関する調査が少いためである。

アルゼンティン野菜加工会議所がこの調査を行なっているが、各社の回答が十分に得られず、又、提出されるデータの整理も十分にされていない。いずれにせよ、最も正確で興味があると考えられるデータの一部を再編し、本書が最も詳しい調査となるようにした。

貿易に関しては、数量、価格及び輸出国に関する最近の推移を述べている。アルゼンティンは消費する以上の食料を生産している国であるから、輸出が優勢となり輸入は一般的に散発的かつ一時的性格を持っている。以下に、各商品別の解析を行う。

2.1 ト マ ト

2.1.1 栽培及び生産

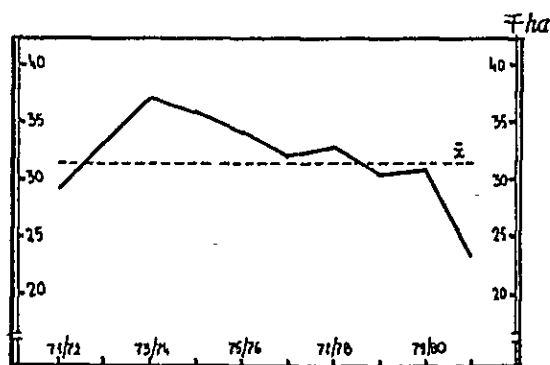
トマトは、我が国の最も重要な栽培野菜の一つである（生産額に関して第2位、栽培面積で第5位）。

殆んど全ての灌漑地帯及び大都市のグリーンベルトで作られている。

最近10年間では、栽培面積は当初、増加傾向を示し、これが1973/74年迄続いた。その後は減少傾向となり、1980/81年には10年間で最低となった（図2.1-1）。通常、栽培面積の90%から収穫が得られている。

州別の作付面積は（図2.1-2）、メンドサ

図 2.1-1 トマト：栽培面積の推移（千ha）



出典：農牧省のデータに基づき独自に作成したもの。

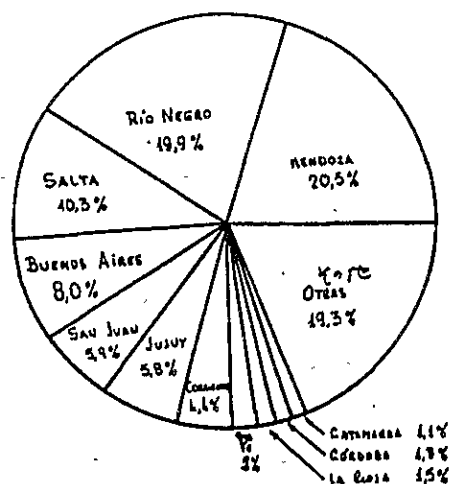
とリオ・ネグロが主生産地で、ここに全体の40%が集中している。続いて、サルタ、ブエノス・アイレス、サン・ファン、フアイ及びコリエンテス州での生産が多い。

収量は、最近10年間かなり安定している。しかし、例外的に1972/73年平均を明らかに下回った(図2.1-3)。最近4年間では僅かな上昇傾向が見られ、最近5か年間の平均収量は、過去10年間平均と比べ2.2%増となっている。最も高い収量をあげているのは、サンタ・フェ及びブエノス・アイレス州である。

収量と植え付け面積とは密接な関係が

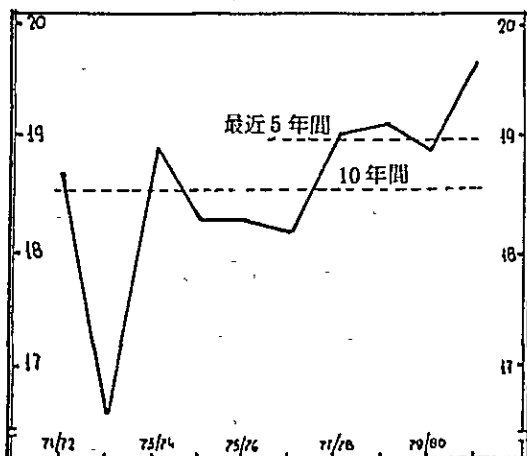
あり、総生産量は植え付け面積によって推移している(図2.1-4)。1980/81年に10年間平均の30%減少したが、これは植え付け面積が少なかったためである。

図2.1-2 トマト：州別作付面積
1971/72~1980/81の10年平均



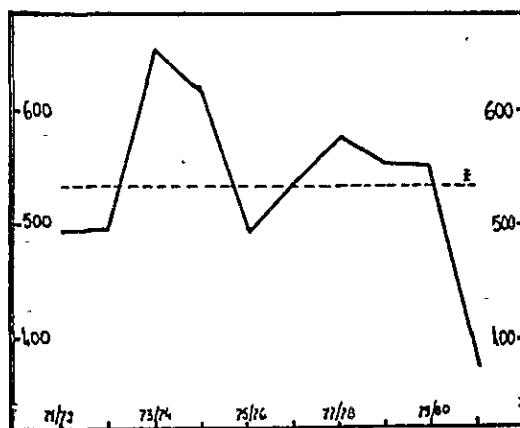
出典：農牧省のデータに基づき独自に作成したもの。

図2.1-3 トマト：ha当り収量の推移
(トン/ヘクタール)



出典：農牧省のデータに基づき独自に作成したもの。

図2.1-4 トマト：生産量の推移
(千トン)



出典：農牧省のデータに基づき独自に作成したもの

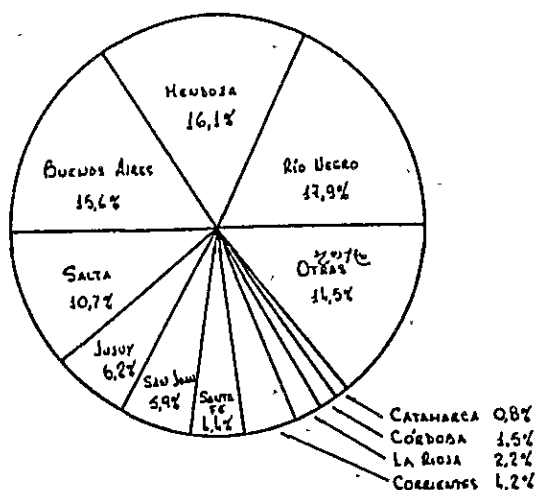
州別の生産量(図2.1-5)について言えば、リオ・ネグロ、メンドサ及びブエノス・アイレスが全体の50%を占めている。

サルタの生産量は、収量がブエノス・アイレスより少いため、第4位である。

メンドサ及びリオ・ネグロで生産されるトマトは主に加工用であり、ブエノス・アイレス、サルタ及びフアイ産のものは生食用である。

最近10年間のトマト(第1期及び通常期)の栽培及び生産の推移は表2.1-1, 表2.1-2及び表2.1-3の通りである。

図2.1-5 トマト：1971/72～1980/81 10年間平均生産量のパーセント表示



出典：農牧省のデータに基づき独自に作成したもの。

表2.1-1 トマト：栽培面積(ヘクタール)

期間	Total	Buenos Aires	Catamarca	Córdoba	Corrientes	Jujuy	La Rioja	Mendoza	Rio Negro	Salta	San Juan	Santa Fe	その他 の州
1971/1972	28,900	2,430	220	220	440	2,464	401	5,050	5,000	4,053	1,540	680	5,602
1972/1973	33,130	2,520	185	553	1,224	1,662	375	6,100	7,140	3,990	2,030	600	6,751
1973/1974	37,050	2,530	324	265	853	2,746	400	7,650	7,980	4,116	2,120	600	7,466
1974/1975	35,950	2,400	286	280	1,060	2,114	530	7,570	8,540	4,250	2,270	600	6,050
1975/1976	34,080	2,620	400	280	1,290	2,130	530	7,160	6,750	4,000	2,130	590	6,110
1976/1977	32,210	2,700	400	250	1,255	1,024	530	7,800	6,750	2,820	2,370	690	5,621
1977/1978	32,800	2,500	400	300	1,700	2,050	560	8,000	5,000	3,200	2,000	700	6,390
1978/1979	30,460	2,600	400	500	2,000	1,500	560	6,250	5,500	2,300	1,600	650	6,000
1979/1980	30,900	2,700	400	660	2,200	1,450	570	6,300	5,600	2,250	1,600	630	6,540
1980/1981 (1)	28,400	2,575	415	787	2,020	1,250	430	5,440	4,400	1,800	1,275	720	4,285
PROYECTO	31,880	2,557	343	409	1,404	1,839	489	6,352	6,346	3,287	1,835	644	6,142

表2.1-2 トマト：ha当り収量(トン/ヘクタール)

期間	Total	Buenos Aires	Catamarca	Córdoba	Corrientes	Jujuy	La Rioja	Mendoza	Rio Negro	Salta	San Juan	Santa Fe	その他 の州
1971/1972	18.7	26.2	4.2	22.1	25.5	16.5	14.9	11.9	19.3	19.4	12.8	37.9	16.3
1972/1973	16.6	26.5	7.5	26.6	113.6	16.5	15.4	11.5	15.0	17.6	17.4	37.2	16.8
1973/1974	18.9	34.3	13.7	30.9	20.5	22.6	31.6	15.3	17.1	19.2	21.4	37.9	15.9
1974/1975	18.3	33.8	15.0	25.2	26.3	9.3	34.4	14.4	17.2	14.5	19.1	34.8	17.6
1975/1976	18.3	35.1	10.9	26.2	13.3	8.6	39.2	13.2	16.3	10.1	19.1	40.9	18.3
1976/1977	18.2	34.6	10.8	25.2	17.2	9.8	24.7	13.3	19.8	12.9	19.5	42.0	19.2
1977/1978	19.0	36.6	13.4	25.2	74.6	23.5	20.0	13.0	13.6	22.9	18.8	41.3	19.2
1978/1979	19.1	31.0	14.4	19.7	22.0	26.0	20.1	13.0	12.0	26.0	20.7	36.0	19.3
1979/1980	18.9	30.0	14.3	20.8	23.4	27.7	21.1	13.2	11.6	26.7	21.6	37.7	19.2
1980/1981 (1)	19.7	32.4	14.4	20.0	22.3	23.4	19.8	13.8	12.6	21.7	19.2	37.5	12.1

表2.1-3 トマト：生産量(千トン)

期間	Total	Buenos Aires	Catamarca	Córdoba	Corrientes	Jujuy	La Rioja	Mendoza	Rio Negro	Salta	San Juan	Santa Fe	その他 の州
1971/1972	466.8	67.7	0.5	3.2	10.7	40.6	5.6	60.7	106.4	71.9	19.9	25.0	75.1
1972/1973	491.5	61.0	1.2	14.7	10.7	27.4	5.3	70.2	103.0	70.3	33.2	21.0	73.5
1973/1974	645.5	87.0	4.4	8.0	22.6	62.0	12.0	117.0	133.0	70.2	40.0	22.0	50.3
1974/1975	610.2	81.1	4.3	6.6	25.8	16.4	22.0	108.7	136.0	57.8	33.8	20.2	87.5
1975/1976	490.6	91.7	4.4	3.3	11.6	7.7	20.8	83.0	108.2	15.4	35.4	23.3	75.8
1976/1977	532.5	93.0	4.3	6.3	19.0	10.0	13.1	74.4	132.6	36.1	43.0	23.1	77.6
1977/1978	574.0	90.0	4.3	5.3	26.6	48.1	8.6	104.0	57.6	73.4	30.0	26.0	100.7
1978/1979	552.0	89.0	3.9	4.9	26.7	48.2	9.0	103.0	67.6	62.1	32.0	25.0	80.6
1979/1980	546.0	81.0	3.7	12.5	49.1	40.1	12.0	83.0	60.0	58.7	24.0	20.0	99.7
1980/1981 (1)	374.0	81.3	4.6	14.4	17.2	27.5	8.5	46.7	40.0	37.7	18.8	11.0	37.6
平均	530.1	82.3	3.8	7.3	22.0	31.8	11.7	85.0	94.4	56.3	31.0	23.3	76.7

(1)推定

出典：農牧省及び独自の作成

2.1.2 市場及び生食用トマトの消費

生食用トマトは、大都市（特にブエノス・アイレス及びサンタ・フェ）のグリーンベルト及びサルタ、フバイ、コリエンテスの各州に於て作られている。

生食用の最も重要な栽培品種は“プラテンセ (platense)”であり、これがアルゼンティンでは1世紀近くにわたり作られている。現在、この品種の様々な改良品種が育種されている。

トマトは冷凍ができず出荷調整ができないため、季節的な流通量の変動が著しい。

この問題に関してのある調査⁽¹⁾——10年間を1シリーズとして考察している——によれば、トマトの流通量は、大生産地であるメンドサ及びリオネグロが端境期の2月には少し減るが、12月から3月にかけて最大となるとされている。

これらの州のトマトは良質であるため高値で取引される。3月になると流通量の減少に伴い価格も上昇する（図2.1-6及び図2.1-7）。流通量の最も少ない月は9月であるが、この月は価格が最も高くなる月でもある。

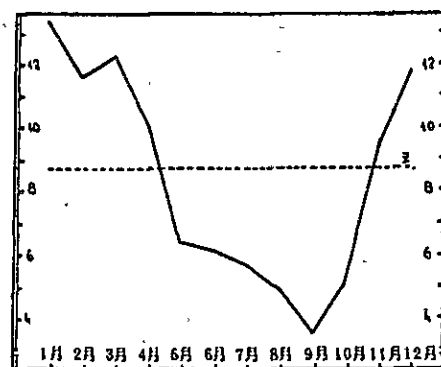
一般的に言って、価格は年間を通じて流通量に反比例して動く。

各生産地では、その気候条件によって経済的に最も有利な時期に生産を行なおうとする。

ある地方で冬期にトマト栽培には気温が低すぎたとしても、温暖なため、北西及び北東の数州では、年間を通じての栽培が可能である。

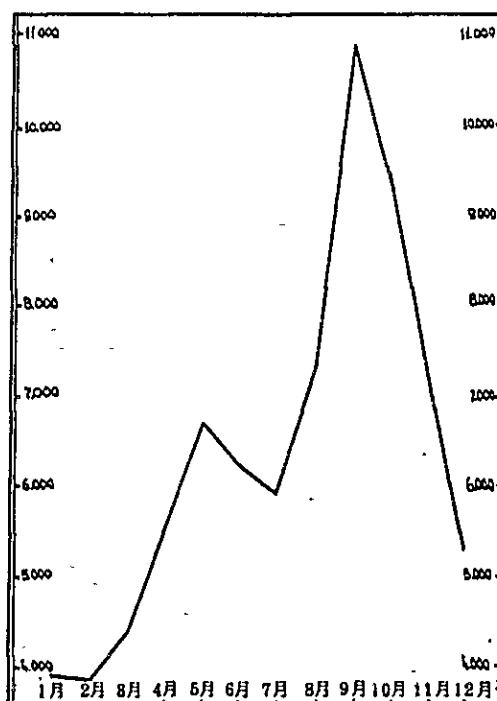
(1) SEAG-IICA ブエノス・アイレスに於る卸売業者の果物及び野菜の市場化シリーズ：雑出版物/6 173 ブエノスアイレス 1977 p.88

図2.1-6 トマト：ドレゴ市場へ入荷される各月毎数量（1967-1976年平均）年間合計パーセント表示



出典：SEAG-IICA

図2.1-7 トマト：アバスト市場に於る各月毎の価格（1972-1981平均）＊（1981.12現在のペソ表示，kg当り）



＊一般卸売物価指標 基準 1960 = 100. による実質化

出典：連邦首都アバスト市場のデータに基づき独自に作成。

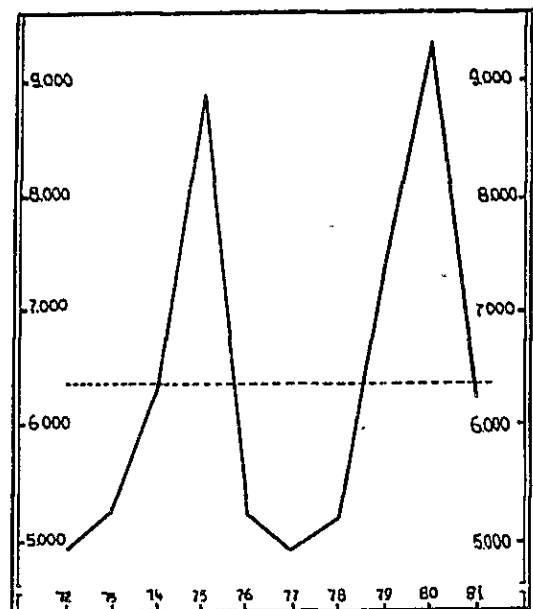
このような訳で、北西の各州、メソポタミア州及びブエノス・アイレス州とサンタ・フェ州の一部に於ては早出しが作られている。しかしながら、ブエノス・アイレスとサンタ・フェの両州は通常期においても生産が多い。晩生種は、リオネグロ、ブエノス・アイレス及び北西地方（第1生産期）で栽培されている。

これまでに、市場の季節的推移の解析を行なって来たが、年毎に生産の変化が見られることも興味深い。生トマトの各年平均価格（現行貨幣価値で表わしたもの）は大きな変動を示しており（図2.1-8）、非常に高価格の時もあれば非常に低価格の時もある。

近年は高価格となっているが、1981年の価格を見れば、この年から平均以下の時期が始まったと推論出来る。

表2.1-4及び2.1-5は、最近10年間の月別価格を、その当時の価格と現行価値で表わした価格とでそれぞれ表わしたものである。

図2.1-8 トマト：首都連邦アバスト市場での各年平均価格（1981.12現在のペソで表示、kg当り）*



*一般卸売物価指標 基準1960=100による実質化

出典：連邦首都アバスト市場のデータに基づき独自に作成。

2.1.8 加工

加工用トマトは、主にメンドサ及びリオ・ネグロの両州で栽培されている。サン・ファン、ブエノス・アイレス州南部及びサンティアゴ・デル・エステロでも、かなり生産されている。

収穫は11月から4月迄行なわれるが、北によった地帯ではこれが一番早く、南に行く程これが遅くなる。

メンドサ及びサン・ファンでは主にペリタ（Perita）種が生産され、一方、リオ・ネグロではプラテンセ（Platense）種が多い（表2.1-6）。

一般的に言って前にも述べたが野菜加工に関するデータは乏しい。このトマトの加工に関しても同様である。これは、各会議所に参加する企業がデータを提供することに興味を示さず、また懐疑的になっているためである。あわせて、入手出来るデータ量及び内容についても、毎年あるいは時期毎に大幅な差がある。

アルゼンティン加工野菜連合会⁽¹⁾は、このテーマに関して、データの個別の使用はしな

(1) アルゼンティン加工野菜連合会 月報 №37 付属書№1 1980.9

いと的確約をして全員にデータの提供を要請したが、希望通りの回答は得られなかった。

しかしながら、入手されているデータから有効な結論を引出すことは可能である。

アルゼンティン加工野菜会議所(CAVI)は、野菜加工品平均生産額の推定を規則的に
行なっている。

表 2.1-4 円形トマト：月別平均価格（その当時のペソで表示したもの、kg当り）*

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1972	1,2	0,8	1,0	1,0	1,2	1,3	1,9	1,5	3,3	3,5	2,7	2,1
1973	1,2	1,7	2,0	2,6	3,6	3,2	2,7	3,4	4,0	4,1	3,0	2,2
1974	1,2	1,8	2,2	2,8	3,8	4,8	4,4	5,1	6,8	5,2	7,6	4,2
1975	4,3	4,2	4,2	4,8	9,3	5,0	9,7	26,1	50,2	61,8	27,9	25,1
1976	24,8	18,9	19,4	28,4	41,3	51,8	55,0	83,2	151,8	121,0	54,0	82,4
1977	57,6	70,5	61,8	91,7	147,9	159,4	187,9	181,6	136,7	221,8	204,8	170,2
1978	95,3	101,0	172,2	293,3	305,5	249,7	194,6	454,5	456,3	772,7	773,1	851,7
1979	487,7	657,0	742,0	1098,0	1065,6	1269,6	914,3	1834,3	3110,0	1168,3	2178,0	1368,2
1980	1387,0	1330,0	1702,0	2285,3	3275,0	3818,0	3437,0	3128,0	5316,0	3671,0	2875,0	1670,0
1981	896,0	1477,0	2742,0	3675,0	3107,0	3512,0	3939,0	4601,0	8196,0	6940,0	5676,0	2772,0

出典：連邦首都アバスト市場

表 2.1-5 円形トマト：月別平均価格（1981.12現在のペソで表示したもの、kg当り）*

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
1972	4410	2915	3370	3323	3702	3647	5285	4017	8444	8748	6670	4994	4960
1973	2693	3654	4021	4965	6460	5900	5011	6204	7284	7364	5457	3945	5246
1974	2083	3273	3938	4885	6362	7723	6970	7762	9944	7366	10345	5505	6348
1975	5390	4601	4428	4881	8922	3311	4891	11405	19430	21929	9001	7402	8799
1976	6127	3621	2416	2802	4462	4657	4663	6529	10908	8355	3485	5000	5252
1977	3072	3515	2966	4163	6315	6379	7115	6109	4290	6122	5243	4182	4956
1978	2124	2137	3342	5219	4987	3890	2889	6213	5847	9006	8306	8600	5213
1979	4475	5584	5836	8113	7223	7789	5217	9129	14704	5466	9851	6036	7452
1980	5868	5404	6658	8606	11704	12713	11119	9834	16240	10642	8119	4679	9296
1981	2450	3840	6803	8114	6351	6048	6011	6423	10679	8522	6278	2772	6234
平均	3869	3855	4378	5507	6649	6206	5917	7362	10777	9354	7275	5311	6376

出典：連邦首都アバスト市場のデータに基づき独自に作成。

* 一般卸売物価指標 基準 1960 = 100 による実質化。

表 2.1-7 は、それらの推定データの二つを再編成したものである。“通常年”と呼ばれている数値がどのようにして得られたかについての記述は何も無い。

これらのデータによれば、すりつぶし及び抽出トマトの生産は増加傾向にあるが、一方、生食商品及び果肉・濃縮ジュースについては減少傾向にある。トマトジュースに関するデータは示されていない。

メンドサ加工果物会議所 (CAFIM) は、統計要約集を定期的に出版している。この州のデータの重要性は非常に大きい。というのは、アルゼンティンのトマト加工の大部分がここで行なわれているからである。

メンドサ州は、その生産額の 90% を加工に、7% を大都市向けの生食用に、残り 3% を同州内の消費にそれぞれ当てている。(表 2.1-8)。加工量の推移を図 2.1-9 に示す。

データが得られている最近年の加工用トマトの平均価格が、表 2.1-9 (

当時のペソで表わしたもの) 及び表 2.1-10 (1981.12 現在のペソで表わしたもの) に示されている。1977/78 に、大きな価格の落ち込みが見られる。

1977/78 の価格は、ブエノス・アイレス向生食用トマトの最近 10 年間の平均価格の

表 2.1-6 リオ・ネグロに於ける加工用トマト生産額

年	品種		合計 kg.
	Platense kg.	Perita kg.	
1969	52.414.786	21.445.310	73.860.096
1970	76.695.185	12.984.053	89.679.238
1971	61.278.805	14.662.487	75.941.292

出典：リオ・ネグロ州経済省 各年 5.31 現在のデータ

表 2.1-7 アルゼンティンに於ける加工用トマト生産額
年平均推定

商 品	1976 年推定(1) (1)	1979 推定
生食品 (単位: 正味 380 g) ieto)	250.000.000	200.000.000
すりつぶし品 (kg)	30.000.000	40.000.000
抽出品 (単位: 正味 150 g) to)	75.000.000	140.000.000
果肉及び濃縮ジュース 380g netto) (単位: 正味 380 g)	100.000.000	80.000.000

出典: CAVI

表 2.1-8 トマト: メンドサ産トマトの用途 (千トン)

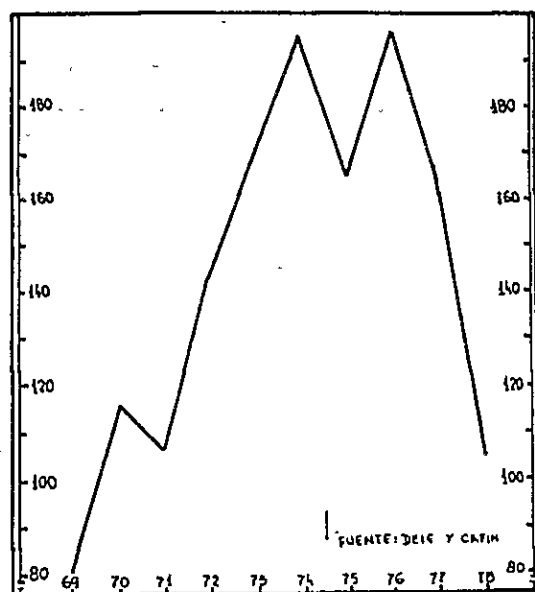
用 途	未加工出荷	加 工	州内消費	合 計(1)
1971/72	16,6	146,2	5,2	168,0
1972/73	14,1	146,6	4,7	165,4
1973/74	12,4	189,1	4,1	205,6
1976/77	10,7	166,5	7,5	184,7
1977/78	8,0	102,5	2,0	112,5
平 均	12,3	150,2	4,7	167,2
パーセント表示	7,36%	89,83%	2,81%	100%

出典: メンドサ州経済統計調査局 (DEIE) 及び独自の作成

* これらの数字は農牧省のものと異なっている。

(1) LUCHINI, Ricardo からの引用。加工果物・野菜及び乾そう・脱水製品。種々のワイン及びサイダー。オリーブ及び油。容器及び記入物。アルゼンティンの装置及び施設。ブエノス・アイレス 1976。p.185。

図 2.1-9 トマト：メンドサ内原料加工量
推移（千トン）



22 %に、そして同地での2月の平均価格の37 %に相当する。また、各期毎の変動が非常に大きく、生産者達の不満の種となっている。彼等は、生産物価格を植付けの前に知ることを希望している。

加工業者は、市場の状況及びその他の消費財、特にブリキの価格を知ることが出来ないために、商品価格に関する情報を先んじて得ることが出来ないという。

メンドサでの加工用トマトの取引量がかなり大きいことは、原料トマトの金額から換算することができる（表2.1-11）。

表 2.1-9 トマト：工場加工用原料トマト
平均価格（当時のペソでの表示、
kg 当り）

Cosecha	Precio
1971/72	0,465
1972/73	0,850
1973/74	0,780
1976/77	24,250
1977/78	26,800

出典：DEIE及びCAFIM

表 2.1-10 トマト：工場加工用原料トマト
平均価格(1)（1981.12現在のペ
ソ表示、kg当り）

Cosecha	Precio
1971/72	1928
1972/73	2002
1973/74	1405
1976/77	1472
1977/78	658
Promedio	1439

(1) 一般卸売物価指標 基準 1960 = 100 による実質化。

出典：独自作成。

表 2.1-11 トマト：原 料 金 額

期 間	使用原料 (トン)	工場渡し価格		原 料 金 額	
		当時のペソ 表示/kg	現行のペソ 表示/kg(1)	当時のペソ 表示/1000 ペソ	現行のペソ 表示/100万ペソ(1)
1971/72	146220,2	0,465	1928	67992,4	281912
1972/73	146673,4	0,850	2002	124672,4	293640
1973/74	189143,5	0,780	1405	147531,9	265747
1976/77	166478,5	24,250	1472	4037103,6	245056
1977/78	102536,5	26,800	658	2747978,2	67469
平 均	150210,4		1439		216153(2)

出典：DEIE、CAFIM及び独自作成。

(1) 一般卸売物価指標 基準 1960 = 100 により 1980.12 現在に実質化したもの。

(2) 平均価格による平均原料金額。

表 2.1-12 より表 2.1-17 に於て、加工形態別の原料及び商品の数量を再編成したものを示す。さらに、各加工形態毎の収益率が計算されている。

表 2.1-12 トマト生食用加工

期 間	使用原料 (トン)	生 産 額 (トン)
1971/72	77.718,1	79.300
1972/73	76.673,2	83.299
1973/74	102.023,1	90.883
1976/77	85.789,7	76.766
1977/78	42.489,6	38.188
平 均	76.938,7	73.687
収 益 率 95,8%		

出典：DEIE及びCAFIMのデータに基づく
独自の作成

表 2.1-13 トマト二重抽出加工

期 間	使用原料 (トン)	生 産 額 (トン)
1971/72	29.677,7	5.512
1972/73	39.539,5	7.432
1973/74	58.549,5	11.033
1976/77	42.618,0	8.353
1977/78	27.518,2	5.997
平 均	39.580,6	7.665
収 益 率 19,4%		

出典：DEIE及びCAFIMに基づく独自の作成。

表 2.1-14 トマト三重抽出加工

期 間	使用原料 (トン)	生 産 額 (トン)
1971/72	7.919,7	1.168
1972/73	11.980,2	1.783
1973/74	15.693,2	2.333
1976/77	9.898,8	1.176
1977/78	17.620,6	2.504
平 均	12.622,0	1.793
収 益 率 14,2%		

出典：DEIE及びCAFIMに基づく独自の作成。

表 2.1-15 トマトすりつぶし加工

期 間	使用原料 (トン)	生 産 額 (トン)
1971/72	5.454,6	5.952
1972/73	3.918,9	4.487
1973/74	5.915,2	5.307
1976/77	10.279,6	8.595
1977/78	4.390,8	4.459
平 均	5.992,0	5.760
収 益 率 96,1%		

出典：DEIE及びCAFIMに基づく独自の作成。

表 2.1-16 トマトジュース加工

期 間	使用原料 (トン)	生 産 額 (トン)
1971/72	1.292,0	1.060
1972/73	1.139,5	987
1973/74	1.099,4	1.076
1976/77	3.230,7	1.398
1977/78	704,7	870
平 均	1.493,0	1.078
収 益 率 72,2%		

出典：DEIE及びCAFIMに基づく独自の作成。

表 2.1-17 その他商品の加工

期 間	使用原料 (トン)	生 産 額 (トン)
1971/72	10.474,9	8.729
1972/73	11.856,4	12.071
1973/74	15.863,1	3.420
1976/77	14.661,7	9.006
1977/78	9.812,7	7.329
平 均	12.533,8	8.111
収 益 率 64,7%		

出典：DEIE及びCAFIMに基づく独自の作成。

もしこれらの収益率を全国で作られている加工にあてはめて推定すれば、全アルゼンティンの加工用トマトの生産量を推定することができる。

従って、CAVI（アルゼンティン野菜加工会議所）“通常年”と呼ぶ年の生産量は 293,000 トンとなる。 ⁽¹⁾ この数量は、アルゼンティン国の最近 10 年間各年平均の生産額の 55.3 % に相当する。メンドサは各年約 15 万トンを使用しているの、国内加工用トマトの 50 % 以上を加工していることとなる。

最後に、表 2.1-18 に 5 か年間の種々の加工品の価格、平均価格及び平均生産金額を示す。

表 2.1-18 トマト：メンドサ内加工製品金額*（1981.12月現在のペソで表示）

製品及び期間	容器別平均価格（ペソ／単位）**					生産金額 100万ペソ
	150/200g	1/4 kg	1/2 kg	1 kg	5 kg	
生食加工用トマト						
1971/72	-	3420	4394	8208	48669	709.709
1972/73	-	-	3458	6483	27107	572.715
1973/74	-	-	3008	5693	25221	542.830
1976/77	-	4068	4736	7772	34972	736.903
1977/78	-	3416	4079	8920	40545	326.148
平均	-	3635	3935	7415	35303	577.661
二重抽出品						
1971/72	3830	-	9846	18075	89130	134.432
1972/73	3863	-	9305	17698	73099	158.881
1973/74	-	3135	7512	18375	68890	165.248
1976/77	3400	-	9168	17304	73770	134.825
1977/78	3956	-	4988	-	45214	82.119
平均	3762	3135	8164	17863	70021	135.101
三重抽出品						
1971/72	6206	-	-	45601	-	39.331
1972/73	5112	-	-	26972	134862	52.406
1973/74	-	5404	-	-	136916	66.285
1976/77	4250	-	-	-	-	13.101
1977/78	5160	-	-	-	61432	28.525
平均	5182	5404	-	36286	111070	39.930
すりつぶしトマト						
1971/72	1554	2280	3142	6322	29330	38.510
1972/73	-	-	4563	5948	25071	24.159
1973/74	-	2522	3711	5332	21906	32.333
1976/77	-	-	4250	7407	28233	42.236
1977/78	-	-	3440	6094	23590	22.059
平均	1554	2401	3821	6221	25626	31.859
トマトジュース						
1971/72	4560	4726	-	12665	-	11.308
1972/73	2473	-	3665	6525	-	7.269
1973/74	-	1801	2162	3062	-	4.530
1976/77	-	-	4432	-	-	12.397
1977/78	-	-	4276	14105	-	11.666
平均	3516	3263	3634	9089	-	9.434
その他						
1971/72	3830	5397	-	-	-	71.719
1972/73	2556	-	4674	9211	32979	115.415
1973/74	-	2522	3153	5044	-	22.220
1976/77	-	3886	6436	-	-	113.692
1977/78	-	6266	7003	25064	-	109.154
平均	3193	4518	5316	13106	32979	86.440

出典：DEIE 及び CAFIM のデータに基づく独自の作成。

* 一般卸売物価指標 基準 1960 = 100 による実質化。

** 第一次市場化平均価格

(1) ジュース加工用トマトを除く。

表 2.1-19

加工トマト主要輸先国（皮むきペリタ，抽出品，ジュース，ペースト又はソース）

（トン表示）

年	ボリビア	ブラジル	カナダ	エクアドル	U.S.A.	パラグアイ	英 国
1960	17,7	1,2	-	170,0	219,2	7,3	-
1969	24,1	-	-	-	0,5	23,2	-
1970	36,6	-	-	54,0	-	45,6	-
1971	9,1	-	-	-	-	0,4	-
1972	2,9	43,2	41,0	54,5	55,4	0,7	-
1973	9,0	3,914,1	-	39,2	1,7	29,1	630,4
1974	20,0	6,567,7	1,030,6	764,1	3,015,4	74,5	13,430,4
1975	1,1	-	15,6	135,2	-	11,1	72,0
1976	9,3	4,900,5	-	301,3	-	322,0	-
1977	53,1	4,000,1	13,5	797,6	-	050,0	102,0
1978	63,4	4,6	261,5	1,711,5	139,3	1,079,1	3,294,0
1979	5,6	-	-	399,2	-	159,0	-
その他の主要輸先国							
西 独	: Año 1978: 670,0						
コロンビア	: Año 1979: 143,5						
チ リ	: Año 1978: 562,0						
ベルギー	: Año 1978: 532,0						
ホンデュラス	: Año 1978: 397,7						
ペ ル	: Año 1979: 440,5						
プエルトリコ	: Año 1978: 500,9 Año 1979: 403,6						

表 2.1-20

加工トマト主要輸先国（皮むきペリタ，抽出品，ジュース，ペースト又はソース）

（千ドル表示）

年	ボリビア	ブラジル	カナダ	エクアドル	U.S.A.	パラグアイ	英 国
1960	6,5	0,4	-	69,6	70,5	3,3	-
1969	13,4	-	-	-	0,2	0,7	-
1970	19,0	-	-	15,9	-	11,3	-
1971	4,1	-	-	-	-	0,2	-
1972	1,1	17,1	12,1	16,0	10,9	9,2	-
1973	9,9	2,404,5	-	31,7	0,0	5,2	193,4
1974	30,2	4,604,7	1,429,2	655,0	1,190,0	35,0	5,531,2
1975	0,5	-	5,6	03,1	-	4,7	34,9
1976	6,7	2,340,2	-	167,3	-	161,5	-
1977	40,5	2,291,4	0,1	405,7	-	407,0	50,7
1978	65,4	3,2	76,2	1,035,2	74,4	705,7	1,04,4
1979	5,0	-	-	247,0	-	230,5	-
その他の主要輸先国							
西 独	: Año 1970: 306,2						
コロンビア	: Año 1979: 03,6						
チ リ	: Año 1970: 330,0						
ベルギー	: Año 1970: 195,0						
ホンデュラス	: Año 1970: 100,0						
ペ ル	: Año 1979: 253,5						
プエルトリコ	: Año 1970: 259,6 Año 1979: 177,0						

出典：アルゼンティン加工野菜連合（FAVI）

2.1.4 貿 易

ここでは、生食トマトと種々の加工製品とを区別する必要がある。

生食トマトの輸出は最近10年間では、唯一1978年に行なわれた。この時の輸出量は5.4トン、輸出金額は580ドル、トン当りの価格は107ドルであった。⁽¹⁾

加工製品に関して、表2.1-19に、年別及び主要輸出国別輸出量を示す。表2.1-20には、ドル表示の輸出金額を示す。

1970 / 79 10年間の全トマト加工製品輸出量と各年毎の推移を表2.1-21及び図2.1-10、2.1-11に示す。

取引量は平均値で約10万トン／1年、金額で約500万ドル近くとなっている。

年毎の数量に大きな変動があるがこれは

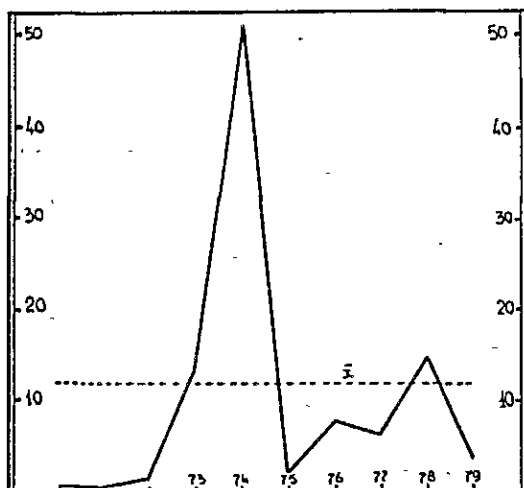
為替レートの変動と本商品の公的機関の政策変更とに無関係ではない。主な輸入国はブラジルと英国である(表2.1-22及び2.1-23)。

表2.1-21 トマト加工製品輸出

年	数 量(トン)	金 額(ドル)
1970	136,3	36.300
1971	9,5	4.200
1972	282,0	90.600
1973	11.240,0	4.630.700
1974	53.492,0	26.097.900
1975	874,1	448.900
1976	7.103,8	3.247.300
1977	6.841,9	3.886.200
1978	15.161,3	7.232.800
1979	1.575,7	1.014.700
Total	96.716,5	46.689.600

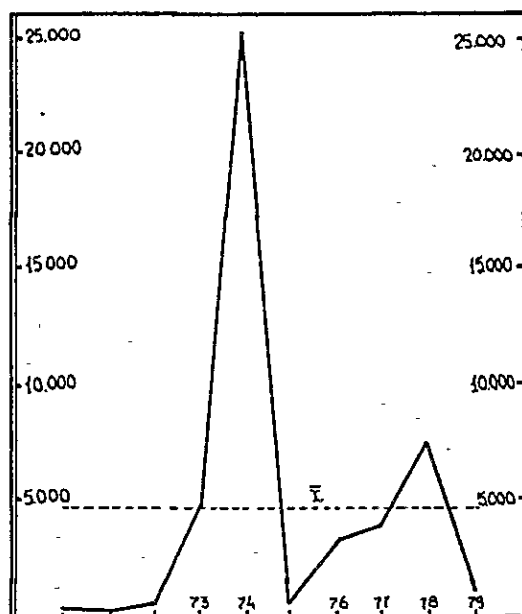
出典：FAVIのデータに基づく独自の作成。

図2.1-10 加工トマト輸出量の推移(千トン)



出典：FAVIのデータに基づく独自の作成。

図2.1-11 加工トマト輸出額の推移(千ドル)



出典：FAVIのデータに基づく独自の作成。

(1) INDEC (国家統計国勢調査局)による。

表2.1-22 加工トマト（皮むきペリタ，抽出品，ジュース
ペースト又はソース）主要購入国

国	1970/79 10年間 合計数量(トン)	1970/79 10年間 合計金額 (US\$)
ブラジル	21,521,1	11,741,100
英 国	17,596,4	6,865,200
エクアドル	4,336,6	2,760,700
パラグアイ	2,581,1	1,712,300
カナダ	2,172,1	1,531,200
U S A	3,212,8	1,284,900

出典：FAVI のデータに基づく独自の作成。

表2.1-23 加工トマト主な輸入国比率（1970/79 10
年間の総数量に占める割合）

国	数 量	金 額
ブラジル	22,2	25,1
英 国	18,2	14,7
エクアドル	4,5	5,9
パラグアイ	2,7	3,7
カナダ	2,2	3,3
U S A	3,3	2,8
その他	46,9	44,5
合 計	100,0	100,0

出典：FAVI のデータに基づく独自の作成。

2.2 ニ ソ ニ ク

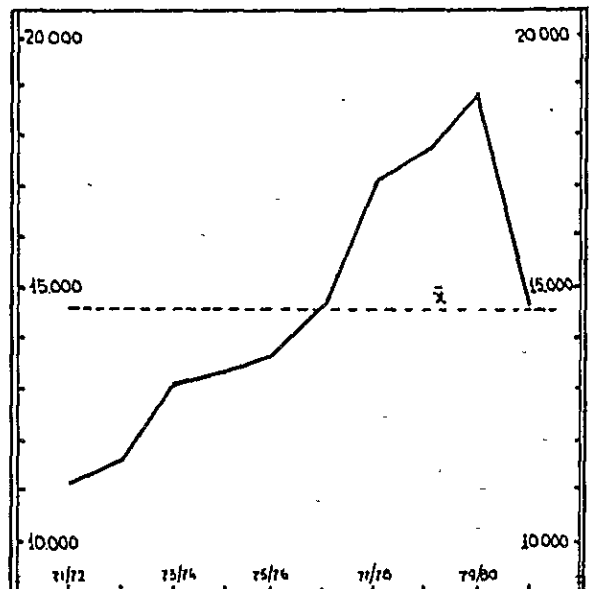
2.2.1 栽培及び生産

植付け面積はこの10年間安定した増加を示しているが、1980/81期にはかなりの減少が見られ、10年間平均を僅かに上回るにとどまった（表2.2-1及び図2.2-1）。

収量は、若干の変動はあるものの、明らかな増減はなく、年収量の違いは少ない（表2.2-2及び図2.2-2）。

この収量が安定しているため、生産量は植付け面積に比例している。

図2.2-1 ニソニク：1971/72～1980/81
10年間の生産面積の推移
（ヘクタール）



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成

表 2.2-1 ニンニク：栽培面積（ヘクタール）

時 期	Total	Buenos Aires	Córdoba	Chubut	Jujuy	Mendoza	Rio Negro	Salta	San Juan	Santa Fe	Santa Fe	Spo del Estero	その他 の 州
1971/1972	11,050	5,970	450	110	70	2,220	70	120	477	218	110	700	605
1972/1973	11,600	6,650	440	80	21	2,080	89	56	540	190	110	830	514
1973/1974	13,100	7,700	470	87	18	2,280	110	84	640	218	100	910	483
1974/1975	13,300	7,300	1,070	90	40	3,100	60	80	550	240	70	240	460
1975/1976	13,700	7,750	811	97	27	3,200	53	36	398	260	63	520	485
1976/1977	14,600	8,400	940	104	160	2,970	122	52	415	272	70	530	565
1977/1978	17,000	9,000	1,660	100	260	3,100	140	320	1,000	180	60	530	645
1978/1979	17,700	8,900	2,000	113	200	3,600	172	270	1,100	200	60	500	625
1979/1980	18,800	8,900	1,200	130	225	6,000	110	200	650	200	50	510	625
1980/1981	14,700	6,700	720	125	196	4,700	90	150	634	190	50	510	635
平 均	14,555	7,727	976	104	118	3,323	97	137	655	217	75	528	564

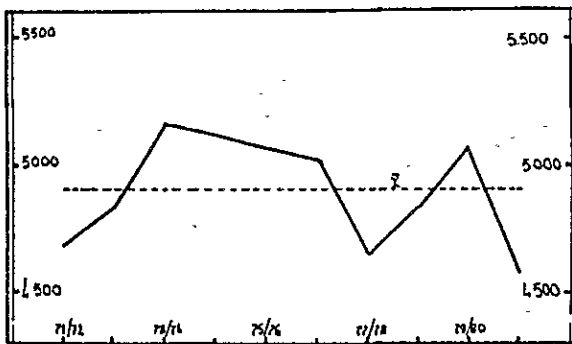
表 2.2-2 ニンニク：ha当り収量（キロ／ヘクタール）

1971/1972	4,691	4,529	3,091	5,727	3,667	4,856	7,667	4,500	6,112	2,778	5,818	3,408	3,310
1972/1973	4,832	4,947	3,056	5,769	4,000	5,000	7,262	4,464	6,852	3,316	6,364	3,400	3,431
1973/1974	5,186	5,198	3,082	5,713	4,389	5,746	7,545	4,348	6,349	2,982	5,608	4,545	4,213
1974/1975	5,113	5,206	3,016	6,000	4,250	5,966	8,333	3,750	5,455	2,917	6,429	3,420	3,520
1975/1976	5,063	5,097	2,953	5,794	2,926	5,969	7,075	5,500	6,055	3,646	6,349	3,027	3,051
1976/1977	5,035	5,048	3,034	5,769	5,437	5,976	7,377	5,192	6,217	5,037	6,286	3,416	2,942
1977/1978	4,647	4,556	3,072	6,000	4,615	5,969	7,857	4,688	4,900	5,356	6,154	3,326	2,981
1978/1979	4,821	4,994	2,807	5,564	4,400	6,583	5,303	4,444	5,182	6,667	5,833	3,400	---
1979/1980	5,080	4,607	4,711	4,461	4,444	6,167	4,900	4,750	6,000	5,067	6,000	3,529	2,920
1980/1981	4,589	4,015	5,169	4,616	4,398	5,466	4,215	4,279	5,678	6,784	5,600	3,490	3,100
平 均	4,909	4,870	3,402	5,551	4,252	5,865	6,815	4,561	4,480	4,480	4,480	3,574	3,214

表 2.2-3 ニンニク：生 産 額 （トン）

1971/1972	50,800	26,900	1,360	630	110	13,000	690	540	2,610	500	640	2,200	1,620
1972/1973	54,600	32,700	1,350	450	84	10,400	610	250	3,700	630	790	2,100	1,626
1973/1974	66,900	40,000	1,350	407	79	13,100	870	382	4,000	650	560	3,500	1,952
1974/1975	67,700	38,000	3,200	540	170	18,500	500	300	3,000	760	450	740	1,600
1975/1976	68,600	39,500	2,250	567	79	19,100	375	194	2,410	1,000	400	1,350	1,376
1976/1977	73,000	42,400	2,700	600	870	17,600	900	270	2,580	1,378	440	1,660	1,610
1977/1978	79,000	41,000	5,100	605	1,200	18,500	1,100	1,500	4,900	1,000	400	1,490	1,900
1978/1979	81,000	40,000	3,150	440	860	23,700	700	1,200	5,700	1,200	350	1,700	1,780
1979/1980	95,000	41,000	5,300	580	1,000	37,000	490	950	3,900	1,000	300	1,400	1,740
1980/1981	67,000	35,800	3,350	477	860	21,700	360	610	3,600	1,200	270	1,400	1,712
平 均	70,360	39,840	3,312	516	535	21,660	657	613	3,660	945	253	1,665	1,660

図 2.2-2 ニンニク：1971/72～1980/81
10年間の収益率の推移（kg/ha）

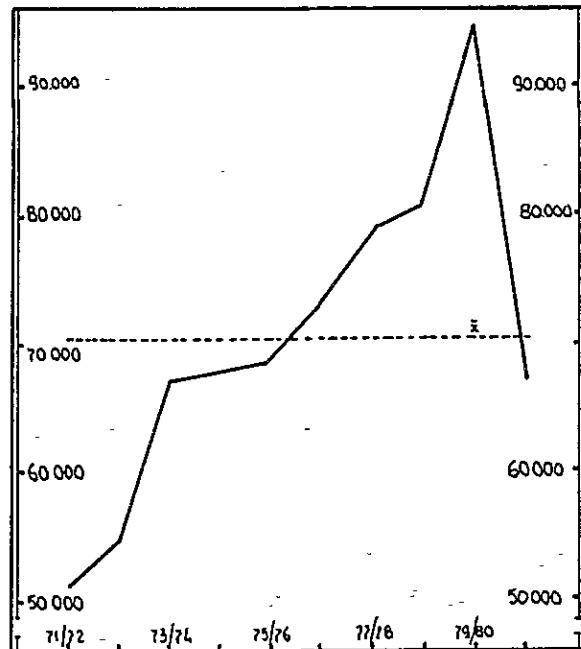


出典：農牧省のデータに基づく独自の作成

1979 / 80 年迄、生産量は著しく増加したが、1980 / 81 年にはかなり減少した（表 2.2-3 及び図 2.2-3）。

ブエノス・アイレス州が全植付け面積の半分以上を占め、国内生産量はその

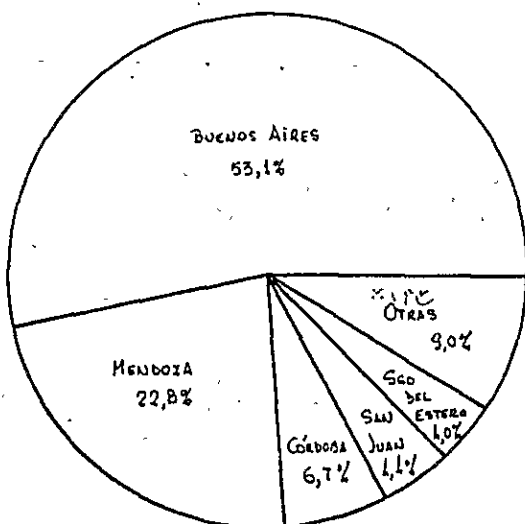
図 2.2-3 ニンニク：1971/72～1980/81
10年間の生産額の推移（トン）



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成

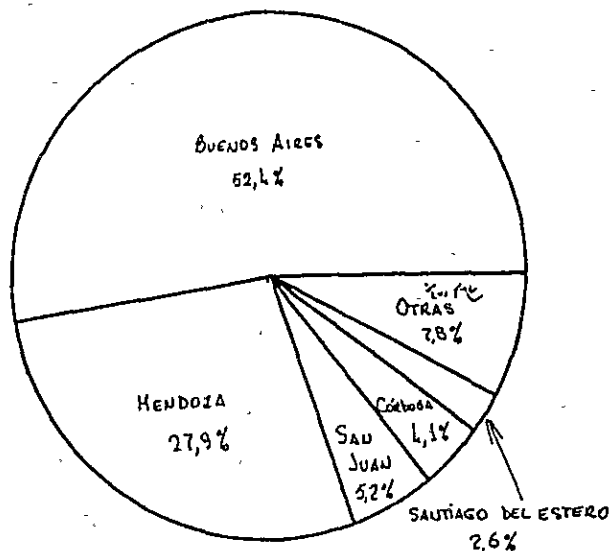
52.4 %を占める（図 2.2-4 及び 2.2-5 ）。

図 2.2-4 ニンニク：生産面積のパーセント表示（1971/72 ～ 1980/81 10 年間平均）



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

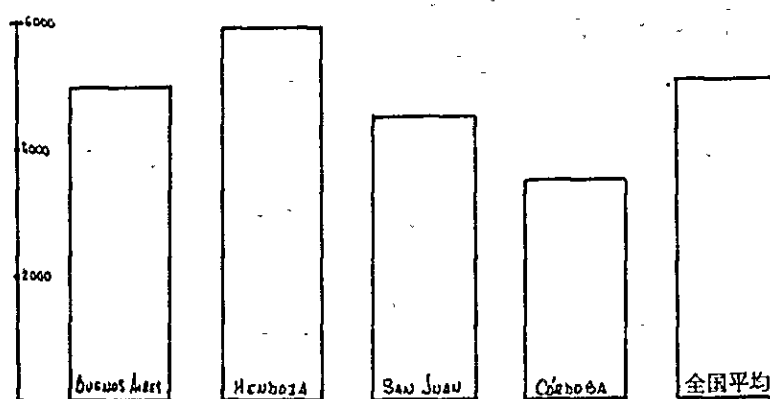
図 2.2-5 ニンニク：生産量のパーセント表示（1971/72 ～ 1980/81 10 年間平均）



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

メンドサが生産量第 2 位を占め、一方、コルドバは栽培面積では第 3 位ながら生産量では収量の高いサン・ファンに次いで第 4 位となっている（図 2.2-6 ）。メンドサは収量が最も高い州である。

図 2.2-6 ニンニク：主要生産州平均収量（1971/72/1980/81 10 年間平均）（kg/ha）



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

2.2.2 市場及び消費

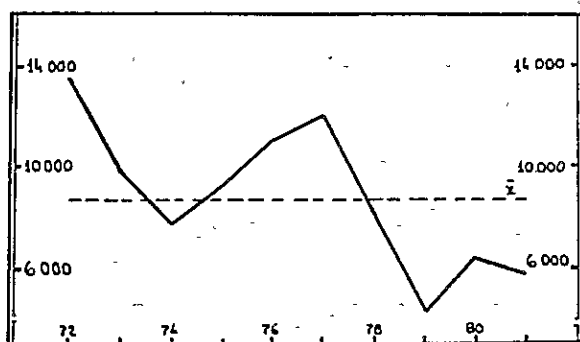
市場への流通量は季節的な変動があり、9 月、10 月及び 11 月が平均以上となる（

図 2.2-7)。連邦首都は主にクヨから供給を受けているが、これはブエノス・アイレス州南部からブラジルに輸出されてしまうからである。

上記の供給ピークと時を同じくして、価格が著しく下落する(図 2.2-8)。価格が最も高くなるのは、1月、2月及び3月である。生産されるニンニクの殆んどは国内消費で、全生産額の約 80% がこれに向けられる。

年平均価格は、1977 年に高水準に達した後(図 2.2-9)、最近 4 年間は 1.0 年平均より低い。

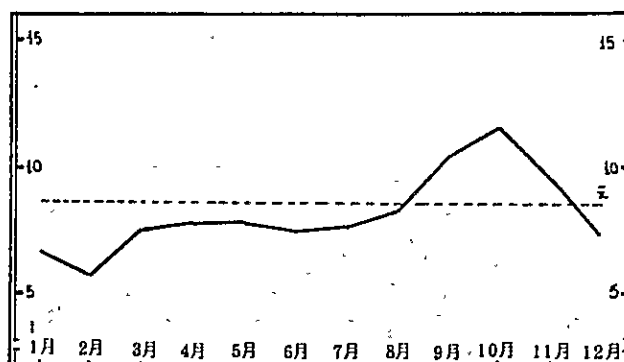
図 2.2-9 ニンニク：国営野菜市場での年平均価格
(1981.12 現在のペソで表示 kg 当り)*



出典：国営野菜市場のデータによる独自の作成。

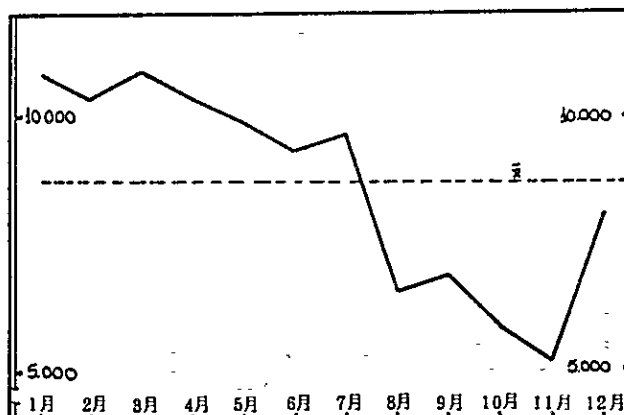
* 一般卸売物価指標 基準 1960=100 による実質化

図 2.2-7 ニンニク：ドレゴ市場への月別入荷量(1967-76 平均)総額に対するパーセント表示



出典：SEAG-IICA の著作から引用。

図 2.2-8 ニンニク：国営野菜市場での月別価格(1972-81 10 年間平均)
(1981.12 現在のペソで表示 kg 当り)*



出典：国営野菜市場のデータに基づく独自の作成。

* 一般卸売物価指標 基準 1960=100 による実質化

最も大きいものは 100 個で一つの組み房とする。一つの組み房の重量は 5~7 である。

表 2.2-4 及び 2.2-5 に、国営野菜市場での月別価格をその当時の価格と現行価格とでそれぞれ表わしたものを示す。

2.2.3 貿易

ニンニクの輸出は、1975 年から 1979 年迄は増加したが 1980 年には落ち込んだ(表 2.2-6 及び図 2.2-10)。現行価格水準で表わした国際価格の推移を表 2.2-7 に示す。

主な輸入国は(殆んど独占的)ブラジルである(表 2.2-8)。フランスが、かなり距離

を置いて第2位である

表 2.2-4 ニンニク：月別平均価格（その当時のペソで表わしたもの kg当り）

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1972	3,9	4,6	5,7	4,7	5,5	6,1	6,1	5,8	4,2	3,0	3,0	4,0
1973	6,6	6,6	8,1	7,5	6,9	5,7	5,5	4,4	2,6	2,3	1,8	3,6
1974	5,3	6,5	5,3	4,9	4,2	4,5	5,0	4,2	4,3	4,0	4,5	6,1
1975	7,9	8,2	8,3	12,8	11,5	11,8	11,9	11,5	27,9	24,6	30,5	38,9
1976	52,7	58,5	79,0	101,1	99,7	113,4	160,1	139,6	171,5	140,8	118,9	245,0
1977	263,6	300,6	348,3	247,4	398,5	458,4	507,0	380,7	201,4	128,4	148,5	265,0
1978	495,0	453,9	553,7	675,7	699,5	595,1	648,0	478,2	364,6	310,6	231,5	587,4
1979	635,2	490,4	554,7	632,3	638,6	641,8	892,9	504,2	990,7	668,0	665,0	845,0
1980	1024,4	1359,0	1880,2	1617,1	1489,3	1397,1	1243,2	792,9	3944,2	2972,0	1970,0	3793,0
1981	4146,0	3000,0	2885,0	3863,0	2640,0	2856,0	3048,0	4280,0	4760,0	2835,0	2272,0	2512,0

出典：国営野菜市場

表 2.2-5 ニンニク：月別平均価格（1981.12 現在のペソで表わしたもの kg当り）*

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
1972	14070	15980	18701	14813	16540	17438	16678	15346	10744	7335	7206	9446	13691
1973	14958	13922	16007	14158	12400	10362	10022	8072	4754	4188	3304	6413	9913
1974	9517	11661	9461	8467	6945	7256	7721	6377	6355	5639	6098	8046	7795
1975	9858	9069	8678	12901	10997	7847	6015	5031	10791	8738	9860	11480	9272
1976	13018	11235	9842	9980	9399	10206	13583	10959	12371	9729	7684	14873	11073
1977	14065	14989	16711	11227	17009	18350	19201	12803	6318	3543	3803	6513	12044
1978	11032	9608	10745	12021	11419	9271	9622	6536	4671	3620	2486	5931	8080
1979	5829	4168	4363	4672	4328	3938	5094	2509	4684	3125	3012	3732	4121
1980	4334	5522	7355	6090	5323	4652	4022	2493	12050	8616	5563	10628	6367
1981	11339	7800	7158	8530	5396	4918	4651	5975	6202	3483	2513	2512	5673
平均	10802	10395	10902	10286	9976	9424	9661	7610	7894	5802	5153	7957	8825

出典：国営野菜市場のデータに基づく独自の作成。

* 一般卸売物価指標 基準 1960 = 100 による実質化

表 2.2-6 ニンニク：生製品輸出額

年	数量(トン)	FOB金額 (US\$)	FOB価格 (US\$/t)
1970	10.899	4,392,841	403
1971	12.033	6,351,820	528
1972	9.422	5,429,647	576
1973	9.167	7,732,632	843
1974	14.517	11,742,255	809
1975	12.405	10,331,882	833
1976	13.593	12,606,604	927
1977	16.783	22,160,781	1,320
1978	24.194	27,798,476	1,149
1979	32.687	30,900,289	945
1980	24.356	28,957,186	1,189
1981 (1)	10.572	17,339,153	1,640

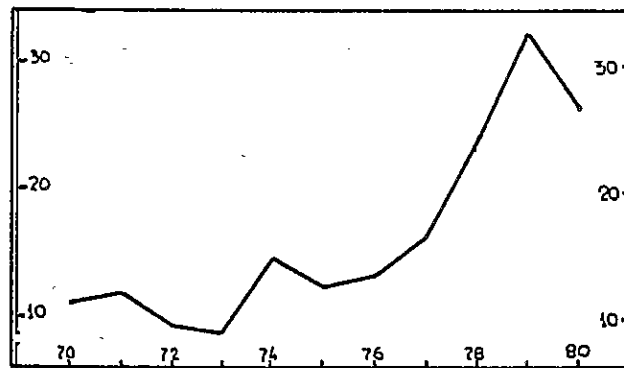
出典：INDEC

表 2.2-7 ニンニク：実質 FOB
価格 (US\$/トン)*

年	価 格
1970	310
1971	509
1972	538
1973	737
1974	579
1975	534
1976	560
1977	774

出典：経済省、アルゼンティン農牧
部門の現状と展望 1978-79。* U S A 工業卸売物価指標による
修正計算。

図 2.2-10 ニンニク：輸出数量の推移 (千トン)



出典：INDECのデータに基づく独自の作成。

表 2.2-8 仕向先国別ニンニク輸出数量 (トン)

国	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980
バルバドス	--	--	--	--	--	62	100
ベルギー	--	30	--	105	10	--	91
ボリビア	60	--	--	6	--	--	--
ブラジル	13,311	10,909	11,645	12,863	19,556	23,632	14,486
チリ	20	--	--	10	20	40	--
スペイン	--	70	50	--	340	415	--
U S A	648	538	326	153	373	433	61
フランス	425	336	1,122	2,470	2,769	2,429	2,877
カナリー諸島	--	--	--	--	7	--	--
イタリア	--	55	115	195	--	212	200
メキシコ	--	--	--	--	277	--	--
パラグアイ	--	157	194	192	316	441	149
ポルトガル	--	--	30	--	--	--	--
オランダ領アンティルス諸島	--	--	--	1	--	--	140
プエルトリコ	35	290	50	90	240	214	20
トリニダード・トバゴ	--	--	19	75	105	76	--
ウルグアイ	--	10	43	--	35	27	--
その他の国	7	10	--	625	146	4,657	700
合 計	14,516	12,405	13,594	16,783	24,194	32,687	23,400

出典：INDEC (国家統計局勢調査局) * 11 月迄に対応する仮の数字。

2.3 タ マ ネ ギ

2.3.1 栽培及び生産

タマネギの最近の栽培と生産に関するデータを表 2.3-1, 2.3-2 及び 2.3-3 に示した。

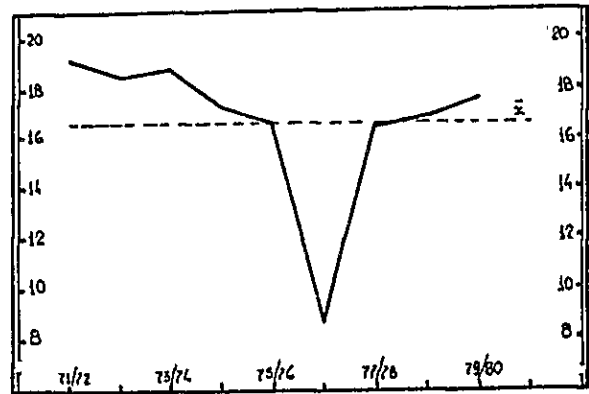
栽培面積は 17,000 ～ 19,000 ヘクタールを推移し、例外として 1976 / 77 期に著しく減少した(図 2.3-1)。

当り量は、1971 / 72 から 1976 / 77 までは明らかな上昇傾向を示し、14,000 kg/ha 以下から約 21,000 kg/ha にも達した。その後は著しく下降し、最近では 16,000 kg/ha あたりの水準を維持している。(図 2.3-2)。

生産量は(図 2.3-3)。10 年間の最初に於ては、播種面積の減少傾向があったにもかかわらず生産量は増加した。これは、当時の収量の著しい伸びがあったためである。

同様に、1976 / 77 期に栽培面積は大幅に減少したが、ha 当り収量が高かったため(部分的に)生産量は減少しなかった。

図 2.3-1 タマネギ：栽培面積の推移
(千ヘクタール)



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

表 2.3-1 タマネギ：栽培面積 (千ヘクタール)

期 間	Total	Buenos Aires	Catamarca	Córdoba	Chubut	Formosa	Mendoza	Neuquen	Rio Negro	Salta	San Juan	Santa Fe	その他 の州
1971/1972	19.1	1.4	0.3	0.3	0.2	0.1	2.2	0.1	0.3	0.5	2.4	0.2	11.1
1972/1973	18.6	1.4	0.2	0.4	0.1	0.1	2.4	0.1	0.3	0.5	2.7	0.2	10.2
1973/1974	18.8	1.7	0.1	0.5	0.1	0.2	2.7	0.1	0.3	0.5	3.3	0.2	9.1
1974/1975	17.2	1.6	0.1	0.5	0.1	0.2	3.2	0.1	0.3	0.5	3.1	0.2	7.3
1975/1976	16.6	1.7	0.3	0.5	0.1	0.2	3.2	0.1	0.3	0.6	3.0	0.1	6.5
1976/1977	8.5	1.4	0.2	0.6	0.2	0.3	2.3	0.1	0.3	0.1	2.3	0.2	0.3
1977/1978	16.3	1.6	0.2	0.7	0.2	0.1	2.1	0.2	0.4	0.1	2.6	0.1	6.8
1978/1979	16.9	1.7	0.2	0.8	0.2	0.3	2.2	0.2	0.4	0.2	2.7	0.1	6.9
1979/1980	17.6	2.3	0.3	0.5	0.1	0.4	2.7	0.2	0.5	0.5	3.3	0.1	6.4
平 均	16.6	1.7	0.2	0.5	0.1	0.2	2.5	0.3	0.3	0.4	2.8	0.2	7.2

表 2.3-2 タマネギ：収 量 (トン/ヘクタール)

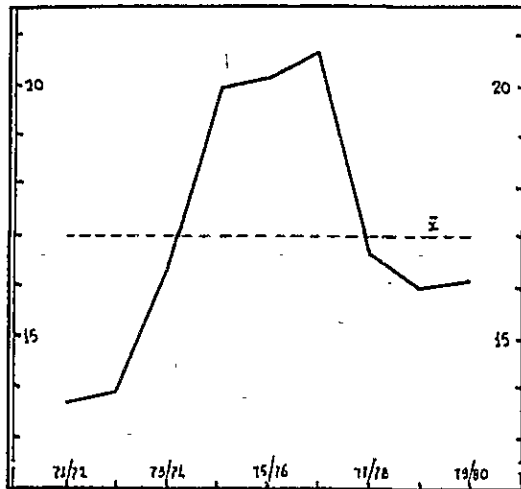
期 間	Total	Buenos Aires	Catamarca	Córdoba	Chubut	Formosa	Mendoza	Neuquen	Rio Negro	Salta	San Juan	Santa Fe	その他 の州
1971/1972	13.7	11.7	6.3	12.2	14.6	8.6	27.8	16.7	19.2	14.3	23.4	7.2	9.5
1972/1973	13.9	9.5	12.0	12.3	14.6	6.6	27.6	16.7	19.0	16.4	26.2	7.6	8.6
1973/1974	16.3	11.5	15.8	20.6	14.3	9.2	27.9	19.1	20.3	15.0	28.4	7.9	9.3
1974/1975	19.9	22.2	17.1	24.8	14.5	7.6	28.6	18.0	21.2	13.9	28.3	7.6	8.5
1975/1976	20.2	21.7	15.7	25.5	14.2	6.0	28.0	16.9	21.0	21.3	29.0	7.5	10.1
1976/1977	20.7	11.9	16.3	26.8	15.0	8.5	25.2	17.1	20.8	20.4	25.6	7.3	7.6
1977/1978	16.7	12.8	15.9	26.6	14.0	7.8	25.2	14.7	20.7	20.0	24.9	11.0	11.2
1978/1979	16.0	12.7	15.0	26.6	14.0	7.5	28.0	16.2	20.6	20.0	23.7	13.0	11.0
1979/1980	16.1	12.5	16.9	14.6	10.0	7.3	20.7	19.5	21.4	19.3	27.9	8.5	12.0
平 均	17.0	11.0	14.5	22.1	13.3	7.7	25.7	16.8	20.5	17.4	26.1	8.8	9.6

表 2.3-3 タマネギ：生 産 量 (千トン)

期 間	Total	Buenos Aires	Catamarca	Córdoba	Chubut	Formosa	Mendoza	Neuquen	Rio Negro	Salta	San Juan	Santa Fe	その他 の州
1971/1972	226.0	16.0	1.7	3.3	2.4	1.2	60.3	1.7	5.1	7.0	51.9	1.2	76.7
1972/1973	232.3	12.5	2.0	4.4	1.9	1.7	66.1	1.5	5.7	6.5	47.2	1.3	62.0
1973/1974	286.0	19.0	2.1	13.6	2.0	1.8	76.5	2.1	7.1	7.6	49.5	1.4	43.3
1974/1975	371.0	35.5	2.6	13.0	2.1	1.3	91.0	1.2	7.0	7.1	47.4	1.2	41.6
1975/1976	289.7	36.2	4.2	12.2	2.0	0.7	89.4	2.5	7.8	13.0	47.0	1.0	31.3
1976/1977	172.0	19.0	2.5	15.0	2.4	7.3	56.0	2.2	7.0	7.4	46.0	1.1	2.0
1977/1978	263.0	20.9	3.6	17.0	2.4	2.5	93.0	2.8	8.5	2.4	63.0	1.1	54.6
1978/1979	270.1	22.0	3.7	15.0	2.0	2.7	96.0	3.0	9.0	7.9	69.0	1.0	93.0
1979/1980	277.8	25.7	4.4	7.4	0.8	2.9	55.8	2.9	9.7	8.3	60.0	1.1	54.0
平 均	261.1	25.2	3.0	11.2	2.0	1.8	67.4	2.1	7.4	6.4	73.9	1.2	53.2

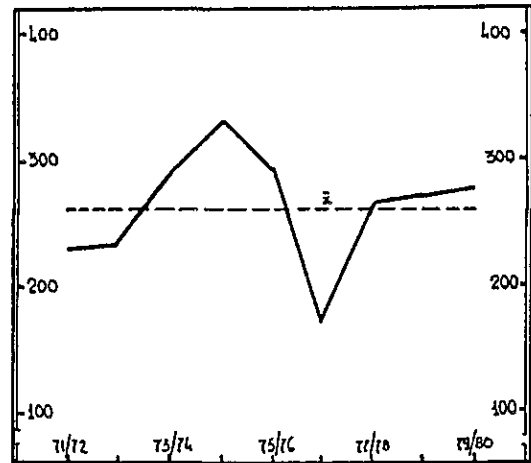
出典：農牧省及び独自の作成。

図 2.3-2 タマネギ：収量の推移（トン／ha）



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

図 2.3-3 タマネギ：生産量の推移（千トン）

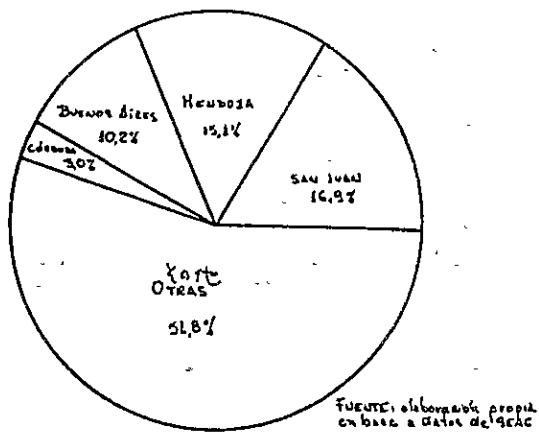


出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

最近の生産水準は、10年間平均を僅かに上回っている。

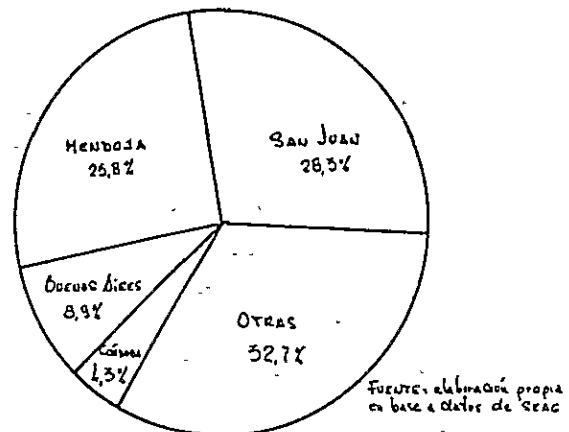
主な生産州はクヨ地方の各州であり、これらの州が国内で最もha当り収量が高い（図 2.3-4、2.3-5 及び 2.3-6）。このため、メンドサとサン・ファンが、栽培面積では全体の1/3にすぎないが、生産量では全体の50%を優に超えている。

図 2.3-4 タマネギ：栽培面積のパーセント表示（1971/72-1979/80平均）



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

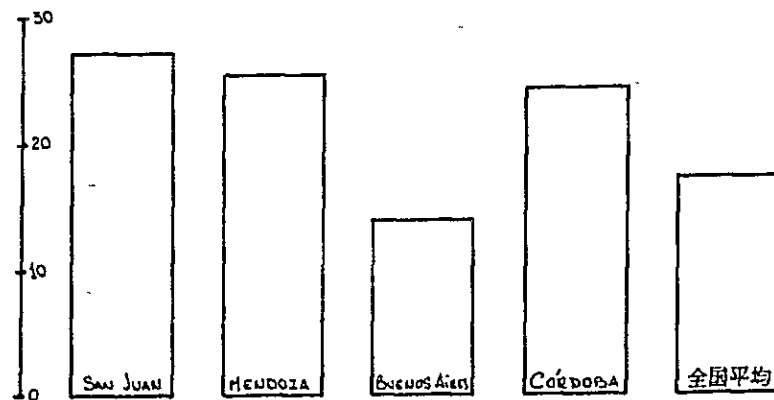
図 2.3-5 タマネギ：生産量パーセント表示



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

サン・ファンとメンドサは、作付面積と生産量に関しての第1位を年によって取り合っているが、この10年間全体では、サン・ファンが僅かに優位を保っている。この両州に続いているのは、かなりの距離を隔ててブエノス・アイレスとコルドバの両州である。

図2.3-6 タマネギ：主要生産州の平均収量
(1971/72 ~ 1979/80 平均) (トン/ha)



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

2.3.2 市場及び消費

輸出が全生産量の2%以上を超えることは殆んどないので、ほとんどが国内消費である。各月毎の流通量の変動を図2.3-7に示す。これで解る通り、本商品の取引に関して特定の期日というものは無い。

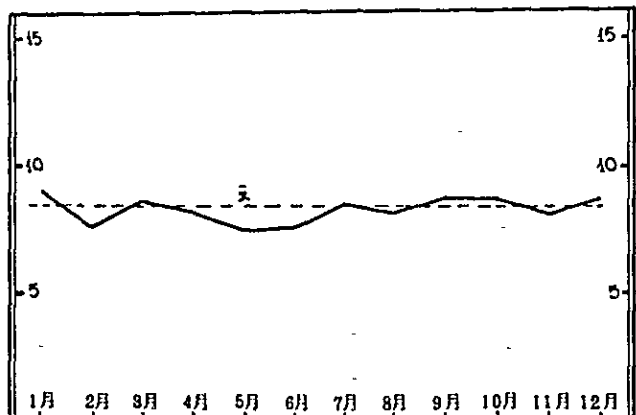
次に、既に述べた出版物からの文章⁽¹⁾を転記するが、ここに、首都圏のタマネギの供給についての興味深い詳述がある。

「流通量が他の月と比べて多い月がある(例えば、9月から1月迄は比較的多くしかも安定している)。これは、Valencianita (バレンシアニタ) 種がまず最初にサンティアゴ・デル・エステロから次いでサン・ファン、メンドサ及びコルドバから市場に入荷し、

その後に量は少ないがTorrentina (トレンティナ) 種がクヨ及びコルドバから入荷するのであるが、両種共に貯蔵期間が短いため、速やかに取引しなければならないからである。さらに、8月、9月、10月及び11月の入荷量は各年毎で大きな差が見られる。多分この理由はValencianita 種の栽培が短期間であって適切な気温と日照りに依存度が高いので、冬の終りから春の終り迄の各月の気温の高低が上記各月の生産量に影響するためだからである。」

「2月に入荷量が減るのはおそらく、この時期には上記の両品種の入荷が終了と3月に多

図2.3-7 タマネギ：国営野菜市場への月別
入荷数量(1967 ~ 76 平均) 各年全
入荷量に対するパーセント表示



出典：農牧省

(1) 農牧省-全米農業科学協会の著作からの引用, p.85, 86.

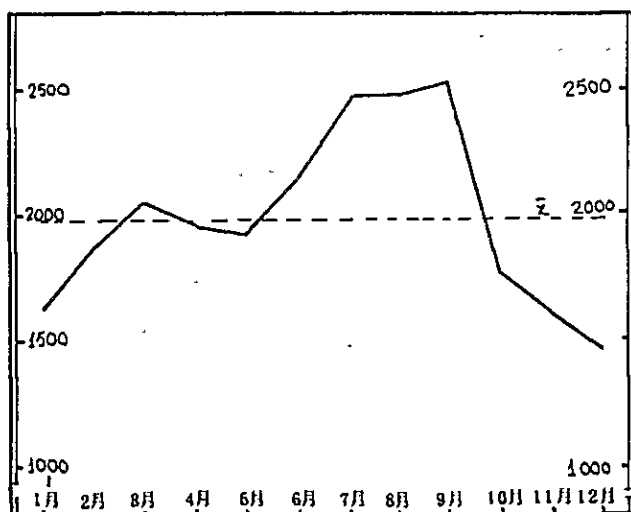
量に入荷する Valenciana 種及び Sintetica 種との端境期となるためである。

価格は3月から5月には下落するが、6月からは上昇期となり、これが9月迄続く。10月から12月は下降期である（図2.3-8）。

現行貨幣水準で表わした価格は各年毎に著しい変動がある。この10年間で最も高い水準は1975年で、最も低い水準が1976年である（このことが1976/77期の栽培面積が非常に少なくなったことに非常に関係している）。

これに続く2年間は価格は持ち直したが、1979年になると再び下降し、それ以後は10年間平均よりも低い水準となっている（図2.3-9）。

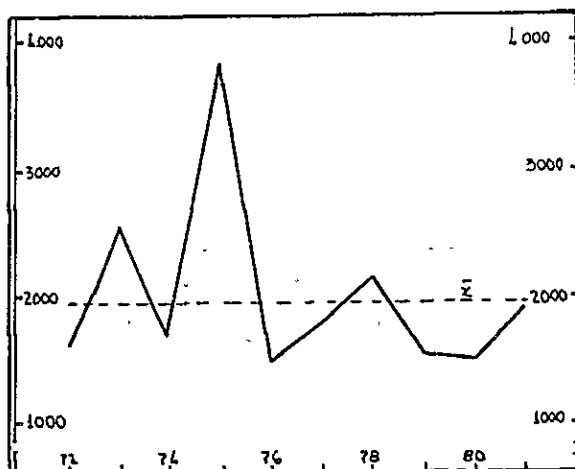
図2.3-8 タマネギ：国営野菜市場の月別価格
（1972～81 10年間平均）
（1981.12現在のペソで表示 kg当り）*



出典：国営野菜市場のデータに基づく独自の作成。

* 一般卸売物価指標 基準1960=100による実質化

図2.3-9 タマネギ：国営野菜市場での各年平均価格
（1981.12現在のペソで表示）*



出典：国営野菜市場のデータに基づく独自の作成。

* 一般卸売物価指標 基準1960=100による実質化

最後に、表2.3-4及び2.3-5で、当時の価格と現行貨幣水準での価格とで表わしたものを10年間の全ての月について示した。

2.3.3 加工

タマネギ以外の商品でも言えるが、加工に関するデータは非常に少ない。

この加工に関してCAFIM（メンドサ加工果物会議所）は興味あるデータを公表している。加工（酢づけ及び脱水）の大部分はメンドサ州で行なわれている。

これらのデータを再編成し、現行貨幣水準に直し、そしてそれぞれの平均値を計算したものを表2.3-6に示した。

表 2.3-4 タマネギ：月別平均価格（当時のペソでの表示 kg当り）

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1972	0,4	0,7	0,7	0,5	0,5	0,6	0,5	0,6	0,8	0,5	0,6	0,5
1973	0,7	0,8	1,1	0,8	1,0	1,5	2,7	2,4	2,0	1,5	0,9	0,7
1974	0,6	0,9	0,8	0,8	-	1,3	1,2	1,2	1,3	1,3	1,5	1,3
1975	1,9	2,6	3,2	4,3	4,1	4,3	6,2	11,4	16,0	12,9	10,9	9,5
1976	11,3	11,4	15,1	16,1	14,5	15,5	13,7	15,1	17,1	14,3	13,5	14,9
1977	19,4	21,4	44,1	43,7	42,3	44,9	63,1	71,4	86,5	57,6	53,4	40,9
1978	78,7	90,6	111,3	105,5	120,8	198,7	289,6	268,4	159,2	119,5	78,8	94,1
1979	100,9	186,6	314,0	254,8	269,4	281,4	224,6	234,3	216,0	168,2	299,5	557,4
1980	527,6	521,0	405,4	354,2	343,5	407,3	312,7	305,0	559,0	482,0	565,0	523,0
1981	404,0	515,0	573,0	812,0	982,0	1687,0	2112,0	2080,0	1990,0	1108,0	1216,0	1116,0

出典：国営野菜市場

表 2.3-5 タマネギ：月別平均価格（1981.12 現在のペソで表示 kg当り）*

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
1972	1312	2263	2181	1709	1396	1567	1369	1500	2149	1264	1509	1154	1614
1973	1504	1743	2168	1649	1794	2732	5029	4372	3669	2617	1643	1207	2516
1974	1131	1681	1336	1408	-	2059	1895	1781	1912	1804	2001	1720	1703
1975	2340	2887	3300	4367	3892	2851	3116	4987	6204	4591	3517	2817	3739
1976	2792	2196	1883	1587	1366	1395	1163	1187	1233	985	873	902	1463
1977	1034	1066	2116	1982	1806	1797	2390	2400	2713	1590	1367	1004	1772
1978	1754	1917	2159	1877	1972	3095	4299	3608	2040	1393	846	951	2164
1979	926	1586	2470	1883	1826	1726	1282	1166	1021	787	1355	2459	1541
1980	2232	2117	1586	1334	1228	1356	1012	959	1708	1397	1596	1465	1499
1981	1105	1339	1422	1793	2007	2905	3223	2904	2592	1360	1345	1118	1926
平均	1613	1879	2062	1959	1921	2148	2478	2492	2524	1779	1605	1480	1995

出典：国営野菜市場のデータに基づく独自の作成

* 一般卸売物価指数 基準 1960 = 100 による実質化

表 2.3-6 タマネギ：メンドサで加工される原料と加工商品

期 間	1976/77	1977/78	平 均
工場加工用タマネギの 平均価格 (当時のペソ/kg)	20,00	200,00	-
(1981.12 現在のペソ/kg) (1)	1067,00	4457,00	2762,0
使用原料 (トン)	90,30	138,10	114,2
原料金額 (その当時のペソ表示 千ペソ)	1806,0	27620,0	-
(1981.12 現在のペソ表示 千ペソ)	96363,0	615484,0	355923,0
加工商品 (1/2 kg 容器 千個)	8,1	9,0	8,5
(1 kg 容器 千個)	-	64,4	32,2

出典：DEIE 及び CAFIM のデータに基づく独自の作成。

2.3.4 貿 易

輸出货量及びトン当り FOB

表 2.3-7 タマネギ：輸 出

価格を表 2.3-7 に示した。

輸出货量は、全生産量から見れば取るにたらない。その上、年毎の変動が大きく、最近 8 年間は連続して減少している。輸出国は各年毎に一定しておらず、散発的な輸出が続いている。最近ではウルグアイに対してある程度安定した輸出が行なわれている。ブラジルが輸入するときは大部分を占める(表 2.3-8)。

年	数 量 (トン)	金 額 (US\$)	価 格 (US\$/トン)
1970	1.437	191.756	133
1971	3.512	314.450	89
1972	9.269	750.172	81
1973	16.597	2.112.725	127
1974	12.255	1.753.661	143
1975	464	77.113	166
1976	4.189	671.647	160
1977	4.424	727.306	164
1978	13.839	3.441.501	249
1979	3.033	557.780	184
1980	1.458	370.416	254
1981 (2)	80	24.810	310

出典：INDEC

(2) 3 月迄

表 2.3-8 仕向先国別タマネギ輸出数量 (トン)

国	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980
西 独	25	--	--	301	--	140	20
オ リ ビ ア	125	--	--	--	--	--	--
ブラジル	10.827	--	--	--	7.952	--	81
チリ	--	206	--	125	--	--	--
デンマーク	125	--	--	--	--	--	--
フランス	--	--	--	1.195	--	--	40
オランダ	66	--	--	1.118	2.601	--	--
パラグアイ	525	200	2.778	175	--	--	--
英 国	268	--	--	125	--	--	--
スウェーデン	294	--	971	1.275	--	--	--
ウルグアイ	--	--	541	--	3.286	2.685	1.200
その他の国	--	--	--	112	--	--	100
TOTALS	12.255	464	4.190	4.424	13.839	3.033	1.441

出典：INDEC

* 11 月迄に相当する仮の数字。

2.4 エンドウ

2.4.1 栽培及び生産

アルゼンティンでのエンドウの栽培面積は全野菜栽培面積の5%を占め、生産額では全体の1%である。(1)

最近10年間のエンドウに関するデータを表2.4-1、2.4-2及び2.4-3に示す。

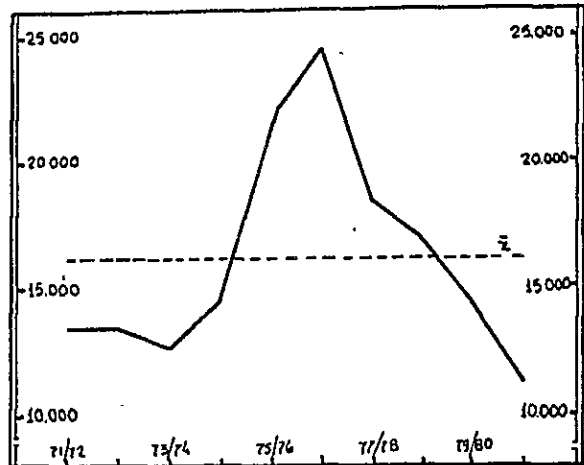
栽培面積は、1976/77期に約25,000 haに達した後は毎年減少して、最近2年間では過去10年間の平均以下になっている(図2.4-1)。

収量の推移を図2.4-2に示す。かな

りの変動が見られ、最近2年間では10年間の平均以上となっている。

表2.4-1、2.4-2、2.4-3 最近10年間のさや付エンドウのデータ栽培及び生産

図2.4-1 さや付エンドウ：栽培面積の推移
(1971/72~1980/81 10年間) (ha)



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

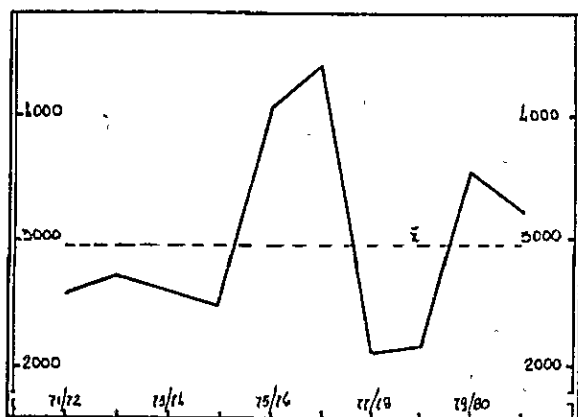
期 間	Total	Buenos Aires	Catamarca	Corrientes	Jujuy	Mendoza	Rio Negro	Salta	San Juan	Santa Fé	Sgo. del Estero	Tucumán	その他 の 州
播 種 面 積 (ヘクタール)													
1971/1972	13,400	4,740	27	680	356	760	57	335	46	3,200	470	2,400	350
1972/1973	13,400	5,320	130	460	500	620	76	320	68	2,300	510	2,330	360
1973/1974	12,800	5,800	138	500	515	660	72	334	78	1,500	446	2,370	370
1974/1975	14,600	7,460	45	766	439	570	85	753	78	1,800	370	2,398	414
1975/1976	21,500	12,900	93	751	366	565	101	354	182	3,800	350	1,584	452
1976/1977	24,620	15,230	112	1,070	590	105	94	124	152	4,700	350	1,600	465
1977/1978	18,700	9,400	140	940	560	360	90	110	190	4,100	310	1,460	440
1978/1979	17,000	9,660	150	670	250	300	76	130	190	2,600	334	2,170	240
1979/1980	14,200	7,500	150	700	240	350	100	120	160	2,470	350	1,400	460
1980/1981	11,300	4,700	151	502	250	360	58	120	162	2,400	340	1,630	527
平 均	14,412	8,271	116	765	410	418	81	150	152	2,891	315	1,455	410
ヘクタール当り収量 (kg)													
1971/1972	2,574	1,464	858	2,159	3,370	6,379	1,750	3,462	3,547	2,037	2,222	4,250	1,492
1972/1973	2,711	1,536	715	2,078	3,400	5,323	1,970	3,654	3,823	2,905	2,422	4,280	1,678
1973/1974	2,601	1,495	1,000	1,985	3,300	6,362	1,956	3,591	3,808	2,524	1,996	4,262	1,784
1974/1975	2,480	1,635	2,415	1,279	3,349	6,467	2,435	3,581	3,846	2,351	2,195	4,295	1,594
1975/1976	4,044	4,039	4,667	1,902	3,596	6,991	3,941	3,506	4,000	4,135	1,968	4,331	2,897
1976/1977	4,414	6,389	4,821	1,452	5,881	6,667	5,106	4,597	3,953	3,713	1,880	4,437	2,730
1977/1978	2,112	1,716	5,500	1,591	5,089	5,789	4,444	5,556	4,909	633	2,032	4,657	2,651
1978/1979	2,168	1,675	6,257	1,395	4,071	6,133	5,263	3,923	3,947	1,700	2,994	3,917	3,091
1979/1980	3,564	3,533	6,818	1,471	4,187	3,286	5,555	4,167	4,063	4,000	3,479	7,667	3,251
1980/1981	3,236	2,936	6,999	1,155	4,280	3,222	5,517	4,808	3,951	3,502	3,235	3,755	3,530
平 均	2,994	2,642	4,070	1,656	4,101	5,794	3,794	4,035	3,910	2,670	2,428	4,185	2,470
生 産 量 (トン)													
1971/1972	31,200	6,100	24	1,900	1,280	3,700	91	1,200	165	5,400	800	10,200	420
1972/1973	32,800	6,800	93	1,700	1,700	3,360	132	1,170	260	6,100	1,735	10,000	510
1973/1974	31,400	7,900	138	420	1,700	4,250	141	1,200	297	3,600	727	10,100	527
1974/1975	34,200	12,700	170	630	1,470	3,400	207	1,330	300	2,400	670	10,300	593
1975/1976	84,100	52,100	434	780	1,298	3,950	398	1,280	778	14,300	507	6,250	1,075
1976/1977	51,300	19,830	540	1,490	3,470	705	490	570	642	14,940	430	7,100	1,108
1977/1978	34,000	15,000	770	1,400	2,850	1,100	400	500	540	2,400	630	4,400	1,510
1978/1979	35,000	14,500	940	900	1,148	1,300	405	540	750	2,400	1,000	4,400	1,030
1979/1980	49,000	26,500	750	1,000	1,000	1,150	500	500	650	4,000	1,700	5,400	1,450
1980/1981	35,600	13,900	760	560	1,870	1,150	370	442	710	4,100	1,100	4,400	1,610
平 均	41,860	17,455	462	1,158	1,490	2,521	307	674	718	6,971	811	8,065	1,010

出典：農牧省及び独自作成。

(1) UBA (ブエノス・アイレス大学) 農学部 野菜栽培：技術図解ガイドブック 1978

生産量は、 ha 当たり収量に変動があるために、作付面積の大きさに左右されないが、1975/76は80,000トンを超えた。その後は減少し、10年間平均の近くの水準を保っている（図2.4-3）。

図2.4-2 さや付エンドウ：収量の推移
(1971/72~1980/81 10年間) (kg/ha)



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

主にブエノス・アイレス州で生産されており、全国作付面積の半分を占めている。生産量に関しては全体の40%強を占めるだけである。これは収量がそれ程高くないからである。

トクマンが生産量で第2位で、これに劣るサンタ・フェが続いている。収量が最も高いのはメンドサ州で(約6,000 kg/ha)、生産量で第4位である(図2.4-4)。

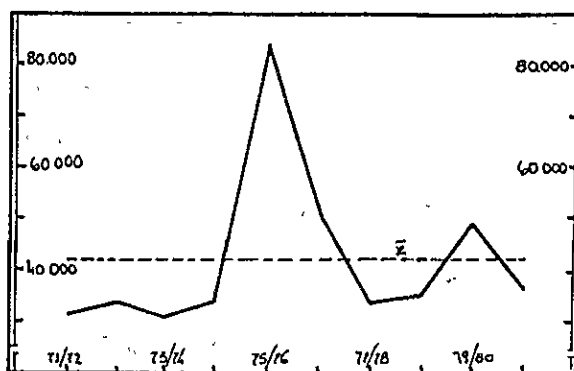
乾燥エンドウについて述べると、この栽培及び生産に関するデータを表2.4-4、2.4-5及び2.4-6に示した。

作付面積は1980/81期でその前の5年間に比べて大きく落ち込んだ(図2.4-5)。

収量はかなり変動して700 kg/ha ~2,000 kg/ha で、生産量は1977/78期に最高となり、その後は平均以下の水準に落ちている(図2.4-6及び図2.4-7)。

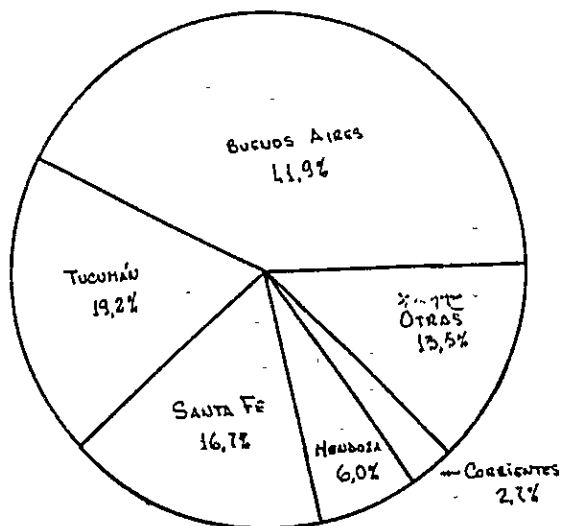
ブエノス・アイレス州が作付面積で全体の70%以上を、生産量で約70%を占めている(図2.4-8)。サンタ・フェ州は生産量で2位で、収量はブエノス・アイレス州より劣るが国全体の平均値を示している。

図2.4-3 さや付きエンドウ：生産量の推移
(1971/72~1980/81 10年間) (トン)



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

図2.4-4 さや付エンドウ：生産額のパーセント表示
(1971/72~1980/81 平均)



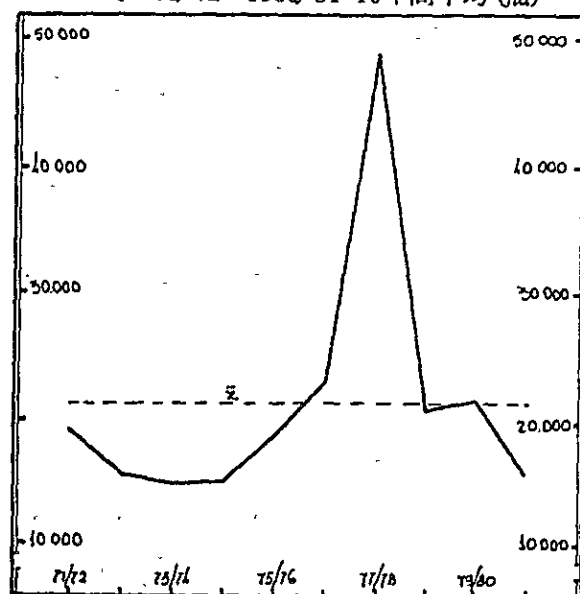
出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

表 2.4-4, 2.4-5, 2.4-6 最近 10 年間の乾燥えんどうに関するデータ栽培及び生産

期 間	Total	Buenos Aires	Chubut	Mendoza	Santa Fé	Tucumán	その他 の 州
作 付 面 積 (ヘクタール)							
1971/1972	19.260	0.000	1.543	95	8.700	900	22
1972/1973	15.860	8.410	984	90	5.300	1.050	26
1973/1974	14.700	8.450	980	100	4.100	1.050	70
1974/1975	14.800	9.900	986	40	2.800	1.060	14
1975/1976	18.290	14.140	1.000	40	2.500	600	10
1976/1977	23.000	13.300	1.000	---	8.100	600	---
1977/1978	49.000	38.000	1.000	40	11.000	360	---
1978/1979	20.700	13.300	1.000	30	5.900	470	---
1979/1980	21.200	12.500	120	30	8.200	330	---
1980/1981	15.640	8.480	140	40	6.600	355	25
平 均	21.245	13.248	815	50	6.580	611	12
ヘクタール当り収量 (kg)							
1971/1972	803	869	662	1.200	791	705	443
1972/1973	966	1.248	691	1.189	720	810	506
1973/1974	1.209	1.478	704	1.300	912	829	500
1974/1975	1.322	1.262	710	1.125	2.000	802	357
1975/1976	2.003	2.146	700	1.125	1.900	1.213	500
1976/1977	1.506	1.221	632	---	2.000	1.273	---
1977/1978	1.095	1.212	700	1.000	645	1.000	---
1978/1979	774	858	700	1.333	265	915	---
1979/1980	995	1.000	833	1.000	984	1.061	---
1980/1981	1.600	1.283	643	1.115	677	972	640
平 均	1.227	1.258	697	1.059	1.059	968	294
生 産 量 (トン)							
1971/1972	12.000	4.560	1.020	114	5.700	600	6
1972/1973	12.600	7.350	680	107	3.600	850	13
1973/1974	16.100	11.000	690	130	3.400	870	10
1974/1975	19.300	12.500	700	45	5.200	850	5
1975/1976	36.300	30.350	700	45	4.540	660	5
1976/1977	30.000	12.700	600	---	16.000	700	---
1977/1978	46.000	40.000	700	40	4.900	360	---
1978/1979	12.000	10.300	700	40	530	430	---
1979/1980	18.600	12.000	100	30	6.100	350	---
1980/1981	14.450	9.770	90	29	4.200	145	16
平 均	21.755	15.053	598	29	5.211	461	16

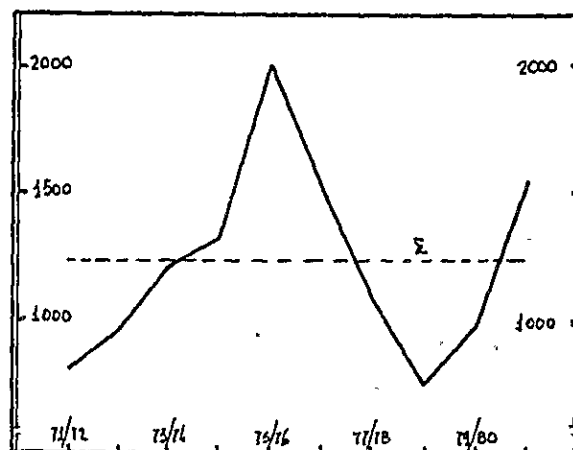
出典：農牧省及び独自の作成。

図 2.4-5 乾燥エンドウ：栽培面積の推移
(1971/72~1980/81 10年間平均 (ha))



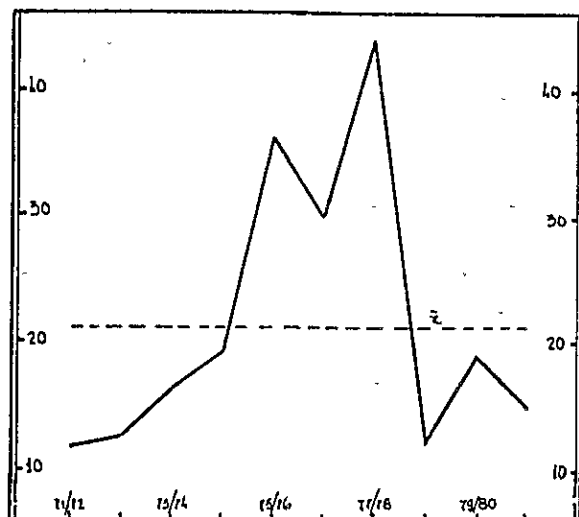
出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

図 2.4-6 乾燥エンドウ：収量の推移
(1971/72~1980/81 10年間平均)
(kg/ha)



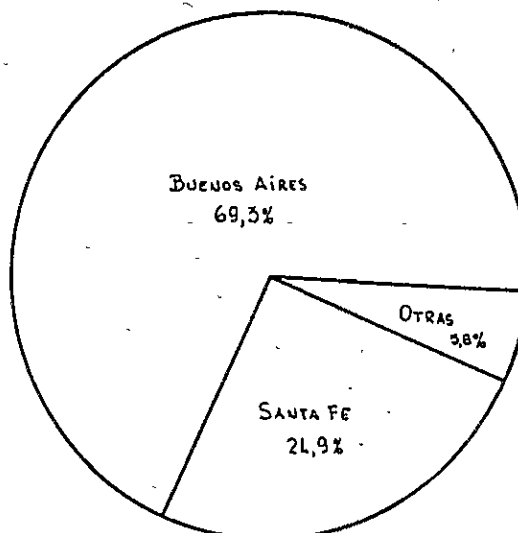
出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

図 2.4-7 乾燥エンドウ：生産量の推移
(1971/72~1980/81 10年間平均) (ha)



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成

図 2.4-8 乾燥エンドウ：生産量のパーセン
表示 (1971/72~1980/81 10年間平均)



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

2.4.2 市場及び消費

この点に関しては、用途別に見ることが有用であると考えられる(表2.4-7)。

市場向けエンドウは、主にトウクマン及びロサリオ市近郊で生産されている。加工用エンドウは、ブエノス・アイレス州(主に、サン・ニコラス、ラマリヨ、ペルガミノ及びサルトの各地区)及びサント・フェ州(ロサリオ及びコンスティトゥションの両地区)で生産されている。

ブエノス・アイレス市には、さや付きエンドウが5,000 トン/年 出荷されており、一人当たりの消費は1.2 kg/年である。(1) 大部分がかん詰の形で消費されている。

生食用エンドウ豆の市場への入荷は8月から11月が最大であり、12月と1月には減少してくる。その他の月は非常に少ない。

表 2.4-8 及び 2.4-9 にエンドウの連邦首都アバスト市場での最近10年間の月別価格を示す。図 2.4-9 で解るように、市場への入荷が多い時期、特に10月、11月及び12月の3か

(1) UBA 農学部 野菜栽培：技術図解ガイドブック。

表 2.4-7 エンドウ：用 途

- | | |
|----------------|---|
| a) | 軟らかいさやのエンドウまめ：Cometodo (コメトド) 種。このままで消費される。 |
| b) | エンドウまめ |
| b ₁ | 生での消費(さや付きで市場化) |
| b ₂ | かん詰 |
| b ₃ | 冷凍 |
| b ₄ | 水漬け：粒ぬき生エンドウ豆として販売 |
| c) | 乾燥エンドウ豆 |
| c ₁ | 割っていない品 |
| c ₂ | 割った品 |
| c ₃ | 粉 |
| c ₄ | 水漬けかん詰 |
| d) | 生肥料 |
| e) | まぐさ |
| e ₁ | 直接に消費される品 |
| e ₂ | 貯蔵品 |

出典：UBA (ブエノスアイレス大学) 農学部
野菜栽培講座

表 2.4-8 さや付きエンドウ：月別平均価格（当時のペソで表示 kg当り）＊

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1972	1,5	2,0	-	1,7	1,2	1,4	2,2	1,7	2,5	1,9	1,5	2,0
1973	2,2	2,4	-	3,4	5,6	4,2	4,2	3,8	2,8	2,5	2,5	2,8
1974	3,0	2,8	3,2	3,8	4,1	3,9	5,1	4,5	3,8	4,8	3,7	-
1975	7,4	5,5	-	-	7,7	8,1	-	-	24,9	12,9	12,4	26,4
1976	24,1	25,0	42,5	41,1	35,2	52,4	55,4	54,7	47,0	31,7	35,7	40,4
1977	51,7	70,8	-	-	124,7	135,6	-	289,7	127,7	112,9	133,1	167,6
1978	165,0	141,7	150,0	-	332,8	406,7	417,5	262,6	636,1	415,9	447,5	469,3
1979	-	-	-	-	-	903,8	1500,0	1400,7	1342,5	1209,5	1075,5	1344,4
1980	1573,5	1666,0	-	-	-	-	-	3504,0	2888,0	1909,0	1370,0	1483,0
1981	1600,0	-	-	-	-	-	-	-	3620,0	2292,0	3916,0	5640,0

出典：アバスト市場

*一般卸売物価指標 基準 1960 = 100 による実質化

表 2.4-9 さや付きエンドウ：月別平均価格（1980.12現在のペソで表示 kg当り）

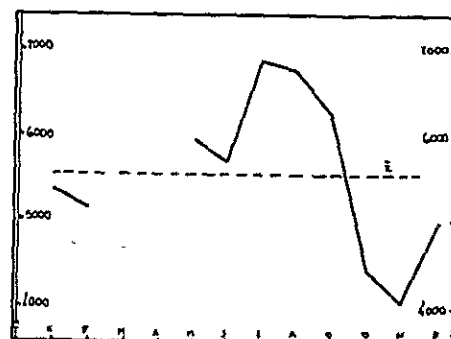
年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
1972	5285	6858	-	5318	3520	4046	6134	4633	6295	4733	3554	4806	5016
1973	4826	5103	-	6520	10013	7667	7544	6948	5097	4585	4563	5080	6177
1974	5441	4954	5648	6746	6895	6307	8019	6804	5575	6747	4982	-	6193
1975	9174	6083	-	-	7373	5409	-	-	9630	4602	4008	7780	6757
1976	5954	4803	5299	4058	3312	4715	4701	4293	3388	2190	2309	2454	3956
1977	2756	3528	-	-	5323	5429	-	9743	4007	3117	3408	4118	4603
1978	3677	2999	2911	-	5433	6335	6200	3589	8150	4847	4806	4739	4881
1979	-	-	-	-	-	5545	8559	6971	6347	5659	4864	5931	6268
1980	6657	6769	-	-	-	-	-	11017	8823	5534	3869	4155	6689
1981	4376	-	-	-	-	-	-	-	4717	2815	4331	5640	4376
平均	5350	5137	-	-	5981	5682	6859	6750	6203	4483	4069	4967	5492

出典：アバスト市場のデータに基づく独自の作成。

(1) 一般卸売物価指標 基準 1960=100による実質化 (2) 5つ以上の数値がある列についてのみ平均値計算
月間は価格が下がる。

図 2.4-9 さや付きエンドウ：月別価格
（1972/81 10年間平均）

（1981.12現在のペソで表示）＊



現行貨幣水準表示の各年毎 kg当り価格の推移に就いて言えば、価格の非常に高い所と非常に低い所とが見られ、これが明らかに周期的に現われている（図 2.4-10）。

過去 10 年間では、1980 年が最高で、1981 年が最低であった。

乾燥エンドウ豆は、ブエノス・アイレス穀物取引所で取引されている。この価格は、

表 2.4-10 乾燥エンドウ：滑らか品種 当時の価格で表示したkg当り平均価格

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1976	9,3	13,8	19,1	32,1	36,7	32,9	34,7	35,1	33,2	32,9	28,8	30,6
1977	41,0	43,0	41,0	46,0	52,0	47,0	60,0	69,0	76,0	75,0	75,0	72,0
1978	80,0	89,0	93,0	121,0	155,0	188,0	228,0	250,0	250,0	250,0	285,0	327,0
1979	330,0	330,0	341,0	364,0	399,0	449,0	504,0	510,0	510,0	500,0	450,0	437,0
1980	450,0	450,0	422,0	420,0	406,0	420,0	420,0	420,0	420,0	420,0	423,0	440,0

表 2.4-11 乾燥エンドウ：滑らか品種 現行貨幣水準で表示したkg当り平均価格
(1981.12 現在のペソで表示) *

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平 均
1976	2298	2647	2376	3170	3461	2964	2947	2759	2395	2273	1865	1857	2564
1977	2188	2144	1967	2087	2220	1881	2272	2321	2384	2070	1920	1769	2132
1978	1783	1884	1805	2153	2530	2929	3385	3417	3203	2914	3061	3302	2697
1979	3212	2975	2682	2690	2704	2755	2876	2538	2411	2339	2035	1928	2597
1980	1904	1828	1651	1582	1451	1399	1359	1320	1283	1218	1195	1233	1452
平 均	2277	2296	2096	2336	2473	2386	2568	2471	2335	2163	2015	2018	2286

出典：穀物取引所仲裁会議所のデータに基づく独自の作成。

* 一般卸売物価指標 基準 1960 = 100 による実質化。

表 2.4-12 乾燥エンドウ：Perfection 品種 当時の価格で表示したkg当り平均価格

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1976	5,5	6,8	9,5	15,3	15,3	16,5	20,1	21,3	21,3	21,3	22,9	28,3
1977	38,0	39,0	40,0	46,0	51,0	43,0	40,0	48,0	50,0	50,0	62,0	69,0
1978	73,0	75,0	81,0	91,0	118,0	134,0	150,0	150,0	150,0	150,0	165,0	170,0
1979	170,0	191,0	200,0	200,0	222,0	302,0	334,0	350,0	350,0	341,0	300,0	300,0
1980	300,0	300,0	s/c	s/c	s/c	s/c	s/c	s/c	s/c	s/c	s/c	s/c

表 2.4-13 乾燥エンドウ：Perfection 品種 現行貨幣水準で表示したkg当り平均価格
(1981.12 現在のペソで表示) *

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平 均
1976	1354	1310	1184	1510	1442	1488	1702	1672	1536	1471	1480	1721	1489
1977	2028	1945	1919	2087	2177	1721	1515	1614	1569	1380	1587	1695	1770
1978	1627	1587	1572	1619	1926	2087	2227	2550	1922	1748	1772	1716	1821
1979	1560	1623	1573	1478	1505	1853	2020	1742	1655	1595	1360	1324	1607
1980	1269	1219	s/c	s/c	s/c	s/c	s/c	s/c	s/c	s/c	s/c	s/c	-
平 均	1568	1536	1562	1673	1762	1787	1866	1769	1670	1548	1550	1614	1659

出典：穀物取引所仲裁会議所のデータに基づく独自の作成。

* 一般卸売物価指標 基準 1960 = 100 による実質化

滑らか表面エンドウ（これの方が高価）とざらざら表面エンドウとで異なっている（表 2.4-10, 2.4-11, 2.4-12 及び 2.4-13）。どちらの場合でにせよ最高価格は 7 月（生エンドウ豆に同じ）、最低価格は 10 月から 3 月の間である（図 2.4-11 及び 2.4-13）。

各年毎の価格の変動（現行貨幣水準）は、両品種の間に相異が見られる（図 2.4-12 及び 2.4-14）。1977 年に於て、滑らか品種の価格は前年度より下降しているが、一方、ざらざら品種の方は上昇している。

両品種共に 1978 年は上昇し、1979 年には滑らか品種の方がその程度が少ないが、下降している。1980 年の下降は非常に大きい。滑らか品種は 5 年間中の最低価格を記録し、一方、ざらざら品種は、年の初めの 2 か月だけが相場が付けられている。

2.4.3 加工

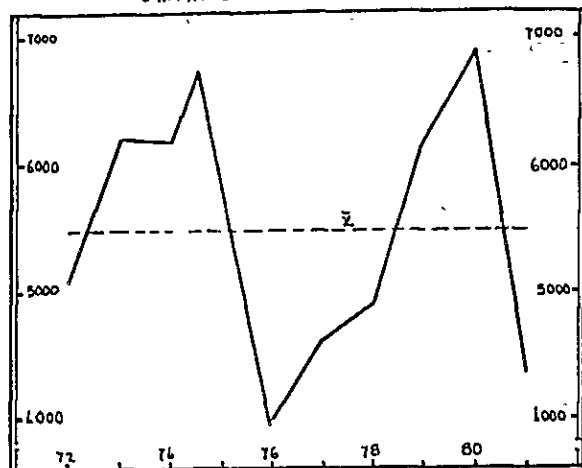
加工用エンドウの 75% がブエノス・アイレス州及びサンタ・フェ州南部で生産されている。

毎年、約 4 千万個の生エンドウのかん詰と約 4 千万個の水漬乾燥エンドウ豆のかん詰が作られている（UBA 農学部「野菜栽培」から引用）。

加工用生エンドウの場合、生産者は播種から束作り迄の全ての作業を行ない、この束の状態のエンドウを工場に販売する。そして、工場がさや取りと運搬を担当する。

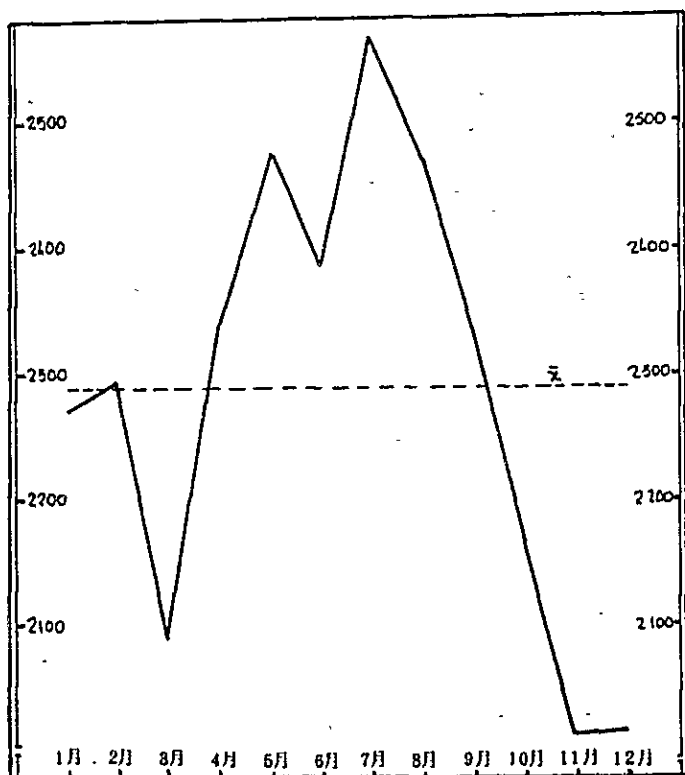
加工用エンドウ豆の収穫は、乾燥用エンドウ豆に比べて収穫期が約 1 か月早いため安定して

図 2.4-10 さや付乾燥エンドウ：各年平均価格（1981.12 現在のペソで表示）*



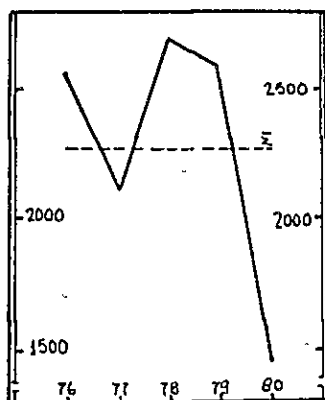
出典：アバスト市場のデータに基づく独自の作成。
* 一般卸売物価指標 基準 1960=100 による実質化

図 2.4-11 乾燥エンドウ：滑らか品種 月別価格（1976/80 5 か年平均）（1981.12 現在のペソで表示 kg 当り）*



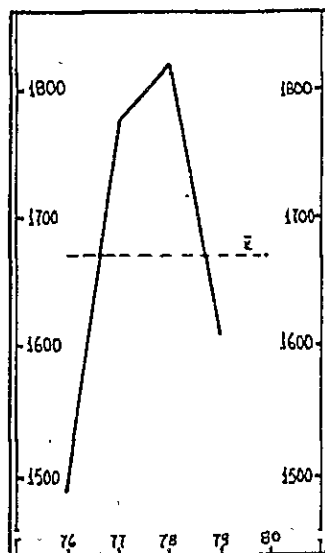
出典：ブエノス・アイレス穀物取引所のデータに基づく独自の作成
* 一般卸売物価指数 基準 1960 = 100 による実質化

図 2.4-12 乾燥エンドウ：滑らか
品種各年別平均価格（1981.12
現在のペソで表示）*



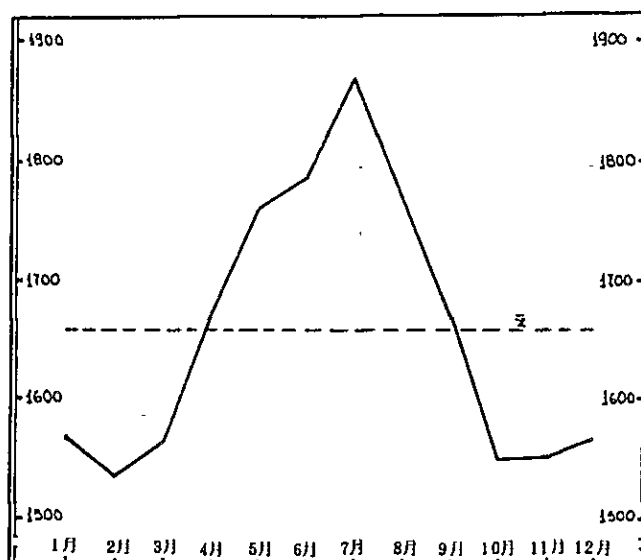
出典：穀物取引所のデータに基づく独自の作成。

図 2.4-14 乾燥エンドウ：Perfection
品種 各年別平均価格
（1981.12 現在のペソ表示kg当り）⁽¹⁾



出典：穀物取引所のデータに基づく独自の作成。

図 2.4-13 乾燥エンドウ：Perfection 品種 月別価格
（1976/80 5 か年平均）
1981.12 現在のペソで表示 kg当り*



出典：穀物取引所のデータに基づく独自の作成。

(1)* 一般卸売物価指標 基準 1960=100による実質化

いる。

生のエンドウはアルゼンティンでは貯蔵されることがない。従って、加工用エンドウが不足あるいは過剰になることを防ぐために、播種時期をずらすことが重要で、工場はこれをコントロールするため、価格及び播種面積を契約によって定めている。

メンドサ州で実施される生エンドウの加工はかなり量の達している。表 2.4-14 及び 2.4-15 に、原料価格と同州加工製品の価格とを示す。

表 2.4-14 メンドサでの加工用生エンドウ豆の価格
及び金額（工場渡し）

期 間	価 格 当時の価格 /kg	原 料 1981.12 現在の価格/kg	原 料 (トン)	当時の価格 での金額 千ペソ	1981.12 現在の ペソ表示の原料 金額 千ペソ kg当り ⁽²⁾
1971/72	0,40	1458	298,0	119,2	434.481
1972/73	1,51	3389	287,7	434,4	975.082
1973/74	1,45	2604	148,6	215,5	386.963
平 均	-	2484	244,8	-	598.842

出典：DEIE及びCAPIMのデータに基づく独自の作成

(2) 一般卸売物価指標 基準 1960=100 による実質化

表 2.4-15 生エンドウ豆：メンドサ製品の価格、数量及び金額

期 間	1971/72	1972/73	1973/74	1976/77	平 均
½kg容器製品 千個	596	575,4	746	931	712
平均価格 (½kg容器)					
当時のペソ表示					
1981.12現在のペソ表示(1)	1,15 4192	2,00 4489	2,55 5724	74,0 3948	- 4588
製品金額					
当時のペソ表示 千ペソ	685,4	1150,8	1902,3	68903,5	-
1981.12現在のペソ表示 千ペソ	2498264	2583159	4270024	3676484	3255983

出典：DEIE及びCAFIMのデータに基づく独自の作成

(1) 一般卸売物価指標 基準 1960 = 100 による実質化。

2.4.4 貿 易

表 2.4-16 えんどう豆：輸出

海外への輸出は、19	年	数 量 (トン)	金 額 (US\$)	価 格 (US\$)
75年又は1976年以降	1970	367	76.225	208
に重要性を増し始めた	1971	746	104.153	140
(表 2.4-16)。本表で	1972	85	21.631	254
その当時のFOB価格	1973	116	14.914	128
を示す。	1974	270	164.038	607
	1975	1.048	79.484	76
	1976	15.809	3.333.002	211
	1977	44.939	8.462.987	188
	1978	44.437	9.118.271	205
	1979	6.175	2.150.171	348
	1980	21.457	8.513.975	397
	1981(2)3月迄	2.127	753.398	354

表 2.4-17 乾燥エンドウ豆：
国際実質価格

出典：INDEC

(ドル/トンFOB)*

年	価 格
1970	208
1971	135
1972	236
1973	112
1974	434
1975	49
1976	127
1977	106
平 均	176

国際実質価格は大きな変動を示している(表 2.4-17)。表 2.4-18 に相手国別の輸出量を示す。主な輸出国はブラジルとオランダである。

出典：経済省。アルゼンティン農牧部
門の現状と展望 1978/79

*一般卸売物価指標 基準 1960 = 100

表 2.4-18 相手先国別エンドウ豆輸出数量 (トン)

IN	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980*
ブラジル	--	--	10.356	--	10.506	3.895	10.465
コロンビア	--	--	--	--	2.134	--	--
フランス	193	--	--	--	--	--	--
オランダ	--	979	3.272	--	26.930	2.243	3.964
イタリア	75	30	--	--	90	--	335
南ア共和国	--	--	--	--	1.200	--	--
ウルグアイ	--	--	17	--	1.111	60	255
その他の国	--	19	176	--	2.466	--	4.744
TOTALES	270	1.048	15.821	--	44.437	6.198	19.783

出典：INDEC

* 本年は最初の11か月間に相当する数字。

2.5 いちご

2.5.1 栽培及び生産

本商品の栽培形態は、栽培が行なわれる緯度によって異なっており、全国を三つの地域に分けることが出来る。

ロサリオ市より北に位置する地域の栽培は（ここでは冬が温暖で、冬は明確でない）周年栽培されている。マル・デル・プラタ市より南に位置する地域（冬が明確にある）は、多年栽培される。これらの中間地域では、各年の気候条件及び経済条件に準じて、両者の内のどちらか栽培形態が採用されている。

北部地帯で最も重要な栽培地はトウクマン州に存在する。中部地帯では、これがコロンダ市（サンタ・フェ州）及びサン・ペドロ市（ブエノス・アイレス州）に存在する。南部地帯で最も重要なのは、バリロチェ及びエル・ボルソン（両地共にリオ・ネグロ州）、そして、コロニア・サルミエント（チュブト州）及びイラリオ・アスカスビ（ブエノス・アイレス州）である。

表 2.5-1, 2.5-2 及び 2.5-3 に於て、最近 10 年間の本商品の栽培及び生産に関するデータを示す。

栽培面積は 1,000 ～ 1,300 ヘクタールの間を変動しており（図 2.5-1 ），

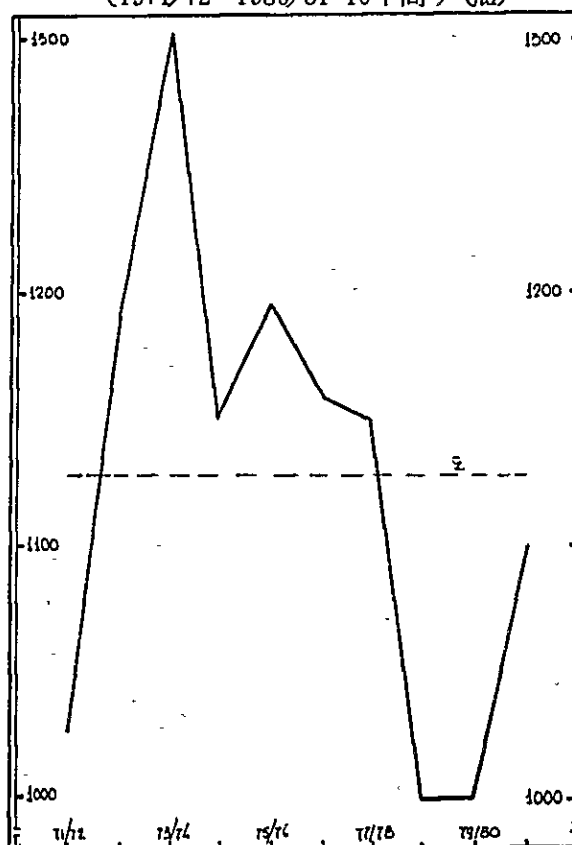
表 2.5-1, 2.5-2, 2.5-3

最近 10 年間のいちごに関するデータ栽培及び生産

期 間	Total	Buenos Aires	Santa Fe	Tucumán	その他 の 州
栽 培 面 積 (ヘクタール)					
1971/1972	1,029	178	730	27	54
1972/1973	1,190	220	800	10	171
1973/1974	1,300	277	815	15	193
1974/1975	1,150	300	638	30	182
1975/1976	1,192	170	670	69	173
1976/1977	1,180	166	570	75	269
1977/1978	1,150	300	520	20	250
1978/1979	1,000	200	140	60	500
1979/1980	1,000	250	457	27	266
1980/1981	1,100	310	490	38	262
平 均	1,121	278	515	47	271
ヘクタール当り収益率 (kg)					
1971/1972	2,561	811	3,000	4,000	1,000
1972/1973	2,414	1,400	2,300	4,000	2,530
1973/1974	2,118	2,346	2,330	6,000	2,430
1974/1975	2,080	2,433	2,305	6,000	4,631
1975/1976	2,556	1,969	4,237	8,507	2,005
1976/1977	2,834	2,551	4,040	6,800	3,121
1977/1978	2,691	2,500	2,000	6,500	2,230
1978/1979	4,845	2,600	4,125	2,433	5,807
1979/1980	6,896	2,300	4,446	10,000	5,400
1980/1981	6,900	2,671	4,479	10,000	5,300
平 均	3,405	2,444	3,681	6,562	3,741
生 産 額 (トン)					
1971/1972	2,670	120	2,100	100	130
1972/1973	2,860	220	2,100	120	220
1973/1974	4,000	610	2,714	270	406
1974/1975	3,400	730	2,070	180	500
1975/1976	4,140	630	2,500	547	471
1976/1977	4,300	880	2,000	660	760
1977/1978	3,400	900	1,500	170	630
1978/1979	4,700	120	660	230	2,890
1979/1980	4,600	240	2,000	190	1,970
1980/1981	4,500	220	2,120	190	1,970
平 均	3,432	1,222	2,122	210	1,981

出典：農牧省及び独自の作成。

図 2.5-1 いちご：栽培面積の推移
(1971/72～1980/81 10年間) (ha)



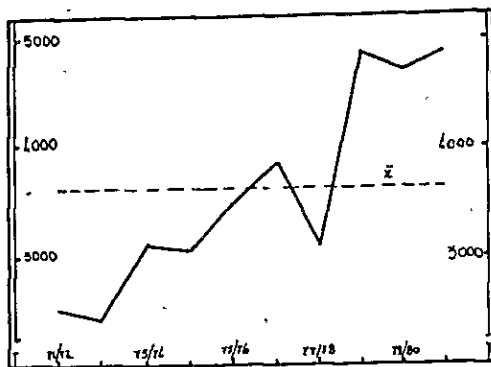
出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

その平均値は1,100ヘクタールを若干上った所にある。

ha当り収量は10年間を通して明らかな増加傾向にあり、最初の年の2,500 kg/haから始まって、最終年には約5,000 kg/haとなっている。すなわち、この10年間で収量は実際に2倍となっているのである。(図2.5-2)。

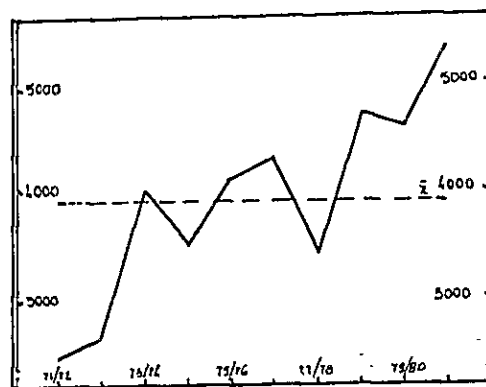
生産量は、1971/72期の2,500トン弱から1980/81期の5,400トンに迄増加した(図2.5-3)。

図2.5-2 いちご：収量の推移 (kg/ha)
(1971/72~1980/81 10年間)



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

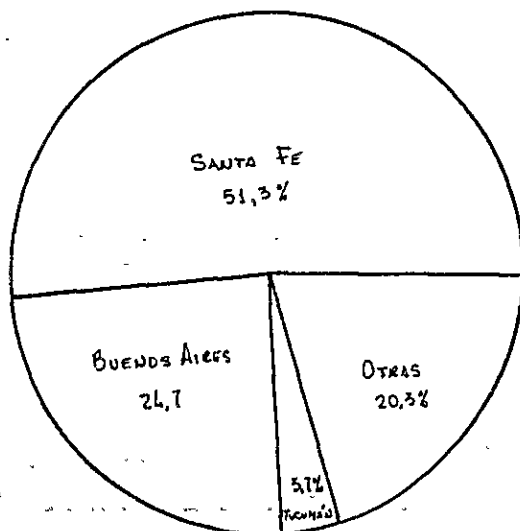
図2.5-3 いちご：生産量の推移 (トン)
(1971/72~1980/81 10年間)



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

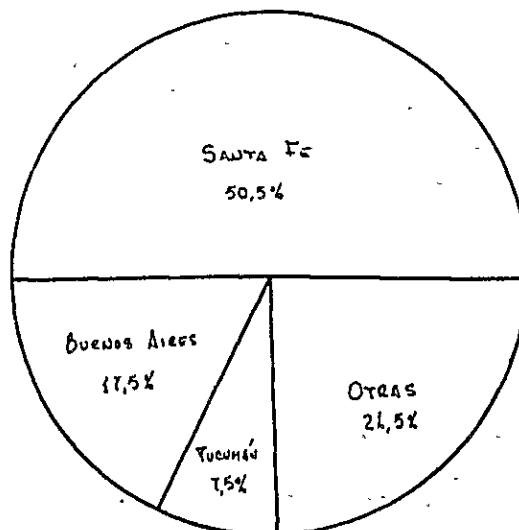
栽培面積は、既に述べた様にその大部分(51.3%)がサンタ・フェ州(図2.5-4), 特にコロンダに集まっている。

図2.5-4 いちご：栽培面積のパーセント表示
(1971/72~1980/81 10年間平均)



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

図2.5-5 いちご：生産量のパーセント表示
(1971/72~1980/81 10年間の平均)



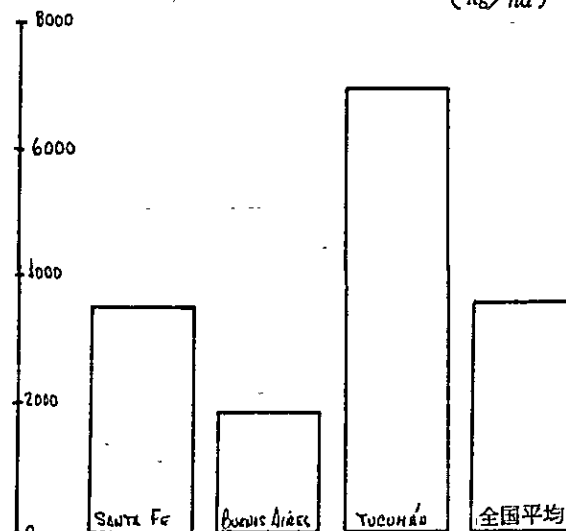
出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

ここでの収量は全国の平均値に等しく生産量は全国生産額の2分の1強を占めている(図2.5-5及び2.5-6)。

栽培面積及び生産量で第2位の州はブエノス・アイレス州であるが、この収量は低い(ヘクタール当り2,000 kg以下)。

第3位はトゥクマン州であり、主要生産州の中で収量が最も高い。

図2.5-6 いちご：主要生産州の平均収量
(1971/72~1980/81 10年間の平均)
(kg/ha)



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

2.5.2 消費

1970年代の10年間の年当り平均消費量⁽¹⁾は、国民1人当りで184グラムとなっており、全果物の一人当りの年平均消費量の0.12%を占めるにすぎない(表2.5-4)。

5-4)。

表2.5-4 いちご：消費 (kg/国民1人年)

いちごは果物ではないが、その流通は果物と同様に扱われているので、ここでは果物に含める。

年	全果物	大いちご	%
1970	118,178	0,083	0,07
1971	121,339	0,114	0,09
1972	106,537	0,106	0,10
1973	96,552	0,109	0,11
1974	126,701	0,159	0,13
1975	114,083	0,136	0,12
1976	104,313	0,160	0,15
1977	114,095	0,164	0,14
1978	95,168	0,131	0,14
1979	109,099	0,177	0,16
平均	110,607	0,134	0,12

出典：フランシスコ・ヒオビオ。新鮮果物消費の比較表
1970-79 10年間。アルゼンティン果物生産協会
会報 No 1 / 81 1981. 6

2.5.3 貿易

本商品の外国からの輸入量または輸出量は、統計にのぼるほどの水準には達していない。

2.6 モモ

2.6.1 栽培及び生産

モモの生産量は、我が国で作られている果物の中でリンゴ、オレンジ、レモンに続いて第4位である。

モモは、連邦首都の郊外に今世紀の初めから最も多く栽培されている果樹の一つであり、これと共に梅も首都圏で作られる最も安価で最も売れる果物の一つであった。しかし、現在では病気の発生あるいは土壌の問題から栽培されていない。

今日では、モモの最も重要な栽培地の二つが、ブエノス・アイレス州(サン・ペドロ、

(1) 輸入数量と生産額とを加え、これから輸出数量を減じて計算をしたもの。

バラデロ、ラマリョ)及びメンドサ州に在る。

サン・ペドロ地帯では主に早生品種が栽培されている。生産者は、病疫上の理由によって(斑点病、はえ)、1月の中旬を過ぎて果物が熟した時、これを収穫する。

メンドサでは、晩生品種が優先的に栽培され、その大部分が加工に向けられている。

収穫が行なわれる時期は地域によって異なる。ブエノス・アイレス州では11月から2月、メンドサ州では11月から4月、サンタ・フェ州では11月から1月、そしてリオ・ネグロ州では1月から4月迄となっている。

表2.6-1、2.6-2、2.6-3、及び2.6-4に、1976/77～1980/81、5か年間の植付面積、収量及び生産量に関するデータを示す。

栽培面積は、最近3年間に増加が見られる(図2.6-1)。この増加の理由は、以前に実施されたデータ集計の際に含まれなかった面積がここで計算されていることによる。これらの追加された地域は、ひどい辺境地帯であるから、その収量は低いことが予想される。

表 2.6-1 モモ：合計植付面積 (ヘクタール)

期 間	Total	Bs. As.	Córdoba	Mendoza	Río Negro	San Juan	Santa Fe	その他
1976/77	37.000	9.700	1.730	17.600	2.560	630	2.080	2.700
1977/78	36.000	9.700	1.780	17.000	2.700	650	1.500	2.670
1978/79	37.000	9.700	1.730	17.800	2.800	650	1.500	2.820
1979/80	38.800	9.400	3.650	17.600	3.070	655	1.475	2.950
1980/81	45.214	8.130	3.700	25.000	3.200	573	1.500	3.111
平 均	38.803	9.326	2.518	19.000	2.866	632	1.611	2.850

表 2.6-2 モモ：生産中植付面積 (ヘクタール)

期 間	Total	Bs. As.	Córdoba	Mendoza	Río Negro	S. Juan	Santa Fe	その他
1976/77	34.400	9.350	1.730	16.600	2.090	570	1.810	2.250
1977/78	33.700	9.350	1.700	16.000	2.400	600	1.300	2.350
1978/79	35.000	9.430	1.730	17.000	2.500	630	1.300	2.410
1979/80	37.500	9.175	3.300	17.600	2.795	646	1.285	2.699
1980/81	43.852	8.020	3.324	25.000	2.900	492	1.280	2.836
平 均	36.890	9.065	2.357	18.440	2.537	587	1.395	2.059

出典：農牧省及び独自の作成。

表 2.6-3 モモ：収 量 (kg/ha)

期 間	Total	Bs. As.	Córdoba	Mendoza	Río Negro	San Juan	Santa Fe	その他
1976/77	8.227	10.909	7.110	6.386	9.091	6.316	15.193	-
1977/78	7.418	11.551	6.471	14.313	9.583	7.000	12.077	-
1978/79	8.057	11.559	5.954	5.941	10.600	6.667	12.539	-
1979/80	6.347	8.610	10.455	3.545	9.445	3.560	11.751	-
1980/81	5.062	10.062	2.316	3.500	3.276	3.372	15.234	-
平 均	7.022	10.538	6.461	4.737	8.399	5.383	13.559	-

表 2.6-4 モモ：生産量（トン）

期 間	Total	Bs. As.	Córdoba	Mendoza	Río Negro	San Juan	Santa Fe	その他
1976/77	283.000	102.000	11.800	106.000	12.300	3.600	27.300	20.000
1977/78	250.000	108.000	11.000	69.000	23.000	4.200	15.700	19.100
1978/79	282.000	109.000	10.300	101.000	26.500	4.200	16.300	14.700
1979/80	238.000	79.000	34.500	62.400	26.400	2.300	15.100	18.300
1980/81	222.000	80.700	7.700	87.500	9.500	1.659	19.500	15.441
平 均	255.000	95.740	15.060	85.180	19.540	3.192	18.780	17.508

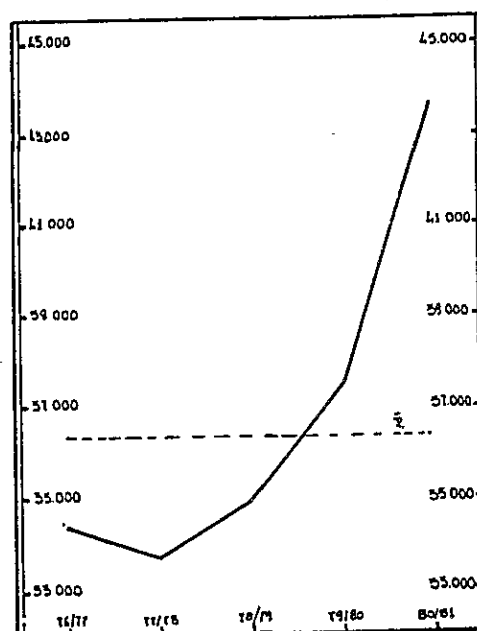
出典：独自の作成及び農牧省データ。

このことは、最近の困難な経済環境と結びついて（このため農場の管理が徹底しない所もある）、1979/80～1980/81期の収量低下に連がっている（図2.6-3）。

1981/82期は⁽¹⁾この期の生産総量は350,000トンに達して1980/81年に比べ57.6%の増加となり、最近10年間の平均（243,580トン）及び最近5年間の平均（255,000トン）を大きく上回ると予想されている。

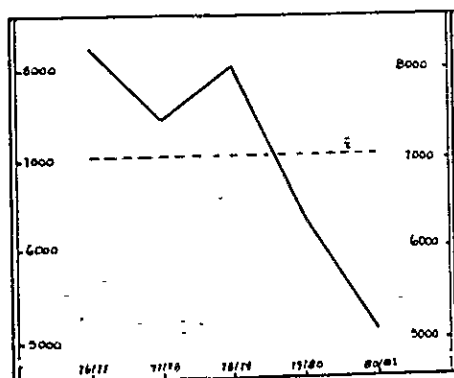
最近5か年間では、全国生産量の70%以上をブエノス・アイレス州とメンドサ州とで占めている。収量が比較的低いにもかかわらずメンドサ州の生産量が多いのは、作付面積が広いからである。リオ・ネグロ

図 2.6-1 モモ：生産中植付面積の推移
(1976/77～1980/81 5か年間 (ha))



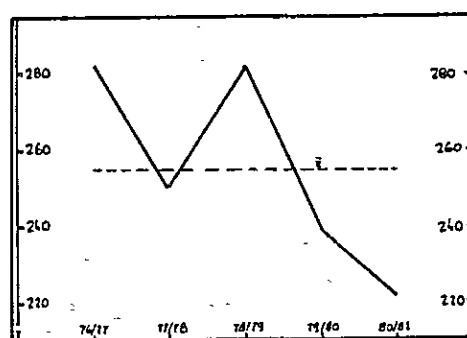
出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

図 2.6-2 モモ：収量の推移 (kg/ha)
1976/77～1980/81 5か年間



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

図 2.6-3 モモ：生産量の推移 (千トン)
1976/77～1980/81 5か年間

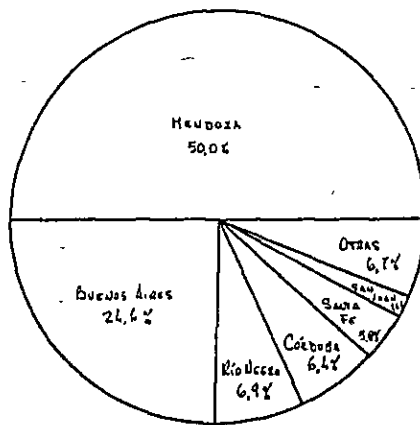


出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

(1) 農牧省 村落地区経済・社会サービス局。果物生産に関する第1回予想。EAG出版物 No 3/82, 1982. 1

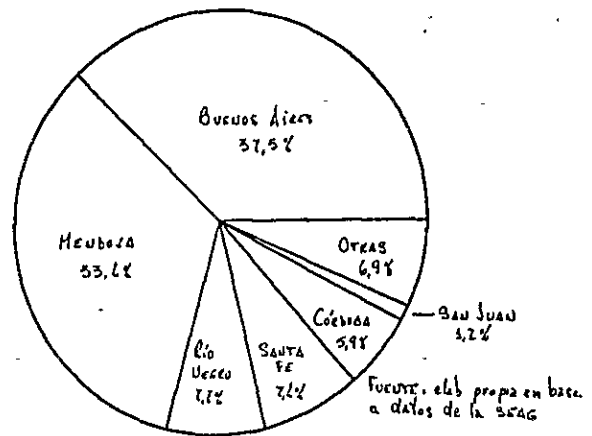
サンタ・フェ及びコルドバの各州も相当量を生産している（図 2.6-4、2.6-5 及び 2.6-6）。

図 2.6-4 モモ：生産中植付面積のパーセント表示（1976/77～1980/81 平均）



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

図 2.6-5 モモ：生産量のパーセント表示（1976/77～1980/81 平均）



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

図 2.6-6 モモ：主要生産州の平均収量（1976/77～1980/81 5 年平均）



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

2.6.2 流通及び新鮮商品の消費

ブエノス・アイレス州のモモは、メンドサ州のごく一部のモモ（大部分は加工用）と共に、生食用として出荷される。

全生産量のどの位が生食用または加工用に向けられるか信頼できるデータは無いが推定消費量を 1970/79 の 10 年間について表 2.6-5 に示す。

消費（推定）の全数量を算出するために、輸入量と生産量とを合計し、これから輸出品を減じている。国民消費量に関して言えば、国民一人当りの推定消費量が得られている。

モモは全果物消費量の約 9 % を占めている。モモは典型的な季節果物であって、市場への入荷の時期は 11 月から（10 月からの場合もある）4 月で、大部分の量が 12 月から 3 月

迄の間に取引されており、中でも1月が最も多い(図2.6-7)。

表 2.6-5 モモ：消費(推定)
(kg/国民1人・年)

年	全果物	モモ	%
1970	118,178	10,110	8,5
1971	121,339	9,560	7,9
1972	106,537	11,009	10,3
1973	96,552	3,720	3,8
1974	126,701	10,518	8,3
1975	114,083	9,823	8,6
1976	104,313	11,114	10,6
1977	114,095	10,745	9,4
1978	95,168	9,201	9,7
1979	109,099	10,489	9,6
平均	110,607	9,626	8,7

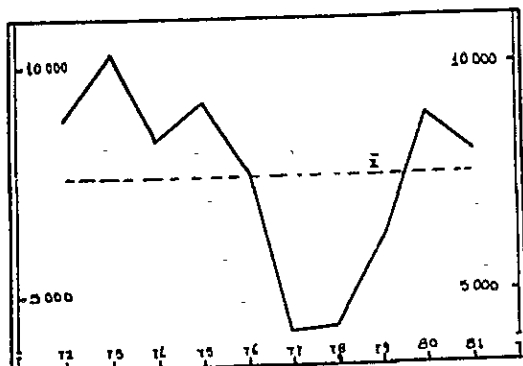
出典：フランシスコ・ヒオビオの著作から引用。

季節性がある貯蔵がきかないため
流通量は月によって大きく変動するも
の、価格の変動は少ない(図2.6-8)

供給量が増加し始める頃価格がかなり
下落するが、その後、2月以降供給
量が減少しても価格は上昇しない。こ
の理由は、モモの競争相手であるナシ
と、これに続いて他の果物が入荷され
て来るからである。

各年毎の価格の推移(図2.6-9)に
関して言えばはっきりとした周期的傾
向が認められる。

図 2.6-9 モモ：各年平均価格(1981.12
現在のペソで表示 kg当り)*



出典：アバスト市場のデータに基づく独自の作成。
* 一般卸売物価指標 基準 1960=100 による実質化

図 2.6-7 モモ：ドレゴ市場月別入荷量(1967
~1976期平均)全年度合計のパーセント表示

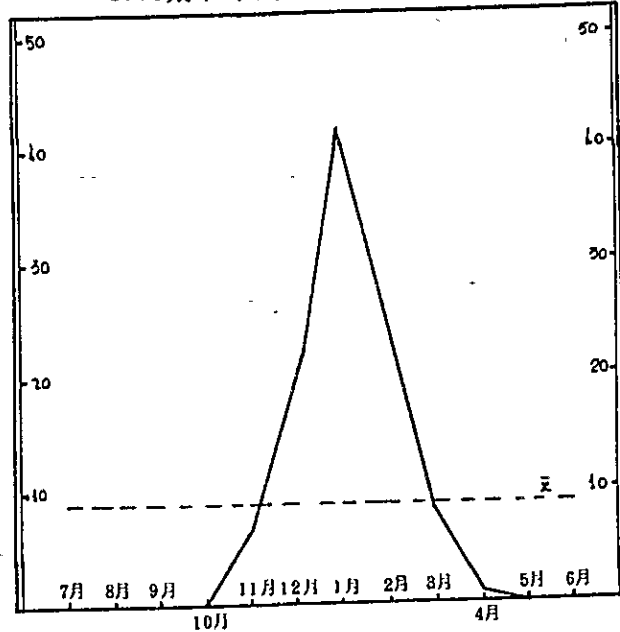
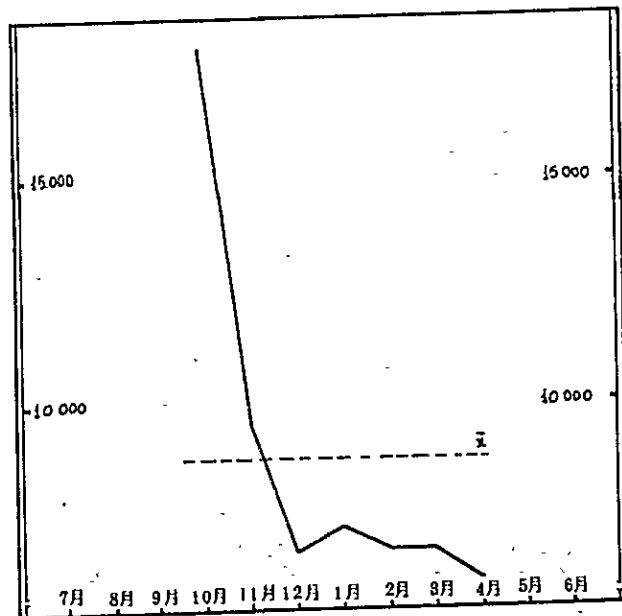


図 2.6-8 モモ：月別価格(1972~1981平均)
(1981.12 現在のペソで表示 kg当り)*



出典：アバスト市場のデータに基づく独自の作成。
* 一般卸売物価指標 基準 1960=100 による実質化。

1972年から1976年迄は平均値を上廻っているが、1977年に著しく落込んでいる。その後は緩やかな回復状態があり、1980年及び1981年になると新たに平均値を上回っている。この状態は、栽培面積の減少と一致している（図2.6-3）。

最近10年間のアバスト市場での月別価格を当時の価格と現行貨幣水準とで表示したものを表2.6-6及び2.6-7にそれぞれ示す。

表 2.2-6 モモ：月別平均価格（当時のペソ表示 kg当り）

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1972	1,8	1,9	1,8	1,2	-	-	-	-	-	-	6,3	3,8
1973	3,9	4,9	6,2	6,6	-	-	-	-	-	-	5,1	4,6
1974	4,0	3,5	3,7	4,9	-	-	-	-	-	7,2	8,8	s/d
1975	7,5	7,0	8,3	-	-	-	-	-	-	-	38,1	26,0
1976	25,7	20,5	24,9	27,4	-	-	-	-	-	369,6	138,6	57,3
1977	65,1	67,0	72,3	101,0	-	-	-	-	-	-	-	231,9
1978	203,1	229,6	227,4	240,0	-	-	-	-	-	-	154,8	627,0
1979	769,4	806,0	704,0	694,0	-	-	-	-	-	-	-	-
1980	2170,0	2560,0	2400,0	1920,0	-	-	-	-	-	-	-	3116,0
1981	3412,0	3550,0	3865,0	2940,0	-	-	-	-	-	-	8180,0	4715,0

出典：連邦首都アバスト市場

表 2.2-7 モモ：月別平均価格（1981.12現在のペソで表示 kg当り）*

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
1972	6670	6618	6112	3956	-	-	-	-	-	-	15313	9022	7948
1973	8777	10290	12163	12452	-	-	-	-	-	-	9990	8377	10225
1974	7183	6331	6646	8449	-	-	-	-	-	10297	11924	s/d	8472
1975	9336	7742	8699	-	-	-	-	-	-	-	12321	7671	9154
1976	6362	3948	3103	2703	-	-	-	-	-	25533	8962	3481	7727
1977	3471	3341	3468	4582	-	-	-	-	-	-	-	5698	4112
1978	4526	4860	4412	4270	-	-	-	-	-	-	1662	6330	4343
1979	7060	6851	5538	5128	-	-	-	-	-	-	-	-	6144
1980	9181	10401	9389	7230	-	-	-	-	-	-	-	8731	8986
1981	9332	9230	9589	6491	-	-	-	-	-	-	9047	4715	8067
平均	7190	6961	6912	6140	-	-	-	-	-	17915	9788	6753	7518

出典：連邦首都アバスト市場のデータによる独自の作成
(1) 一般卸売物価指数 基準 1960 = 100 による実質化

2.6.3 加工

我が国で生産されるモモの殆んど大部分がメンドサ州で加工される。同時に、その他の州、特にリオ・ネグロとネウケンでも相当量が加工されている。

CAVI（アルゼンティン野菜加工会議所）の推定によれば、⁽¹⁾ 我が国では通常年1kgのモモのかん詰が6,000万個と200万kgの乾燥モモとが生産されている。この200万kgという数字は、該当期間中のメンドサ州の平均生産量の数字より少くなっている（表2.6-10）。

表2.6-8に

よれば、メンドサでの生産量の85%が加工に向けられている。生産量は各期毎の変動が大き

表2.6-8 モモ：メンドサ生産の用途

期 間	生のままの出荷		加 工		州 内 消 費		合 計 (1)tn
	tn	%	tn	%	tn	%	
1971/72	16.496,3	20,2	61.141,4	74,8	4.124,1	5,0	81.761,8
1972/73	2.032,6	13,3	12.787,0	83,4	508,2	3,3	15.327,8
1973/74	12.358,7	10,9	97.411,3	86,3	3.089,7	2,8	112.859,7
1976/77	10.448,6	10,9	82.544,0	86,3	2.612,2	2,8	95.604,8
1977/78	5.121,0	7,4	62.358,6	90,7	1.280,3	1,9	68.759,9
平 均	9.291,0	12,4	63.248,0	84,5	2.323,0	3,1	74.862,0

出典：DEIE及びCAFIMそれに独自の作成。

(1) これらの数字は農牧省提供のものと異なっている。

く（図2.6-10）、加工される数量は正確にこの変動に従っていることが明白となっている。

メンドサでの加工製品の数量を表2.6-9に示す。表2.6-10に於ては、各製品毎の総数量とその割合とを示す。

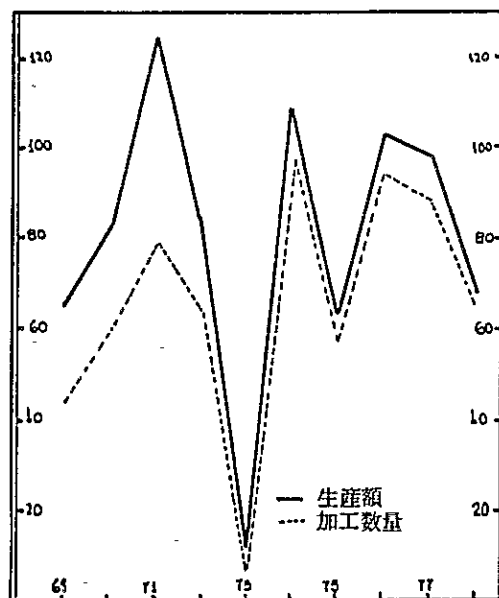
表2.6-11及び2.6-12に於て、原料価格と製品価格とを当時の価格と現行貨幣水準の価格とで表わしたものをそれぞれ示す。1972/73期において原料価格及び製品価格共に高値を示している。1976/77期に最低価格があり、1977/78期になると製品価格は回復してくるが、原料価格にはこれが見られない。

加工モモの生産量は全生産量の79.1

%を占めている（表2.6-13及び2.6-14）。この割合が減少するに従って、砂糖づけの重要性が増して来ている（18.3%）が、これは砂糖づけの価格が高くなっているためである。

表2.6-15に関しては、もう少し詳しい説明が多分必要であろう。この表は新鮮なモモに

図2.6-10 モモ：メンドサでの生産量と加工数量の推移（千トン）



出典：DEIE及びCAFIM

表 2.6-9 モモ：メンドサでの加工製品数量（千単位）

製 品	1971/72	1972/73	1973/74	1976/77	1977/78	平 均
生食用加工						
(½kg容器)	-	-	-	2128,6	3003,8	2566,2
(1 kg容器)	50277,0	7066,0	85543,6	50572,5	33385,8	45368,9
(5 kg容器)	-	-	-	1376,6	1389,7	1383,1
砂糖づけ(1)						
(½kg容器)	6697,0	6720,0	8913,8	6504,6	4889,1	6744,9
(1 kg容器)	1900,0	817,0	1964,3	911,6	629,0	1244,4
(5 kg容器)	483,0	141,0	1144,3	1183,4	962,5	782,8
乾燥品 (kg) (2)						
ペ ロ ン	3352,7	413,7	1277,5	1574,0	900,3	1503,6
メダリオン	1402,3	356,9	356,6	699,7	591,2	681,3
ティラス	26,0	14,0	7,8	4,5	28,1	16,1

出典：DEIE及びCAFIM

(1) マーマレード及び果肉を含む

(2) ここでの単位はキロである。従ってこの項目では千kg表示となっている

表 2.6-10 モモ：メンドサでの加工製品の比較
(1971/72, 72/73, 73/74, 76/77 及び 77/78 期平均)

製 品	tn	%
生食用加工	53.567,5	83,3
砂糖づけ(1)	8.530,8	13,3
乾 燥 品	2.201,0	3,4
合 計	64.299,3	100,0

出典：DEIE及びCAFIMのデータに基づく独自の作成。

(1) マーマレード及び果肉を含む

表 2.6-11 モモ：メンドサに於る原料価格及び製品価格
(当時のペソ表示 単位当り)

製 品	1971/72	1972/73	1973/74	1976/77	1977/78
加工場内					
果物原料 (kg)	0,49	3,50	1,74	22,12	64,09
生食用加工					
(½kg容器)	-	-	-	90,0	657,83
(1 kg容器)	2,41	6,75	5,54	155,9	660,40
(5 kg容器)	-	-	-	721,2	2169,50
砂糖づけ及びマーマレード					
(½kg容器)	-	-	-	126,8	595,32
(1 kg容器)	3,79	7,08	7,91	141,3	1411,72
(5 kg容器)	17,47	32,93	36,55	1296,8	3353,03
乾 燥 品 (kg)					
ペ ロ ン	1,9211	14,76	11,85	158,5	442,54
メダリオン	5,7810	33,81	27,38	356,0	870,62
ティラス	3,0051	16,00	10,91	162,2	472,59

出典：DEIE

対してメンドサ州内の生産者に適用される価格がブエノス・アイレスの市場の価格（アバ
スト市場の数値により推定）の何%に当たっているかを示すためのものである。このために
ブエノス・アイレスでの価格を100とし、メンドサでの価格がこの何%に当たるかを示して
いる。

表 2.6-12 モモ：メンドサに於る原料価格及び製品価格
(1981.12 現在のペソ表示 単位当り) (1)

製 品	1971/72	1972/73	1973/74	1976/77	1977/78	平 均
加工場内 果物原料 (kg)	1786	7856	3124	1180	1428	3075
生食用加工 (1/2kg容器)	-	-	-	4802	14659	9730
(1kg容器)	8784	15151	9948	8318	14716	11383
(5kg容器)	-	-	-	38481	48345	43413
砂糖づけ及び マーマレード (1/2kg容器)	-	-	-	6766	13266	10016
(1kg容器)	13814	15892	14203	7539	31459	16581
(5kg容器)	63678	73917	65631	69193	74719	69428
乾 燥 品 (kg)						
ペ ロ ン	7002	33131	21278	8457	9861	15946
メダリヨン	21071	75892	49165	18995	19401	36905
ティラス	10953	35915	19590	8654	10531	17129

出典：DEIEのデータに基づく独自の作成。

(1) 一般卸売物価指標 基準 1960=100による実質化

表 2.6-13 モモ：メンドサでの加工製品の金額（当時の貨幣水準による表示）

期 間	合 計		生食用加工		砂 糖 づ け(2)		乾 燥 品	
	千ペソ	%	千ペソ	%	千ペソ	%	千ペソ	%
71/72	153093,8	100,0	121167,6	79,1	29033,0	19,0	2893,2	1,9
73/73	89033,8	100,0	47739,2	53,7	38180,6	42,9	3113,9	3,4
73/74	558569,7	100,0	473911,5	84,8	59668,5	10,7	24989,7	4,5
76/77	11557355,4	100,0	9068630,7	78,5	2488225,5	21,5	499,2	-
77/78	34714957,3	100,0	27336190,4	78,7	6452345,3	18,6	926421,6	2,7

出典：DEIE

表 2.6-14 モモ：メンドサでの加工製品の金額（1981.12 現在のペソで表示、
100万ペソ）(1)

期 間	合 計	%	生食用加工	%	砂糖づけ	%	乾 燥 品	%
1971/72	558022	100,0	441652	79,1	105824	19,0	10546	1,9
1972/73	199851	100,0	107158	53,7	85703	42,9	6990	3,4
1973/74	1002996	100,0	850979	84,8	107144	10,7	44873	4,5
1976/77	616666	100,0	483875	78,5	132764	21,5	27	-
1977/78	773588	100,0	609160	78,7	143784	18,6	20644	2,7
平 均	630225	100,0	498565	79,1	115044	18,3	16616	2,6

出典：DEIEのデータに基づく独自の作成

(1) 一般卸売物価指数 基準 1960=100 による実質化

(2) マーマレード及び果肉を含む

表 2.6-15 モモ：メンドサでの価格とアバスト市場での価格との比較

期 間	工場内・消費用 新鮮商品	加工場内 加工用商品	アバストでの 新鮮商品(1月)
1971/72	30,0	26,7	100,0
1972/73	82,1	89,5	100,0
1973/74	34,5	44,7	100,0
1976/77	26,7	33,9	100,0
1977/78	26,8	31,2	100,0
平 均	40,0	45,2	100,0
1972/73を除く 平 均	29,5	34,1	100,0

出典：DEIE及び連邦首都アバスト市場のデータに基づく独自作成。

該当期間中の工場内及びメンドサに於ける新鮮商品の価格は、ブエノス・アイレスでの価格の40%を示し、一方、加工用商品の価格は、これの45.2%となっている。⁽¹⁾これらの数字は、国内それも特にメンドサ州で生産が非常に少なかった1972/73に異常な値となっている。もしこの年を除外すれば、これらの数字は意義深い数値となる（それぞれ29.5%及び34.1%）。

最近において目立つ状態として新しい貿易政策が当国市場への輸入の増大を引き起し、このことが、国産商品の消費の減少—“Notifrut” 1981・3月号、36頁—に加えて、インフレに立向う国産商品の価格の停滞を招いた。これが原因となって、企業がその生産能力よりかなり低い水準で活動を行なうこととなった。さらに、最近ではモモの生産が少くなっていることも考慮されねばならない。

この状態は1981年中に部分的には解除され、1981/82期はさらに好転が予想されている。

2.6.4 貿易

表2.6-16に、

表2.6-16 モモ：生モモの輸出数量

1970年以降の生 状態のモモの主要 データを示す。輸 出量は1978年に 最も多く、1975 年が最低であった。 1978年以降現在 迄は大きく落ち込 んでいる。	年	数 量 (トン)	FOB価格 (US\$)	FOB価格 (US\$/トン)
	1970	40	16.278	407
	1971	128	43.226	338
	1972	21	9.244	440
	1973	98	38.342	391
	1974	87	40.000	460
	1975	3	2.230	743
	1976	190	128.346	675
	1977	1,228	475.330	387
	1978	5,609	1,993.726	355
	1979	128	134.700	1.052
	1980	81	82.240	1.015
	1981 (1)	5	7.498	1.363

出典：INDEC

(1) 3月迄

最近2年間に於ける唯一の輸入国はパラグアイである。ブラジルには（1978年での大輸入国）、ここ3年間は輸出は行なわれていない（表2-

表2.6-17 モモ：仕向先国別生状態商品の輸出货量（箱入）

国	1978	1979	1980	1981
ブラジル	276,135	-	-	-
オランダ	3,521	2,342	-	-
西 独	2,502	5,616	-	-
フランス	2,400	8,990	-	-
イタリア	800	-	-	-
チ リ	1,000	-	-	-
パラグアイ	60	-	1000	1486
スウェーデン	-	800	-	-
象牙海岸	-	727	-	-
合 計	286,418	18,475	1000	1486

出典：ガブリエル有限会社

(1) この場合の価格は、加工業者の加工場での価格であることに注意せねばならない。直接消費に向けられる商品に対しては工場内価格が取られる。

6-17)。

1970/79の10年間の
モモのかん詰の主要輸出
データを年別及び仕向先
国別に表2.6-18及び2.
6-19にそれぞれ示す。

モモのかん詰輸出量の
推移を表2.6-20、図2.6
-11及び2.6-12に示す。
1978年以降は明白な減少
をしている。主要な輸入
国はブラジルと西独である。
(表2.6-21及び2.
6-22)。

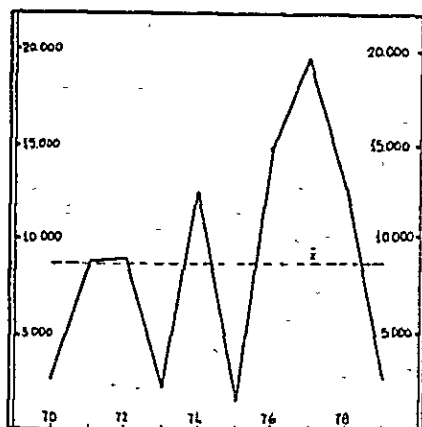
表2.6-18 モモのかん詰の主要輸出货量(トン)

年	西 独	ボリビア	ブラジル	デンマーク	オランダ	パラグアイ	ベルー
1970	1,309,6	42,5	3,437,1	279,4	24,9	10,9	1,122,0
1971	1,992,0	36,3	134,2	90,3	365,1	40,1	19,9
1972	836,4	49,9	570,4	-	20,4	177,2	1,006,0
1973	6,302,4	21,1	1,105,1	100,2	199,0	91,0	563,7
1974	7,002,2	0,5	1,250,6	82,6	240,7	5,3	-
1975	-	0,2	1,733,7	0,1	-	53,6	265,2
1976	1,496,4	97,7	7,201,5	309,0	126,5	71,4	993,0
1977	309,0	37,5	-	-	-	32,0	696,7
1978	5,551,1	201,2	522,0	60,2	2,922,3	1,345,4	935,0
1979	929,0	647,4	7,003,7	335,4	077,1	2,269,6	-
1980	2,536,0	599,7	330,2	909,6	651,9	2,052,1	-
1981	0,5	425,2	10,0	50,1	256,4	1,711,6	-

その他の考慮すべき輸出

西 独	: 年 1977:	932,3
ベルギー	: 年 1976:	1,012,7
ノルウェー	: 年 1970:	1,137,6
コロンビア	: 年 1970:	727,3
スウェーデン	: 年 1976:	1,306,2

図2.6-11 モモのかん詰の輸出货量
の推移 (トン)



Fuente: elaboración propia
en base a datos
de FAVI.

出典: FAVI のデータに基づく独自の
作成。

表2.6-19 モモのかん詰の主要輸出金額(千ドル)

年	西 独	ボリビア	ブラジル	デンマーク	オランダ	パラグアイ	ベルー
1970	224,9	17,9	910,5	60,5	5,3	5,1	257,1
1971	431,0	15,7	35,0	17,9	79,7	11,0	11,0
1972	202,1	24,0	177,1	-	4,0	30,1	350,0
1973	1,597,3	9,6	329,0	51,7	55,0	21,0	10,1
1974	1,714,0	0,1	351,2	21,7	6,3	1,9	-
1975	-	0,2	1,015,5	0,1	-	33,0	351,2
1976	621,4	62,1	3,306,0	141,5	52,1	31,9	465,7
1977	105,0	23,1	-	-	-	14,1	943,0
1978	1,548,7	95,9	206,0	16,2	022,0	531,7	511,0
1979	325,5	354,7	3,111,2	143,3	307,6	090,2	-
1980	003,0	559,6	157,0	396,3	230,5	1,065,4	-
1981	0,6	576,4	30,0	40,1	115,3	1,461,0	-

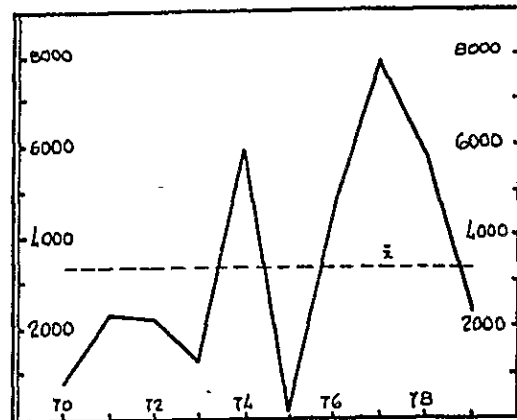
その他の考慮すべき輸出 : consideración:

西 独	: 年 1977:	310,1
ベルギー	: 年 1976:	320,1
ノルウェー	: 年 1970:	441,0
コロンビア	: 年 1970:	310,4
スウェーデン	: 年 1973:	560,7

表 2.6-20 モモのかん詰の輸出数量

年	数 量 (トン)	金 額 (US\$)
1970	2,744,4	805.200
1971	8,641,6	2,271.100
1972	8,820,2	2,193.800
1973	2,054,5	1,234.600
1974	12,929,0	5,828.300
1975	1,321,6	77.860
1976	14,674,6	4,679.500
1977	19,936,5	7,980.800
1978	12,962,6	5,732.800
1979	2,813,0	2,419.500
10年間合計	86,898,0	33,223.460

出典：FAVI

図 2.6 12 モモのかん詰の輸出金額の推移
(千ドル)

出典：FAVI のデータに基づく独自の作成

表 2.6-21 モモのかん詰の主要輸入国

国	1970/79 10 年間合計数量 (トン)	1970/79 10 年間 合計金額 (US\$)
ブラジル	19,975,2	8,683,000
西 独	25,043,8	6,918,400
パラグアイ	7,815,0	4,096,300
ペ ル ー	4,541,2	2,263,900
ボリビア	2,080,4	1,705,700
オランダ	5,302,1	1,652,400
デンマーク	2,084,0	810,000

出典：FAVI のデータに基づく独自の作成。

表 2.6-22 モモのかん詰：主要輸入国のパーセント表示
(1970/79 10 年間合計額についての割合)

国	数 量	金 額
ブラジル	23,0	26,1
西 独	28,8	20,8
パラグアイ	9,0	12,3
ペ ル ー	5,2	6,8
ボリビア	2,4	5,1
オランダ	6,1	5,0
デンマーク	2,4	2,4
そ の 他	23,1	21,5
合 計	100,0	100,0

出典：FAVI のデータに基づく独自の作成。

2.7 リンゴ

2.7.1 栽培及び生産

表 2.7-1 ~ 2.7-4 に於て、最近のリンゴの栽培及び生産に関するデータを示す。

栽培面積は、1980 / 81 期に前期に比べて減少が見られたが、明らかな増加傾向を示し

ている（図 2.7-1）。

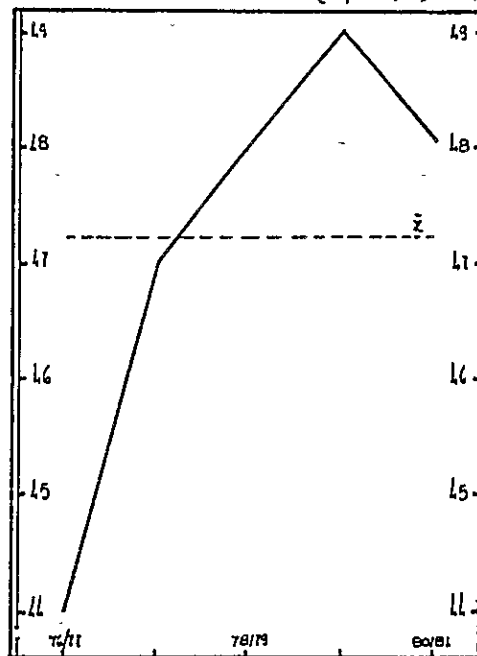
収量は、該当 5 か年間で、17,000 kg/ha から 20,000 kg/ha の間を変動している（図 2.7-2）。

生産量は、1976/77 の 820,000 トンから 1978/79 の 970,000 トンに迄増加し、この期間中の平均値は 890,000 トン強となった（図 2.7-3）。本期間中の生産量は、それ以前の期間のどれをも上回る数値である。

リンゴの栽培は、1980 年代以降に増加し始めた。大農園が、ブエノス・アイレス州（ヘネラル・マダリアガ、カステリ、ブエノス・アイレス沿岸地区）及びデルタ地区にあった。

これらの大農園は、リンゴがその管理

図 2.7-1 リンゴ：栽培面積の推移
1976/77～1980/81 5 年間
(千ヘクタール)



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

表 2.7-1 リンゴ：植付面積合計（ヘクタール）

期 間	Total	Bs. As.	Chubut	La Rioja	Mendoza	Neuquén	R. Negro	Salta	San Juan	その他
1976/77	50.000	1.500	300	90	11.000	5.100	30.500	84	610	816
1977/78	52.000	1.300	280	90	12.500	5.200	31.200	70	550	810
1978/79	53.500	1.290	270	85	12.500	5.400	32.700	45	500	710
1979/80	52.500	1.200	1.180	85	13.100	5.230	29.900	35	505	1.265
1980/81	52.045	1.019	1.000	86	11.926	5.372	30.939	41	417	1.245
平 均	52.009	1.262	606	87	12.205	5.260	31.048	55	516	969

表 2.7-2 リンゴ：生産中面積合計（ヘクタール）

期 間	Total	Bs. As.	Chubut	La Rioja	Mendoza	Neuquén	R. Negro	Salta	San Juan	その他
1976/77	44.000	1.380	300	90	11.000	4.500	25.300	84	600	746
1977/78	47.000	1.250	280	90	12.500	4.800	26.750	70	530	730
1978/79	48.100	1.250	270	85	12.500	4.910	27.900	45	500	640
1979/80	49.000	1.170	1.180	85	13.100	4.765	27.200	35	500	965
1980/81	48.018	1.016	1.000	86	11.126	4.958	28.258	41	417	1.116
平 均	47.224	1.213	606	87	12.045	4.787	27.082	55	509	839

表 2.7-3 リンゴ：収 量（kg/ha）

期 間	Total	Bs. As.	Chubut	La Rioja	Mendoza	Neuquén	R. Negro	Salta	San Juan	その他
1976/77	18.636	12.319	4.667	8.889	10.545	22.889	22.530	22.619	7.000	-
1977/78	17.234	13.200	5.357	11.111	6.400	21.458	22.430	20.000	2.641	-
1978/79	20.208	12.320	5.556	10.235	11.376	24.908	24.444	12.000	5.800	-
1979/80	19.551	11.966	8.305	10.806	10.840	24.974	24.265	12.429	4.000	-
1980/81	18.910	10.827	5.000	10.919	10.444	22.832	22.939	12.854	1.621	-
平 均	18.908	12.126	5.777	10.372	9.921	23.412	23.322	15.980	4.612	-

出典：農牧省及び独自の作成。

表 2.7-4 リンゴ：生産量（トン）

1976/77	820.000	17.000	1.400	800	116.000	103.000	570.000	1.900	4.200	5.700
1977/78	810.000	16.500	1.500	1.000	80.000	103.000	600.000	1.400	1.400	5.200
1978/79	972.000	15.400	1.500	870	142.200	122.300	682.000	540	2.900	4.290
1979/80	958.000	14.000	9.800	910	142.000	119.000	660.000	435	2.000	9.855
1980/81	908.000	11.000	5.000	939	116.200	113.200	648.200	527	1.510	11.424
平均	892.000	14.780	3.840	904	119.280	112.100	632.040	960	2.402	7.294

出典：農牧省及び独自の作成。

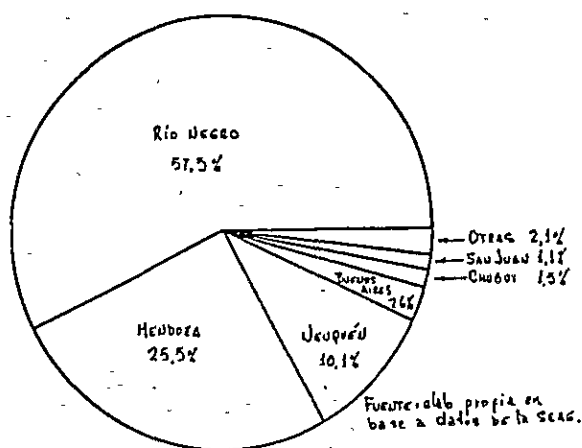
に非常に経費が掛かることをあわせて病害の問題で、廃園されてしまった。

さらに、この地帯では良好な開花を確保するのに十分な寒冷時間が短いということである。

このような条件で栽培でき、唯一の品種は“Cara sucia”であった。この品種は、緑色の皮と斑点をもつ左右不均斉のリンゴである。この品種は台木としてマルメロの木が使えるため、デルタ地区の緻密で湿気をもつ土壌でかつ表土の浅い所でも栽培出来るという利点がある。

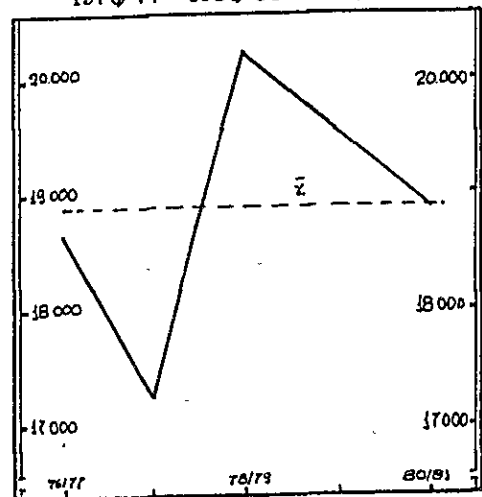
我が国ではリンゴの生産がこの品種によりサイダー用として商業ベースで始められたが、実際は品質が良くないので、

図 2.7-4 リンゴ：栽培面積のパーセント表示 (1976/77~1980/81 平均)



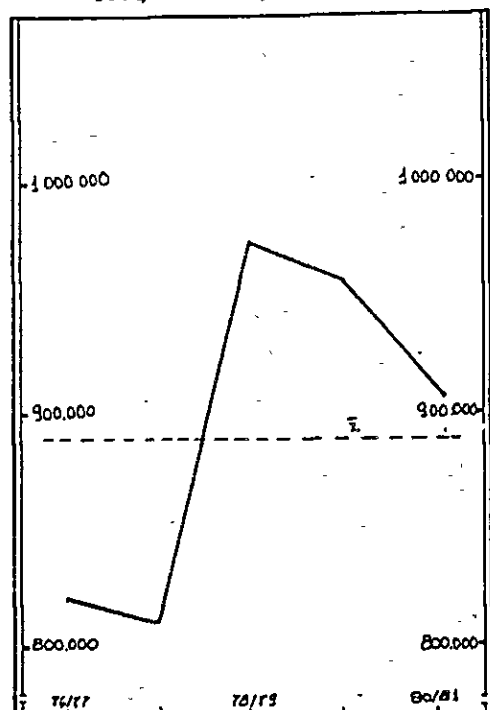
出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

図 2.7-2 リンゴ：収量の推移 (kg/ha)
1976/77~1980/81 5 か年間



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

図 2.7-3 リンゴ：生産量の推移 (トン)
1976/77~1980/81 の 5 年間



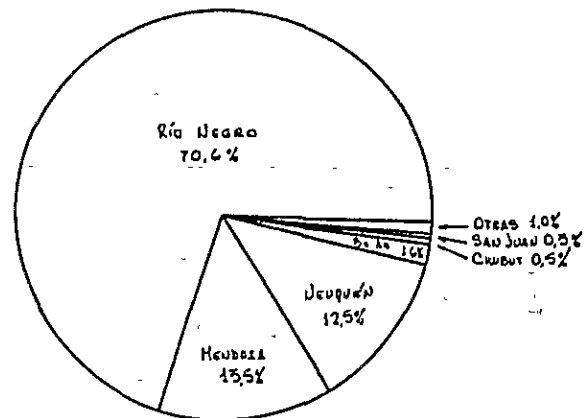
出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

焼きリンゴ用に使用されている。

現在は、リオ・ネグロ州に栽培面積の約 60 %そして収穫量の 70 %強が集中している（図 2.7-4 及び 2.7-5）。

リオ・ネグロ州に続くのは、メンドサ州とネウケン州で生産量は等しいが、前者の方が収量が低いために栽培面積が広い（図 2.7-6）。

図 2.7-5 リンゴ：生産量のパーセント表示
（1976/77 ~ 1980/81 平均）



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

2.7.2 流通及び消費

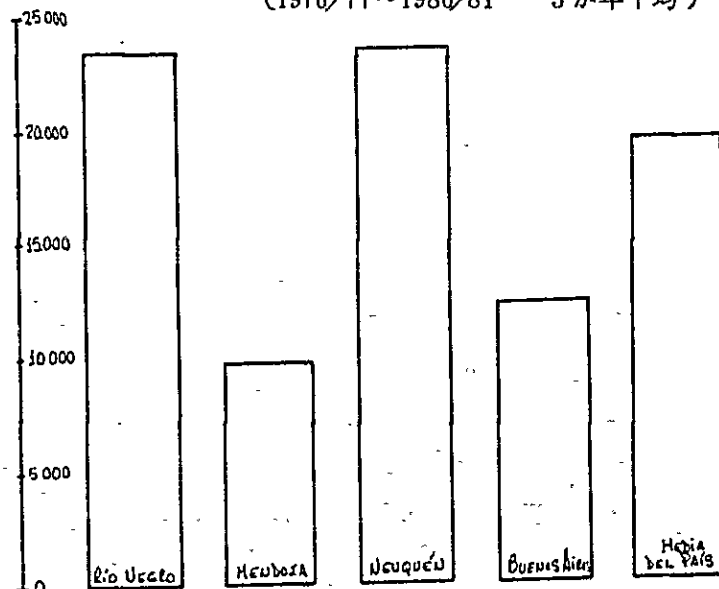
本商品の消費量（推定）は、国民一人当たり各年 14 kg 以上である（表 2.7-5）。

この点に関して言えば、リンゴはオレンジ及びバナナに次いで第 3 位であり、全果物消費量の 1.3 % を占めている。

リンゴの出荷は、冷蔵庫で貯蔵が容易に出来るので規則的に行うことが出来る（図 2.7-7）。

最も流通量の多い月は、3 月、4 月及び 5 月である。これは、この時期に供給が多いことと、夏の果物の入荷

図 2.7-6 リンゴ：主要生産州の平均収量（kg/ha）
（1976/77 ~ 1980/81 5 か年平均）



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

が減少する一方、かんきつ類の供給水準がそんなにも高くなっていないためである。

市場流通量の最も少ない月は 12 月、1 月及び 2 月であり、これらの月が価格が最も上る月である。

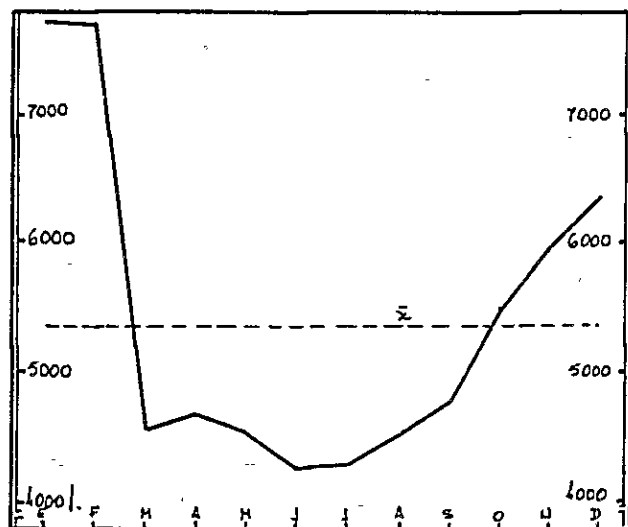
各年毎価格の推移（現行貨幣水準表示）には最高価格が 4,000 ~ 8,000 ペソ/kg であるが、普通には平均値近く（5,386 ペソ/kg）を記録している（図 2.7-9）。

表 2.7-5 リンゴ：消費量（推定）
（kg, 国民一人当たり各年）

年	全果物	リンゴ	%
1970	118,178	10,517	8,9
1971	121,339	8,947	7,4
1972	106,537	11,791	11,1
1973	96,552	6,741	7,0
1974	126,701	20,067	15,8
1975	114,083	14,185	12,4
1976	104,313	11,903	11,4
1977	114,095	18,852	16,5
1978	95,168	17,055	17,9
1979	109,099	24,352	22,3
平均	110,607	14,441	13,1

出典：フランシスコ・ヒオビオの著作から引用

図 2.7-8 リンゴ（品種、Red Delicious）：
月別価格（1972～81 10 年間平均）1981
12 現在のペソで表示 *

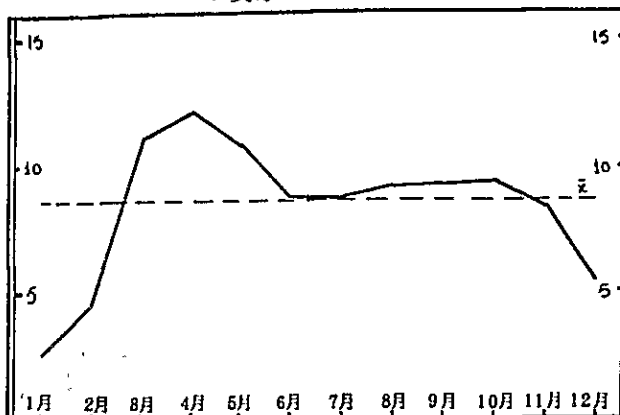


Fuente: elab. propia en
base a datos del Hdo. de
Abasto de la Cap. Fed.

(*) Actualizados según
Índice de precios al por
mayor, nivel gen.
Base 1960 = 100

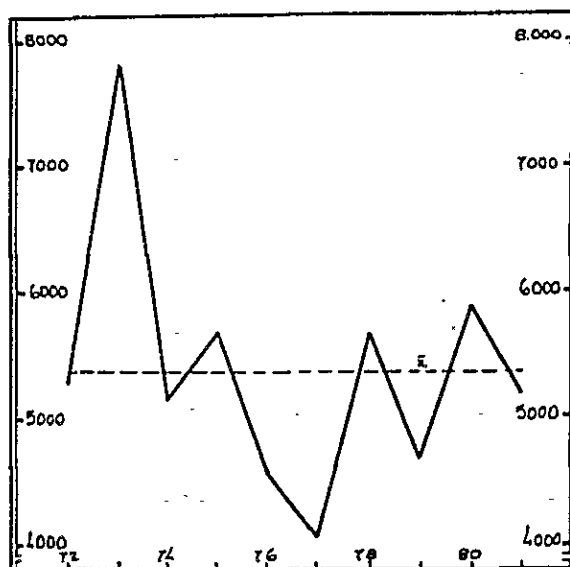
出典：連邦首都アバスト市場のデータに基づく独自の作成

図 2.7-7 リンゴ：ドレゴ市場月別入荷数量
（1967～1976 平均）全年度合計について
パーセント表示



出典：農牧省 - IICA の著作からの引用。

図 2.7-9 リンゴ（品種、Red Delicious）：
年別平均価格（1981. 12 現在のペソで
表示 kg 当り）*



出典：アバスト市場のデータに基づく独自の作成。

この項の最後として、表 2.7-6 及び 2.7-7 に、最近 10 年間の各月毎の価格を当時の価格と現行貨幣水準とで表わしたものをそれぞれ示す。

* 一般卸売物価指数 基準 1960 = 100 による実質化。

表 2.7-6 リンゴ(品種, Red Delicious) : 月別平均価格
(当時のペソで表示 kg当り)

A 年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1972	1,8	2,8	2,2	1,2	1,2	1,2	1,3	1,5	1,8	2,5	3,2	3,8
1973	3,6	4,2	4,3	4,3	4,3	4,1	3,7	3,8	3,9	4,2	4,2	4,4
1974	4,6	4,2	2,8	2,3	2,4	2,6	2,7	2,6	2,7	3,1	4,7	4,7
1975	6,7	7,7	5,2	5,8	6,0	6,0	6,9	8,1	13,0	16,6	18,0	22,2
1976	37,6	42,5	23,5	31,8	39,6	38,0	37,5	45,5	50,0	65,0	70,3	79,0
1977	81,2	81,9	49,7	70,5	77,6	86,2	91,9	108,4	138,7	160,2	219,6	268,2
1978	494,6	381,2	208,4	271,2	274,9	259,4	388,1	353,5	377,9	444,2	469,3	514,5
1979	1071,6	1134,9	504,0	527,4	586,6	558,0	541,5	622,5	720,0	724,0	835,4	1044,0
1980	1655,0	2835,0	1280,0	1262,5	1240,0	1435,0	1472,0	1718,0	1914,0	1955,0	1999,0	1968,0
1981	1780,0	1820,0	1640,0	2187,0	2262,0	2392,0	2963,0	4225,0	3600,0	4480,0	6540,0	7200,0

出典：連邦首都アバスト市場。

表 2.7-7 リンゴ(品種, Red Delicious) : 月別平均価格
(1981.12 現在のペソで表示 kg当り) *

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
1972	6452	6070	4130	3862	3763	3562	3670	4124	4657	6245	7815	8975	5277
1973	8081	8925	8556	8169	7662	7521	6810	6875	6995	7635	7684	7945	7738
1974	8224	7512	5060	3964	4030	4247	4229	3957	4016	4375	6343	6220	5181
1975	8352	8571	5431	5857	5738	3997	3479	3544	5024	5884	5794	6555	5685
1976	9302	8165	2931	3141	3728	3420	3179	3573	3605	4491	4548	4795	4573
1977	4335	4083	2383	3197	3312	3453	3481	3646	4351	4421	5622	6591	4073
1978	11023	8068	4045	4826	4487	4041	5763	4832	4841	5177	5040	5195	5611
1979	9833	9647	3964	3897	3976	3423	3090	3098	3404	3388	3779	4606	4675
1980	7002	11519	5007	4755	4432	4779	4762	5401	5847	5668	5645	5514	5861
1981	4868	4732	4069	4829	4624	4119	4522	5898	4691	5501	7233	7200	5190
平均	7747	7729	4558	4650	4575	4256	4298	4495	4743	5278	5950	6360	5386

出典：連邦首都アバスト市場のデータに基づく独自の作成。

* 一般卸売物価指数 基準 1960 = 100 による実質化。

2.7.3 加工

リンゴの加工は、濃縮ジュースの生産が始まった 1960 年代以降に重要性を持つようになり、今まで廃棄していた原料果物を大量に利用できるようになった。

ルチニによれば——リカルド・ルチニの著作からの引用——廃棄リンゴの最も重要な利用法は次の通りである。

- 1) ソリッド バック：この製品は、リンゴの皮をむいて房状にカットし、出来るだけ水分

を除いて添加物を加えず容器詰めとした半加工製品である。ソリッド・バックに使用されるリンゴはかなり良質であること、すなわち新鮮果物市場には出荷されない廃棄リンゴではあるが良質品であることが必要である。この加工法によって、我が国の廃棄リンゴの5～10%が利用されている。国際市場に於て本製品が占める割合は、最近年では減少してきている。

2) 乾燥リンゴ：輪切り、角切り又は房状カットして加工される。出来上がった製品の水分率は約24%でなくてはならない。この加工法によって、わが国の廃棄リンゴの15%を占める中程度の良質のものが利用されている。わが国は毎年、本製品を約100万kg生産している。

3) 殺菌プレー：約10～15%の廃棄リンゴが本製品に使用されている。

4) 濃縮ジュース：本製品は、不良品だけを除いてどんな種類の原料果物でも利用出来るので、最近年に於て最も大量に生産されている。すなわち、この製品が、廃棄リンゴの完全活用を経済的に実施するための鍵なのである。新鮮果物として市場化されない全てのリンゴの60%から70%がこの濃縮ジュースによって利用されることは間近いと考えることができる。

5) サイダー：サイダーは廃棄リンゴを使用する量は少ないが、我が国では重要な製品である。消費量は、年当り4,000万リットル台である。この量をアルゼンティン国民は、クリスマスと新年の休日の間だけで消費してしまうのである。

サイダーの生産は、メンドサでは実際には停滞しているが、リオ・ネグロでは最近年に増加が見られる。現在、リオ・ネグロがサイダー用原汁の最重要の生産州となっている。

通常、亜硫酸ガスと共に缶に入れられた原汁は連邦首都に運ばれ、ここで発酵が行われサイダーとなる。

メンドサ州内では、サイダー加工場はトウヌヤン及びサン・ラファエルの両地帯に集まっている。リオ・ネグロ州では約12の加工場が原汁を作っている（主に、シボレティ、ヘネラル・ロカ及びビリャ・レヒナ）。この州にはさらに二つの加工場があって（その一つはヘネラル・ロカ、他の一つはビリャ・レヒナ）、産地びん詰サイダーを出荷している。

濃縮ジュースの加工は、通常、71°Brix. に濃縮される。濃縮を行なう前に香料は回収され別の容器に移される。そして、それぞれの場合に応じてジュースに付加される。

これらの各製品の加工量に関する全国レベルでの信頼し得るデータは無いが、州によっては散発的に公表されている（表2.7-8）。メンドサ州では、全生産量の約50%が加工されている（表2.7-9）。加工製品量を表2.7-10に示す。ここで解るように、殆んど例外なく砂糖づけ、マーマレード及び果肉に加工されている（表2.7-11）。原料価格と製品価格を表2.7-12と2.7-13にそれぞれ示し、その金額を表2.7-14と2.7-15に示す。

表 2.7-8 リオ・ネグロ：果物かん詰… 1971 年加工リンゴ

項 目	容器の種類	容器数量
A) 工場入荷		kg tn % (1)
B) 加工かん詰		
1 生食用リンゴ	850 g カン	167 016 kg 112 1.1
2 リンゴピューレ	420 g "	131 121 kg 76 1.2
	810 g "	21 921 kg 20 0.16
		160 kg 1.268
3 濃縮果肉	4,500 g "	16 1.000
	5,000 g "	16 1.000
	瓶, 円筒カン入, 小樽入	212 1.600
4 濃縮ジュース (72°Brix)	小樽, 円筒缶入り	16 1.000
5 香 料	円筒缶入り	16 1.000
6 乾燥リンゴ		16 1.000

出典：リオ・ネグロ経済省 化学部 №1 1971。

表 2.7-9 リンゴ：メンドサ生産品の用途

期 間	生状態での出荷		加 工		州内消費		平 均 (1)	
	tn	%	tn	%	tn	%	tn	%
1971/72	20784,7	64,4	8867,8	27,5	2598,1	8,1	32250,6	100,0
1972/73	15280,0	28,1	37136,1	68,4	1910,0	3,5	54326,1	100,0
1973/74	35578,1	35,3	60880,8	60,3	4447,3	4,4	100906,2	100,0
1976/77	39601,1	84,9	2117,5	4,5	4950,1	10,6	46668,7	100,0
1977/78	5666,5	80,4	639,6	9,1	736,6	10,5	7042,7	100,0
平 均	23382,0	48,5	21928,0	45,5	2928,0	6,0	48238,0	100,0

(1) 農牧省の数字と一致しない。

出典：DEIE及びCAFIM及び独自の作成。

表 2.7-10 リンゴ：メンドサ加工製品数量 (千単位)

製 品	1971/72	1972/73	1973/74	1976/77	1977/78	平 均
砂糖づけ及びマーマレード						
(1/2 kg 容器)	309,0	799,0	511,0	210,4	152,0	396,3
(1 kg 容器)	24,0	794,0	142,2	-	52,1	202,5
(5 kg 容器)	90,0	24,0	231,8	168,2	32,1	109,2
生食用加工						
(1 kg 容器)	-	-	-	-	-	-
乾 燥 品						
(kg)	-	-	3,0	-	-	0,6

出典：DEIE及びCAFIM

表 2.7-11 リンゴ：メンドサ内各加工製品の比較 (1971/72, 1972/73, 1973/74, 1976/77, 1977/78 の平均)

製 品	tn	%
砂糖づけ, 及び果肉		
マーマレード	946,6	99,9
乾 燥 品	0,6	0,1
合 計	947,2	100,0

出典：DEIE及びCAFIMのデータに基づく独自の作成。

表 2.7-12 リンゴ：メンドサ内原料価格及び製品価格 (当時のペソ表示 単位当り)

製 品	1971/72	1972/73	1973/74	1976/77	1977/78
加工場内原料					
果物 (kg)	0,43	1,44	0,80	25,0	82,38
砂糖づけ及びマーマレード					
(1/2 kg 容器)	-	-	-	152,0	1068,51
(1 kg 容器)	5,25	2,39	6,50	-	1590,16
(5 kg 容器)	11,89	30,70	29,39	716,0	2700,00
生食用加工	-	-	-	-	-
乾 燥 品 (kg)	-	-	12,00	-	-

出典：DEIE

表 2.7-13 リンゴ：メンドサ内、原料価格
及び製品価格 (1981.12 現在のペソで表
示 単位当り) *

製 品	1971/72	1972/73	1973/74	1976/77	1977/78	平 均
加工場内原料						
果物 (kg)	1361	2729	1391	1134	1466	1616
砂糖づけ及びマーマレード						
{ 5kg容器 }	-	-	-	6897	19010	12953
{ 1kg容器 }	16617	4529	11301	-	28291	15184
{ 5kg容器 }	37635	58184	51096	32491	48036	45488
生食用加工	-	-	-	-	-	-
乾燥品 (kg)	-	-	20862	-	-	20862

出典：DEIE のデータに基づく独自の作成

表 2.7-15 リンゴ：メンドサ主要加工製品
金額 (1981.12 現在のペソで表示 kg当
り) *

期 間	合 計	砂糖づけ及びマーマレード	乾燥品
	\$x10^6	\$x10^6	\$x10^6
1971/72	5.722	100,0	-
1972/73	8.836	100,0	-
1973/74	16.188	100,0	63 0,4
1976/77	6.916	100,0	-
1977/78	5.304	100,0	-
平 均	8.593	100,0	12 0,1

出典：DEIE のデータに基づく独自の作成

表 2.7-14 リンゴ：メンドサ主要加工製
品金額 (当時のペソで表示)

期 間	合 計	砂糖づけ及びマーマレード	乾燥品
	\$	\$	\$
1971/72	1.807.920	100,0	-
1972/73	4.662.088	100,0	-
1973/74	9.311.000	100,0	36.000 0,4
1976/77	152.412.000	100,0	-
1977/78	298.125.300	100,0	-

出典：DEIE のデータに基づく独自の作成

表 2.7-16 リンゴ：メンドサ州での価格
と連邦首都アバスト市場での価格と
の比較

期 間	工場内、消費用 新鮮商品	加工場内加工 用 産 品	アバストでの新鮮 産 品 (4月)
1971/72	32,8	35,2	100,0
1972/73	37,1	33,4	100,0
1973/74	32,9	35,1	100,0
1976/77	28,4	35,5	100,0
1977/78	28,9	30,4	100,0
平 均	32,0	33,9	100,0

出典：DEIE のデータに基づく独自の作成

表 2.7-16 によれば、リンゴの生産者は、連邦首都市場での価格の約 3 分の 1 に相当する価格を得ている。

2.7.4 貿 易

最近のリンゴの輸出量の推移を表 2.7-17 に示す。

表 2.7-17 リンゴ：新鮮商品の輸出量

年	数 量 (トン)	FOB 金額 (US\$)	FOB 価格 (US\$)
1970	199.691	38.470.761	193
1971	210.682	39.476.100	187
1972	228.125	42.139.000	185
1973	69.599	32.525.970	467
1974	280.041	74.275.485	265
1975	245.549	89.151.160	363
1976	268.557	93.615.761	348
1977	325.822	117.796.617	361
1978	357.023	151.661.370	425
1979	317.013	143.833.170	454
1980	268.381	130.743.577	487
1981 (1)	60.094	31.179.340	519

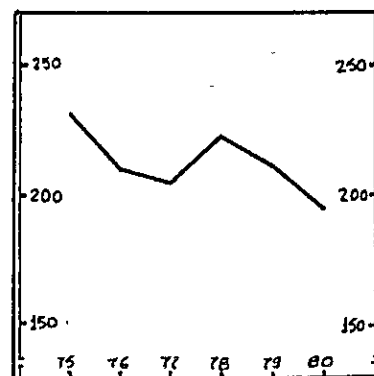
(1) 一般卸売物価指数基準 1960 = 100 による実質化

出典：INDEC

(1) 8 月迄

競争相手国が増えているので (南ア共和国、オーストラリア、チリ) 最近の実質価格はある程度の落ち込みが見られる (図 2.7-10)。

図 2.7-10 リンゴ：新鮮商品
品質 FOB 価格の推移
(US\$ / トン) (2)



出典：農牧省及び INDEC のデータ
に基づく独自の作成

(2) USA 工業卸売物価指数 基準
1970=100 による修正計算

しかしながら、上記の国際価格の変動は、我が国の国際リンゴ市場への参加を制限する程のものではない。我が国の輸出が減少している理由は最近の為替レート変更による輸出への依存率が低下したことによる。

表 2.7-18 リンゴ：仕向先国別新鮮商品輸出量（箱入れ）

その上、ある入手情報によれば、競争相手国は市場戦略を一層強化しており、このため、アルゼンティン商品が、品質が良いにもかかわらず、ヨーロッパ市場に於て取引が困難になって来ている。主要輸入国は、

国	1978	1979	1980	1981
ブラジル	8,232.223	7,696.279	5,721.131	4,645.563
オランダ	3,281.821	2,577.812	2,348.931	1,806.660
西 独	1,859.992	1,824.948	1,736.607	1,424.102
スウェーデン	826.505	1,098.301	1,141.416	1,135.569
ノルウェー	762.433	833.341	662.417	697.394
フランス	41.701	39.957	18.182	-
ベネズエラ	259.809	31.914	11.645	7.816
フィンランド	243.307	287.973	286.700	273.731
イタリー	5.255	70.313	26.772	153.891
ボリビア	196.967	228.901	107.058	182.450
チ リ	1.843	-	-	-
サウジアラビア	157.005	111.111	-	-
英 国	26.313	-	-	-
ドバイ	113.005	42.488	-	-
パラグアイ	59.694	43.325	27.871	65.571
コロンビア	8.000	-	37.000	20.653
オランダ領アンティリス諸島	3.510	-	-	-
クエート	-	20,000	-	-
象牙海岸	-	485	-	-
ペルー	-	-	58.809	-
パナマ	-	-	10.800	-
ウルグアイ	-	-	-	7.900
デンマーク	-	-	-	1.000
TOTAL	16,079.383	14,907.148	12,195.299	10,422.300

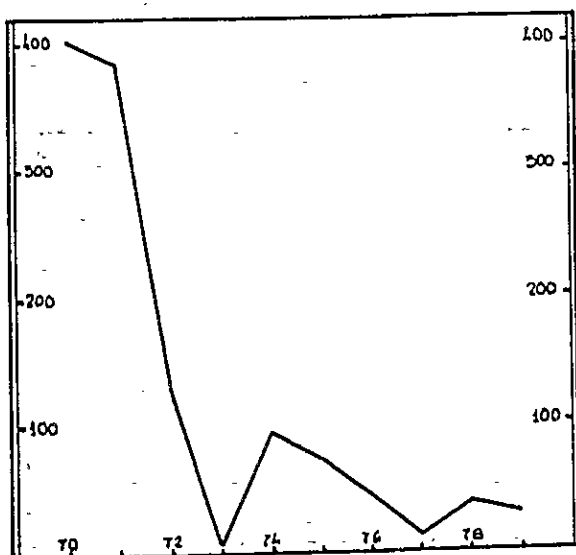
出典：ガブリエル有限会社

ブラジル、オランダ、西独及びスウェーデンである（表 2.7-18）。

加工製品に関して、リンゴのかん詰の輸出量を表 2.7-19 に示す。図 2.7-11 及び 2.7-12

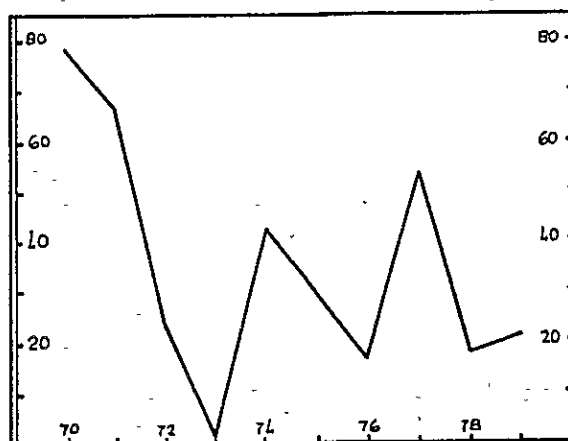
に於て、輸出量の減少傾向が見られる。

図 2.7-11 リンゴのかん詰の輸出量推移（トン）



出典：FAVI のデータに基づく独自の作成。

図 2.7-12 リンゴのかん詰の輸出額推移（千US\$）



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

これと反対のことが乾燥

表 2.7-19 リンゴのかん詰の輸出額

リンゴの輸出に表われてい
る(表 2.7-20 及び図 2.7-
13, 2.7-14)。本商品の主
要輸出先国を表 2.7-21 及
び 2.7-22 に示す。USAが
主たる輸入国であることが
解る。

年	数 量 (トン)	金 額 (千US\$)
1970	401,4	78,6
1971	382,2	67,2
1972	136,0	24,8
1973	0,5	0,1
1974	93,9	42,6
1975	66,6	29,0
1976	41,8	16,2
1977	13,1	52,1
1978	33,9	17,7
1979	28,6	20,4
Total	1,198,0	348,7

濃縮ジュース及び香料の

出典: FAVI

輸出が最近大きく伸びてい

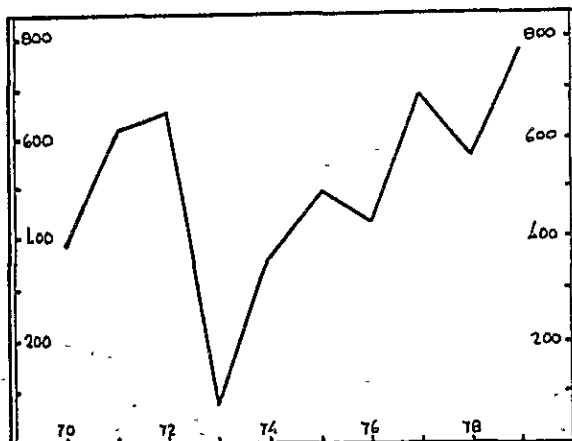
表 2.7-20 乾燥リンゴの輸出額

る(表 2.7-23)。最重要の
仕向先国はUSAとカナダ
である。1979年及び1980
年には為替レート水準が輸
出数量に影響を及ぼし、か
りの数量の減少を招いた。
この状態は1981年以降に
回復している。

年	数 量 (トン)	金 額 (千FOB)
1970	399,4	280,2
1971	619,2	389,5
1972	654,8	441,8
1973	73,6	130,0
1974	363,6	532,6
1975	499,8	591,8
1976	428,0	473,1
1977	697,0	883,3
1978	559,2	1,017,5
1979	776,2	1,507,3
Total	5,070,8	6,247,1

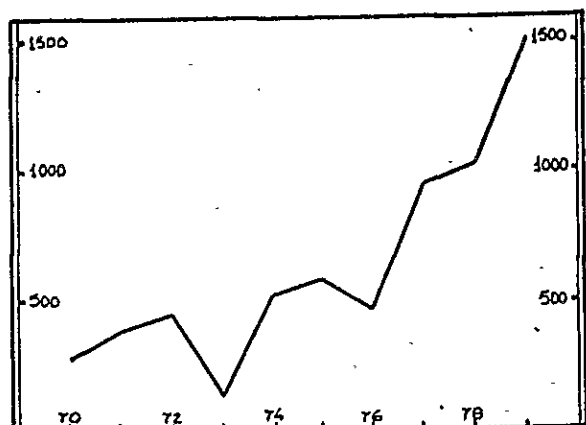
出典: FAVI

図 2.7-13 乾燥リンゴの輸出数量の推移
(トン)



出典: FAVI のデータに基づく独自の作成。

図 2.7-14 乾燥リンゴの輸出金額の推移
(千US\$)



出典: FAVI のデータに基づく独自の作成。

表 2.7-21

乾燥リンゴの主要輸先国

表 2.7-22

(トン)

年	西 独	ブラジル	カナダ	USA	イスラエル	英 国	ペネズエラ
1969	29.3	6.7	10.4	567.7	7.0	5.0	27.6
1970	—	6.9	—	201.0	—	24.5	42.2
1971	40.7	6.9	—	413.1	5.7	56.5	72.6
1972	33.7	5.4	—	372.6	22.7	71.1	116.4
1973	—	6.2	—	13.4	—	7.5	11.4
1974	—	11.2	4.4	230.5	—	42.5	51.0
1975	47.5	5.0	—	260.9	13.5	44.0	50.5
1976	2.5	9.4	—	250.1	—	27.5	107.2
1977	—	4.6	13.4	501.1	31.7	—	129.4
1978	25.0	9.3	12.0	255.9	20.4	20.0	61.0
1979	22.5	11.7	—	532.3	20.4	—	79.0

その他の主要仕向先国

コロンビア: 年 1969: 26.5
年 1970: 30.1
年 1971: 21.6
年 1976: 19.2
年 1979: 11.7

メキシコ: 年 1975: 42.0

(千ドル)

年	西 独	ブラジル	カナダ	USA	イスラエル	英 国	ペネズエラ
1969	21.2	7.4	9.3	331.2	5.2	3.5	22.5
1970	—	5.1	—	106.5	—	16.6	36.3
1971	24.6	4.9	—	249.7	5.0	35.6	50.9
1972	22.4	3.7	—	236.9	15.2	52.1	37.2
1973	—	11.0	—	15.3	—	6.7	91.4
1974	—	17.4	6.1	346.7	—	65.9	61.0
1975	55.7	5.9	—	264.6	16.4	52.7	112.0
1976	3.0	11.6	—	255.7	—	31.6	137.1
1977	—	7.6	14.2	576.0	34.5	—	206.0
1978	46.7	17.8	17.2	429.7	39.6	42.3	169.2
1979	40.5	33.1	—	1,050.6	47.0	—	203.5

その他の主要仕向先国

コロンビア: 年 1969: 22.4
年 1970: 31.0
年 1971: 16.8
年 1976: 19.7
年 1979: 29.8

メキシコ: 年 1979: 94.4

出典: FAO

表2.7-23 リンゴ：仕向先国別濃縮ジュース及び香料の輸出額 (kg)

国	濃縮ジュース			香 料		
	1975	1977 (1)	1978	1975	1977(1)	1978
U S A	10,908,588	10,347,004	25,427,169	60,076	72,390	365,143
カナダ	1,683,887	1,107,361	2,326,299	20,701	2,200	72,366
英 国	-	-	20,656	-	-	-
イスラエル	-	-	27,350	-	-	-
ジャマイカ	-	-	18,631	-	-	-
プエルトリコ	-	-	8,940	-	-	237
ブラジル	-	-	4,140	-	-	-
ホンデュラス	-	65,314	-	-	-	-
スエーデン	130,533	-	-	-	2,180	-
コロンビア	-	-	-	-	1,752	-
日 本	99,324	-	-	-	-	-
西 独	20,808	-	-	22,600	-	-
デンマーク	10,512	-	-	-	-	-
ベネズエラ	7,427	-	-	687	-	-
コスタリカ	291	-	-	-	-	-
合 計	12,861,370	11,594,823	27,833,185	104,064	78,522	437,746

出典：ガブリエル有限会社

(1) 暫定数字

2.8 ナ シ

2.8.1 栽培及び生産

表2.8-1 から2.8-4 までに、アルゼンティン共和国のナシの栽培及び生産に関するデータを示す。

栽培面積は、1980/81 を除いて、最近も著しい増加を示している（図2.8-1）。

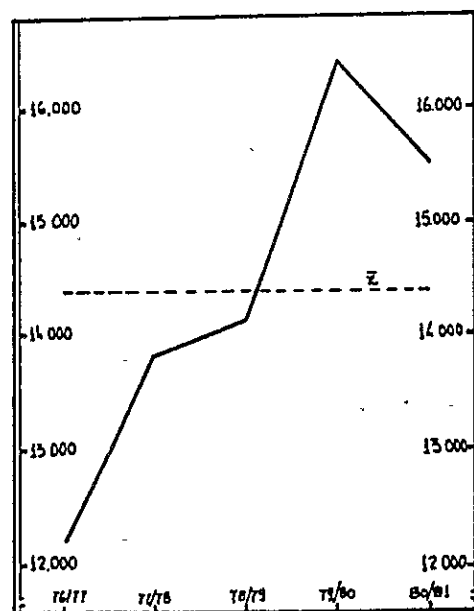
これに反し、収量は明白に下降し、当該5 か年間に13,000 kg/haから8,000 kg/ha強にまで落込んでいる（図2.8-2）。

生産量は1976 / 77 ~ 1979 / 80 期間中は比較的安定していたが、この訳は収量の減少が栽培面積の増加によってカバーされていたからである。しか

し、1980 / 81 期になると、この両者共に減少傾向となり、平均値を2万トン以上も下廻る生産量となってしまった（図2.8-3）。

栽培面積の約半分がリオ・ネグロ州に集中している（図2.8-4）。メンドサ州が40%を占め、これについてはネウケンとブエノス・アイレスである。

図2.8-1 ナシ：栽培面積の推移 (ha)
1976/77 ~ 1980/81 5 か年間



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

表 2.8-1 ナシ：植付面積合計 (ヘクタール)

期 間	Total	Ba. As.	Córdoba	Mendoza	Neuquén	R. Negro	San Luis	Santa Fe	その他
1976/77	13.400	390	110	4.400	850	7.200	100	170	180
1977/78	15.000	280	110	5.500	960	7.700	100	170	180
1978/79	15.600	270	110	5.370	1.080	8.260	185	155	170
1979/80	17.900	250	111	7.290	1.085	8.500	105	155	404
1980/81	17.126	216	111	5.996	1.160	8.968	104	161	410
平 均	15.805	281	110	5.711	1.027	8.126	119	162	269

表 2.8-2 ナシ：生産中植付面積 (ヘクタール)

期 間	Total	Ba. As.	Córdoba	Mendoza	Neuquén	R. Negro	San Luis	Santa Fe	その他
1976/77	12.200	370	110	4.400	530	6.340	100	170	180
1977/78	13.800	280	110	5.400	560	6.900	100	170	180
1978/79	14.160	270	110	5.370	745	7.160	185	152	168
1979/80	16.400	250	107	7.290	760	7.440	105	155	293
1980/81	15.442	216	107	5.996	885	7.653	104	161	320
平 均	14.400	277	109	5.691	716	7.099	119	162	228

表 2.8-3 ナシ：収 量 (kg/ha)

期 間	Total	Ba. As.	Córdoba	Mendoza	Neuquén	R. Negro	San Luis	Santa Fe	その他
1976/77	13.115	9.461	7.273	5.114	18.302	19.085	4.000	2.941	-
1977/78	10.870	10.000	9.091	2.907	15.151	17.101	2.700	2.941	-
1978/79	11.299	9.630	9.091	5.102	14.631	16.145	3.351	4.079	-
1979/80	9.451	9.800	4.019	4.101	14.079	14.355	2.667	5.064	-
1980/81	8.419	6.019	19.626	5.003	10.621	10.845	3.846	4.534	-
平 均	10.631	8.982	9.820	4.445	14.557	15.506	3.313	3.912	-

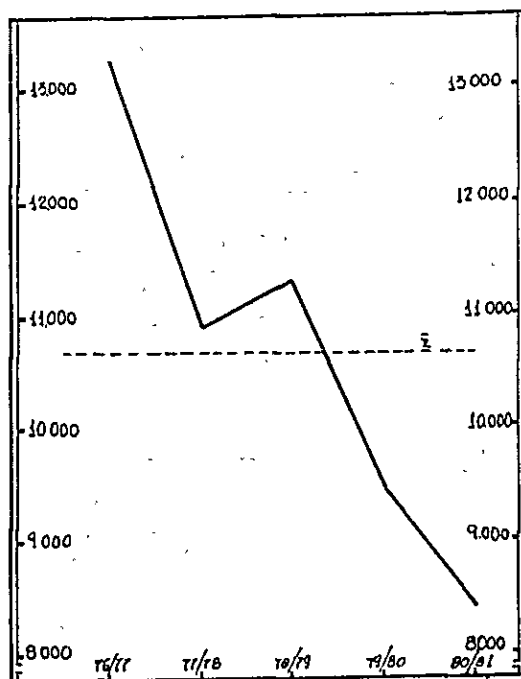
表 2.8-4 ナシ：生 産 量 (トン)

期 間	Total	Ba. As.	Córdoba	Mendoza	Neuquén	R. Negro	San Luis	Santa Fe	その他
1976/77	160.000	3.500	800	22.500	9.700	121.000	400	500	1.600
1977/78	150.000	2.800	1.000	15.700	10.000	118.000	270	500	1.730
1978/79	160.000	2.600	1.000	27.400	10.900	115.600	620	620	1.260
1979/80	155.000	2.450	430	29.900	10.700	106.800	280	785	437
1980/81	130.000	1.300	2.100	30.000	9.400	83.000	400	730	3.070
平 均	151.000	2.530	1.066	25.100	10.140	108.880	394	627	1.619

出典：農牧省及び独自の作成。

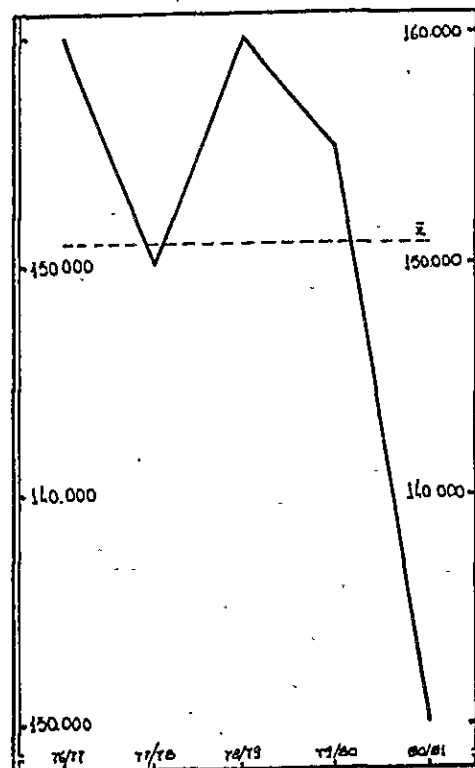
全栽培面積の半分を占めるリオ・ネグロが全生産量の約4分の3を生産している(図2.8-5)。これはその高い収量のためなのである(図2.8-6)。メンドサは全体の15%強を生産し、これに第1位のリオ・ネグロのものを加えると、国全体の約90%を両州で生産していることになる。

図 2.8-2 ナシ：収量の推移 (kg/ha)
1976/77~1980/81 5 か年間



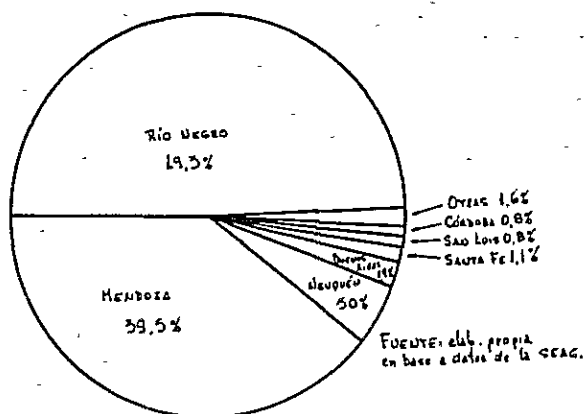
出典：農放省のデータに基づく独自の作成。

図 2.8-3 ナシ：生産量の推移 (トン)
1976/77~1980/81 5 か年間



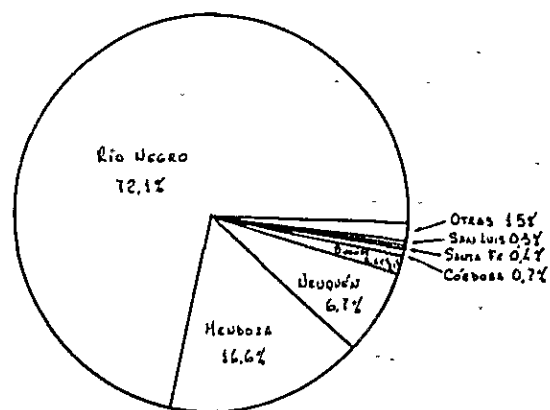
出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

図 2.8-4 ナシ：栽培面積のパーセント
表示 (1976/77~1980/81 平均)



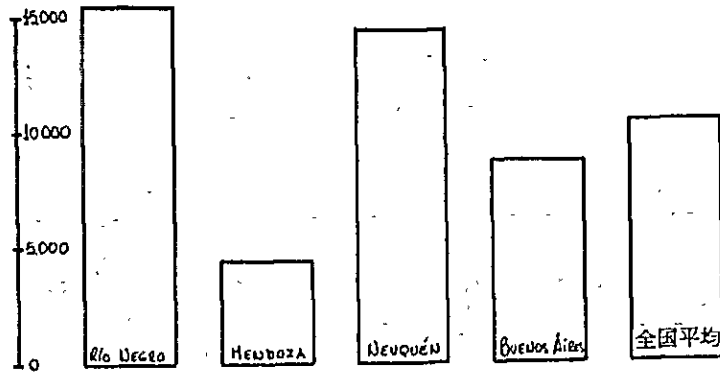
出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

図 2.8-5 ナシ：生産量のパーセント
表示 (1976/77~1980/81 平均)



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

図 2.8-6 ナシ：主要生産州の平均収量 (kg/ha)
1976/77 ~ 1980/81 5 か年平均



出典：農牧省のデータに基づく独自の作成。

2.8.2 流通及び新鮮商品の消費

ナシの消費（推定）は年当り 2.6 kg / 国民一人であり、これは全果物消費額の 2.4 % を占める数字である（表 2.8-5）。

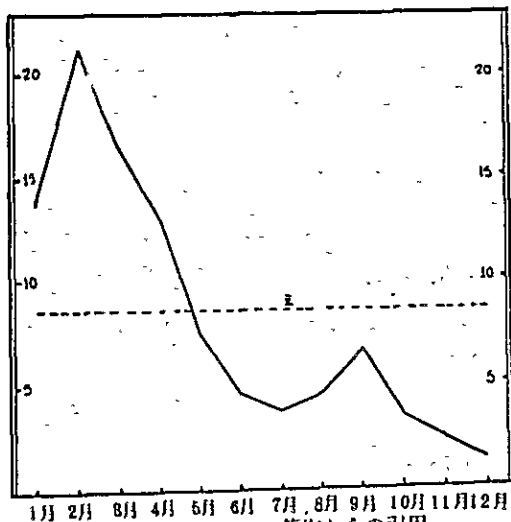
ナシの流通量は季節による変動が大きい（図 2.8-7）。1 月以降に大量入荷が始まり、これが 4 月迄続く。この理由は、貯蔵が 3 か月以上は出来ない

表 2.8-5 ナシ：消費（推定）
(kg/国民一人、年当り)

年	全果物	ナシ	%
1970	118,178	2,379	2.0
1971	121,339	1,932	1.6
1972	106,537	2,671	2.5
1973	96,552	1,295	1.3
1974	126,701	3,072	2.4
1975	114,083	2,520	2.2
1976	104,313	2,890	2.8
1977	114,095	3,484	3.0
1978	95,168	2,720	2.9
1979	109,099	3,462	3.2
平均	110,607	2,642	2.4

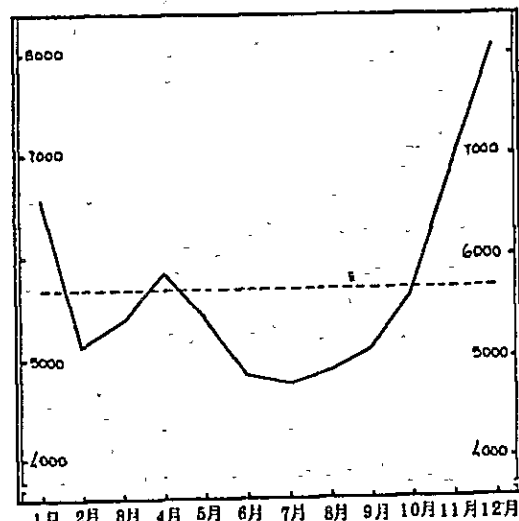
出典：フランシスコ・ヒオビオの著作から引用

図 2.8-7 ナシ：ドレゴ市場入荷量 (1967/76 平均) 各年全入荷量に対するパーセント表示



出典：農政省-JICA の著作からの引用

図 2.8-8 ナシ：月別価格 (1972/81 10 年間平均) (1981.12 現在のペソで表示 kg 当り) *



出典：連邦首都アバスト市場のデータに基づく独自の作成

* 一般卸売物価指数 基準 1960=100 による実質化

が良品質のWilliams種が入荷することによる。4月以降は貯蔵は長期間出来るが品質の劣る品種の入荷となるから、その数量は減少し始める。8月と9月に上昇が見られるのは品質を損なうことを避けるためにナシを乾燥室で乾燥させたものが入荷して来ることによる。

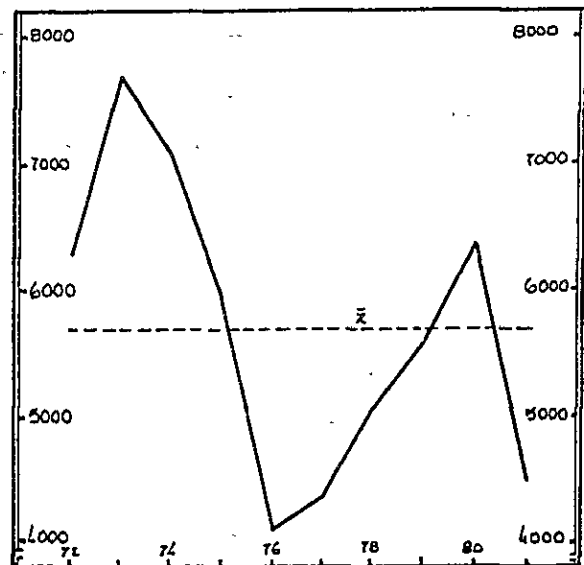
これ以降、価格は12月迄上昇する（

図2-8-8）。1月から4月の間に良品種のが大量に流通する一方で他の果物の入荷が乏しいため、価格は平均値の付近にある。価格は7月が最も安い。

各年毎の価格の推移には明白な周期的傾向が見られ、現在は下降段階に入っている（図2-8-9）。

表2-8-6及び2-8-7に、該当10年間の月別価格を当時の貨幣水準と現在の水準とで表わしたものをそれぞれ示す。

図2-8-9 ナシ：年別平均価格 1981.12
現在のペソで表示 kg当り*



出典：連邦首都アバスト市場のデータに基づく独自の作成。

* 一般卸売物価指数 基準1960 = 100による実質化

表 2-8-6 ナシ：月別平均価格（当時のペソで表示 kg当り）

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1972	1,6	1,6	1,9	1,9	1,7	1,5	1,4	1,5	1,9	2,5	3,8	4,7
1973	3,6	3,7	4,4	4,6	4,5	3,7	3,4	3,4	3,3	4,9	4,5	4,8
1974	4,0	3,4	3,4	4,3	3,7	4,0	4,2	5,1	5,0	5,6	6,4	-
1975	6,2	4,9	6,1	7,1	7,5	7,6	7,6	7,8	11,7	15,7	20,9	27,0
1976	27,4	27,6	28,7	32,3	37,0	37,5	37,5	40,0	49,4	60,2	66,0	87,0
1977	88,9	69,7	78,4	90,0	96,9	102,5	106,8	113,1	142,2	170,5	207,1	240,0
1978	253,4	178,7	254,0	307,9	288,0	292,1	320,0	368,2	382,5	395,2	512,5	625,0
1979	750,0	644,2	641,0	708,0	783,0	716,0	826,3	836,3	988,8	1000,0	1421,0	2300,0
1980	1325,0	1228,0	1184,0	1480,0	1391,0	1812,0	2047,0	2184,0	2200,0	2246,0	3087,0	3419,0
1981	2548,0	1484,0	1857,0	2479,0	2353,0	2104,0	2344,0	2845,0	2900,0	2312,0	4800,0	5000,0

出典：連邦首都アバスト市場。

表 2.8-7 ナシ：月別平均価格（1981.12 現在のペソで表示 kg 当り）＊

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
1972	5978	5350	6179	6014	5250	4360	3807	4151	4785	6146	9227	13545	6233
1973	8036	7686	8733	8737	8075	6811	6333	6113	6091	8790	8268	8611	7690
1974	7147	6063	6147	7476	6162	6452	6578	7763	7355	8011	8711	-	7079
1975	7730	5375	6370	7115	7134	5089	3832	3412	4525	5592	6750	7963	5907
1976	6762	5302	3579	3191	3487	3375	3181	3137	3564	4156	4268	5278	4107
1977	4743	3475	3761	4084	4135	4103	4044	3803	4460	4705	5302	5898	4376
1978	5648	3774	4930	5477	4701	4551	4751	5032	4901	4606	5504	6311	5015
1979	6882	5476	5042	5231	5307	4393	4715	4162	4675	4679	6427	10148	5595
1980	5606	4989	4632	5574	4971	6034	6622	6866	6721	6511	8718	9580	6402
1981	6969	3858	4607	5474	4809	3623	3577	3972	3779	2839	5309	5000	4485
平均	6550	5135	5398	5837	5403	4879	4744	4841	5086	5603	6848	8037	5697

出典：連邦首都アバスト市場のデータに基づく独自の作成。 ＊一般卸売物価指数 基準 1960=100

2.8.3 加工

CAVI の推定によれば、ナシのかん詰の生産量は、1 kg 入りかん詰が年当り平均 100 万個である。この数字は、1976 年にルチニが算出した数字をかなり上回っている—リカルド・ルチニの著作からの引用—。

一般的に言
って、ナシの

表 2.8-8 ナシ：メンドサ州生産品の用途

期 間	生のままの出荷		加 工		州内消費		合 計 (2)	
	tn	%	tn	%	tn	%	tn	%
1971/72	2,479,9	41,8	2,858,7	47,8	624,5	10,4	5,981,1	100,0
1972/73	3,842,6	39,5	4,922,0	50,6	960,7	9,8	9,725,3	100,0
1973/74	3,424,2	33,7	5,875,9	57,9	856,1	8,4	10,156,2	100,0
1976/77	2,371,6	31,0	4,677,5	61,2	592,9	7,8	7,642,0	100,0
1977/78	1,571,2	28,6	3,533,1	64,3	392,8	7,1	5,497,1	100,0
平均	2,741,5	35,1	4,373,4	56,1	685,4	8,8	7,800,3	100,0

出典：DEIE 及び CAFIM 及び独自の作成。

この意味で

特に目立つの

表 2.8-9 メンドサ加工製品数量（単位 千）

製 品	1971/72	1972/73	1973/74	1976/77	1977/78	平均
砂糖づけ及びマーマレード						
（ ½ kg 容器）	163	902	139,1	313,2	605,2	424,5
（ 1 kg 容器）	1,119	186	1,076,1	-	-	476,2
（ 5 kg 容器）	26	27	67,7	114,5	112,5	69,5
生食用加工						
（kg）	499	1,257	3,050,8	1,040,1	371,3	1,243,6
乾燥品						
（kg）	51,4	106,1	196,8	257,9	133,7	149,2

出典：DEIE 及び CAFIM

（表 2.8-8）。

同様に、こ

の州が国内のナシのかん詰の全量を生産している（表2.8-9）。生食用加工が最も重要である（表2.8-10）。

メンドサでの原料価格、製品価格及び金額を表2.8-11 から2.8-14 迄に示す。

表2.8-10 ナシ：各工工製品の比較（1971/72, 1972/73, 1973/74, 1976/77, 1977/78 平均）

製 品	tn	%
生食用加工	1.243,6	51,2
砂糖づけ及びマーマレード	1.035,9	42,7
乾 燥 品	149,2	6,1
合 計	2.428,7	100,0

出典：DEIE及びCAFIMのデータに基づく独自の作成。

表2.8-11 ナシ：メンドサ内、原料価格及び製品価格
（当時のペソで表示 単位当り）

製 品	1971/72	1972/73	1973/74	1976/77	1977/78
加工場内原料 果 物 (kg)	0,35	2,35	1,37	21,24	54,00
砂糖づけ及びマーマレード (½ kg容器)	-	-	-	181,00	487,64
(1 kg容器)	2,62	8,79	-	-	-
(5 kg容器)	10,34	16,38	-	661,10	-
生食加工用 (1 kg容器)	3,25	6,76	6,08	224,90	803,88
乾 燥 品 (kg)	4,89	15,99	10,24	360,80	793,87

出典：DEIE

表2.8-12 ナシ：メンドサ内、原料価格及び製品価格
（1981.12 現在のペソで表示 単位当り）*

製 品	1971/72	1972/73	1973/74	1976/77	1977/78	平 均
加工場内原料 果 物 (kg)	1.200	4.935	2.450	1.059	1.143	2.157
砂糖づけ及びマーマレード (½ kg容器)	-	-	-	9.025	10.321	9.673
(1 kg容器)	8.984	18.458	-	-	-	13.721
(5 kg容器)	35.458	34.397	-	32.963	-	34.273
生食加工用(1 kg容器)	11.145	14.195	10.874	11.214	17.015	12.889
乾 燥 品 (kg)	16.755	33.578	18.314	17.990	16.803	20.688

出典：DEIEのデータに基づく独自の作成。

* 一般卸売物価指数 基準1960 = 100 による実質化。

表2.8-13 ナシ：メンドサ主要加工製品金額
（当時のペソで表示 単位当り）

期 間	合 計		生食加工用		砂糖づけ及びマーマレード		乾 燥 品	
	\$	%	\$	%	\$	%	\$	%
1971/72	5479260	100,0	1621750	29,6	3503230	65,8	254280	4,6
1972/73	15778148	100,0	8511208	53,9	5570401	35,3	1696539	10,8
1973/74	21057900	100,0	18548900	88,1	493800	2,3	2015200	9,6
1976/77	375571400	100,0	233918500	62,3	132385200	35,2	9267700	2,5
1977/78	868491200	100,0	298508000	34,4	463882000	53,4	106101200	12,2

出典：DEIE

この項の最後
として、生産者
が取得する価格
と連邦首都市場
での相場との比
較を行なうが、
生産者は、平均
して、市場での
相場の約半分の
価格を得ている
ことが解る。

表 2.8-14 ナシ：メンドサ主要加工製品金額
(1981,12 現在のペソで表示 100 万ペソ) *

期 間	合 計		生食加工用		砂糖づけ及びマーマレード		乾 燥 品	
	ペソ	%	ペソ	%	ペソ	%	ペソ	%
1971/72	18.790	100,0	5.561	29,6	12.356	65,8	872	4,6
1972/73	33.133	100,0	17.873	53,9	11.697	35,3	3.563	10,8
1973/74	37.662	100,0	33.175	88,1	883	2,3	3.604	9,6
1976/77	18.726	100,0	11.663	62,3	6.601	35,2	462	2,5
1977/78	18.382	100,0	6.318	34,4	9.818	53,4	2.246	12,2
Promedio	25.339	100,0	14.918	58,9	8.271	32,6	2.149	8,5

出典：DEIE のデータに基づく独自の作成。

* 一般卸売物価指数 基準 1960 = 100 による実質化。

表 2.8-15 ナシ：メンドサ州内の価格と連邦首都
アバスト市場の価格との比較

期 間	工場内、消費 用新鮮商品	加工場内 加工用商品	アバストでの 新鮮商品 (2月)
1971/72	32,1	22,4	100,0
1972/73	58,5	64,2	100,0
1973/74	44,2	40,4	100,0
1976/77	28,7	30,4	100,0
1977/78	68,9	77,5	100,0
平 均	46,5	47,0	100,0

出典：DEIE 及びアバスト市場のデータに基づく独自の作成。

2.8.4 貿 易
生食用ナシの
輸出量は全生産
量の約 40% を
占めている。表

2.8-16 に、最近の輸出品
金額及び価格を示す。

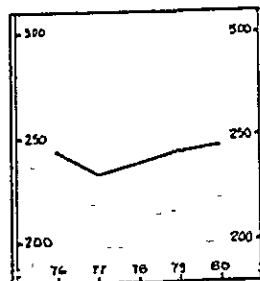
表 2.8-16 ナシ：新鮮商品の輸出品額

年	数 量 (トン)	FOB 金額 (US\$)	FOB 価格 (US\$/トン)
1970	37.947	7.748.090	204
1971	28.284	5.528.422	195
1972	33.538	7.193.510	214
1973	11.739	5.597.808	477
1974	32.528	10.855.278	334
1975	32.814	14.257.207	434
1976	47.970	19.389.927	404
1977	68.642	28.211.839	411
1978	77.751	35.225.578	453
1979	66.911	34.952.071	522
1980	47.638	29.381.790	617
1981 (1)	19.738	13.550.454	686

図 2.8-10 は、当時の貨
幣水準で表示した国際価
格の推移である。1975 年
と 1977 年の間に於て実
質価格は下降傾向を示し
ている (図 2.8-17)。こ
れは、リンゴの輸出状況

出典：INDEC (1) 3月迄

図 2.8-10 ナシ：
新鮮商品の F
OB 価格の推移
(US\$/トン) *



出典：農牧省及び
INDEC のデータ
に基づく独自の作
成

表 2.8-17 ナシ
：実質 FOB
価格 (US\$
/トン) *

Pera: precios FOB reales (u\$s/tn)(1)		
年	価 格	
1970	204	
1971	188	
1972	201	
1973	417	
1974	239	
1975	278	
1976	244	
1977	232	

出典：経済省。アル
ゼンティン農牧部
門の現状と展望

* U S A 工業卸物価指数 基準 1970=100 による修正計算

の項で述べた事と同様の理由である。

輸入量の多い国は、ブラジル、オランダ、イタリア、西独及びスウェーデンである（表2.8-18）。

加工製品の輸出額は、表2.8-19及び2.8-20と図

2.8-11 から2.8-

14 迄に示されている通りに大きな変動がある。最も大きな製品はかん詰である。このかん詰の主要輸入国はブラジルとパラグアイである（表2.8-21）。

表 2.8-18 ナシ：仕向先国別輸出品 （箱入れ）

国	1978	1979	1980	1981
ブラジル	2,503.763	1,983.409	1,372.541	1,025.731
オランダ	365.227	354.618	170.094	133.323
西 独	155.870	299.435	187.025	104.066
スウェーデン	161.198	167.995	159.825	65.921
ノルウェー	18.874	35.422	20.482	10.574
フランス	28.648	128.195	31.442	-
ベネズエラ	124.920	19.598	5.232	8.170
イタリア	218.140	282.773	398.347	383.042
ボリヴィア	7.714	3.294	1.150	1.232
サウジアラビア	8.270	-	-	-
ド バ イ	11.518	1.856	-	-
パラグアイ	9.980	21.700	200.	10.325
オランダ領アンティリス諸島	525	-	-	-
キューバ	-	3.222	-	-
象牙海岸	-	160	-	-
パナマ	-	-	1,242	-
コロンビア	-	-	-	900
TOTAL	3,614.647	3,301.677	2,347.580	1,743.284

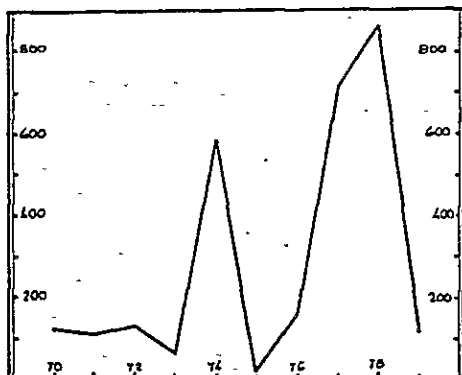
出典：ガブリエル有限会社

表 2.8-19 ナシのかん詰の輸出品

年	数 量(トン)	価 格(千US\$)
1970	123,8	40,9
1971	108,3	34,4
1972	136,8	41,3
1973	62,8	41,5
1974	588,9	285,5
1975	28,8	22,0
1976	153,9	65,7
1977	707,3	301,0
1978	869,6	417,7
1979	111,0	95,3
TOTAL	2,890,4	1,345,3

出典：FAVI

図 2.8-11 ナシのかん詰の輸出品数量推移 (トン)



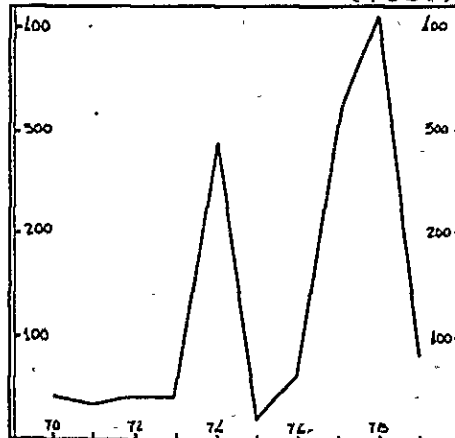
出典：FAVI のデータに基づく独自の作成。

表 2.8-20 乾燥ナシの輸出品

年	数 量(トン)	価 格(千US\$)
1970	234,3	144,1
1971	180,0	109,5
1972	96,2	78,7
1973	39,4	66,3
1974	183,6	102,4
1975	83,4	78,4
1976	105,0	105,3
1977	149,4	174,9
1978	133,2	181,2
1979	79,4	121,1
TOTAL	1,283,9	1,161,9

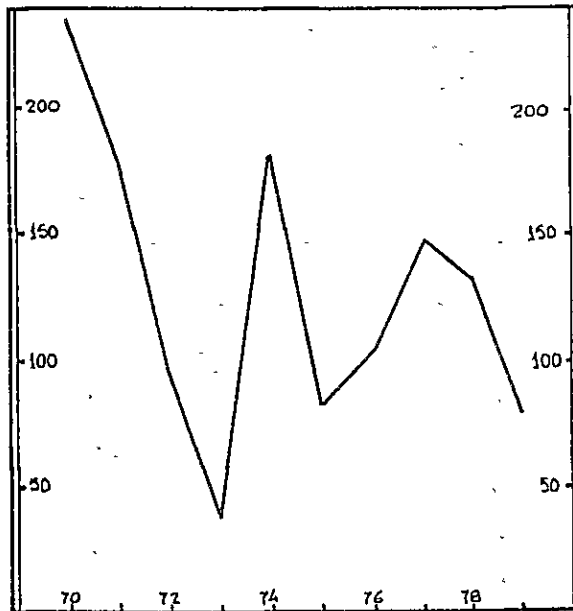
出典：FAVI

図 2.8-12 乾燥ナシの輸出品金額の推移 (千US\$)



出典：FAVI のデータに基づく独自の作成。

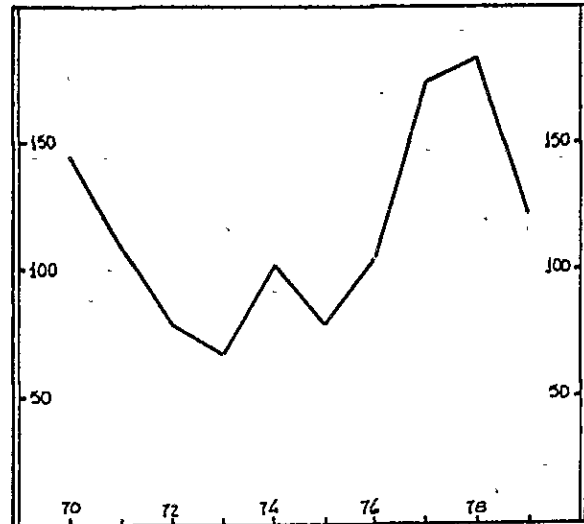
図 2.8-13 乾燥ナシの輸出量の推移(トン)



出典：FAVIのデータに基づく独自の作成。

図 2.8-14 乾燥ナシの輸出金額の推移

(千US\$)



出典：FAVIのデータに基づく独自の作成。

表 2.8-21 ナシのかん詰の主要輸出先国

年	ブラジル	オランダ	パラグアイ	ペルー	英 国	年	ブラジル	オランダ	パラグアイ	ペルー	英 国
1969	4,9	-	10,2	10,4	-	1969	1,5	-	2,5	7,3	-
1970	5,1	-	15,5	101,0	-	1970	1,9	-	3,0	34,7	-
1971	5,4	-	11,0	40,0	-	1971	17,7	-	3,2	13,3	-
1972	124,1	-	2,0	-	-	1972	40,5	-	0,0	-	-
1973	52,0	-	9,2	-	-	1973	34,3	-	5,0	-	-
1974	394,0	-	10,3	71,6	-	1974	190,5	-	7,3	30,0	-
1975	25,2	-	2,0	-	-	1975	20,4	-	1,2	-	-
1976	30,1	0,0	42,6	-	-	1976	21,9	0,5	17,7	-	-
1977	500,7	-	44,3	-	-	1977	221,4	-	17,0	-	-
1978	200,0	44,4	40,9	-	-	1978	115,0	10,0	27,0	-	-
1979	-	-	100,2	-	-	1979	-	-	91,0	-	-

他の主要輸出先国					他の主要輸出先国				
西 独	:	年	1970:	400,0	西 独	:	年	1970:	101,7
コロンビア	:	年	1979:	4,0	コロンビア	:	年	1979:	3,5
コスタリカ	:	年	1974:	09,0	コスタリカ	:	年	1974:	37,5
デンマーク	:	年	1970:	107,5	デンマーク	:	年	1970:	40,2
スウェーデン	:	年	1974:	15,3	スウェーデン	:	年	1974:	0,3

出典：FAVI